332.24
N629r2

0022404000

0022404-000

３３２．２４－Ｎ６２９ｒ２

蘭領印度の経済現勢

南洋協会

1936

ADC

南洋研究叢書第二十三篇

蘭領印度の經濟現勢

東京 南洋協會

3922

4

南洋研究叢書第二十三篇

蘭領印度の經濟現勢

東京　南洋協會

332.24
N629r2

凡例

一、本書は前本會スラバヤ商品陳列所長技師龍寶　齋君の執筆に成れるものにして主として昭和十年度（一九三五年一月乃至十二月迄）の蘭印に於ける經濟的現勢を擧げ、以て大衆の參考に資せんとするものなり。

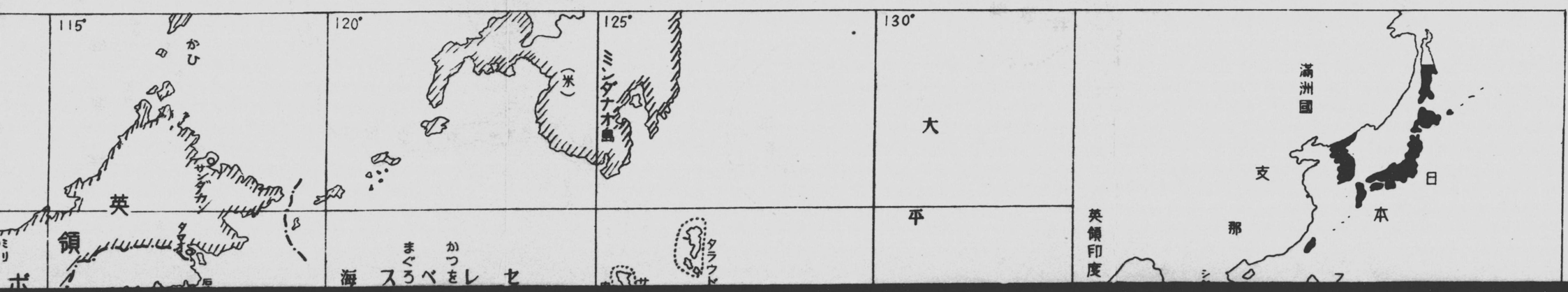
一、本書には之の外右筆者の意見をも登載せり。

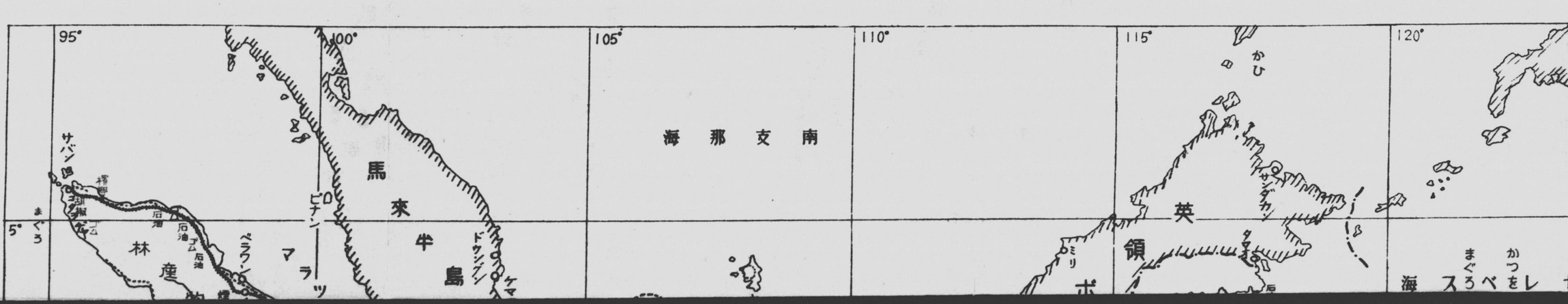
昭和十一年六月

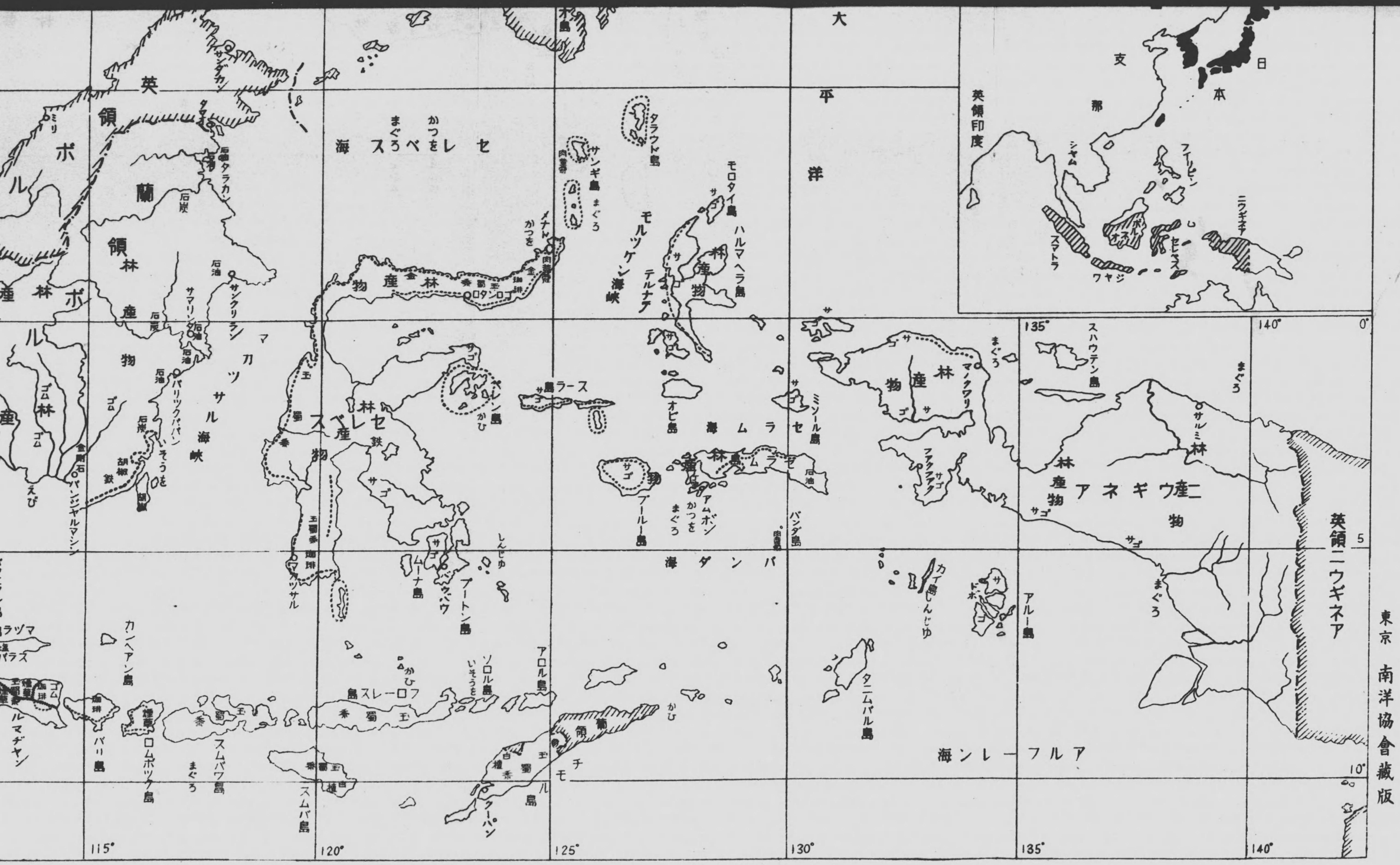
東京　南洋協會

39221

蘭領印度物産地圖（一千万分の一略圖）

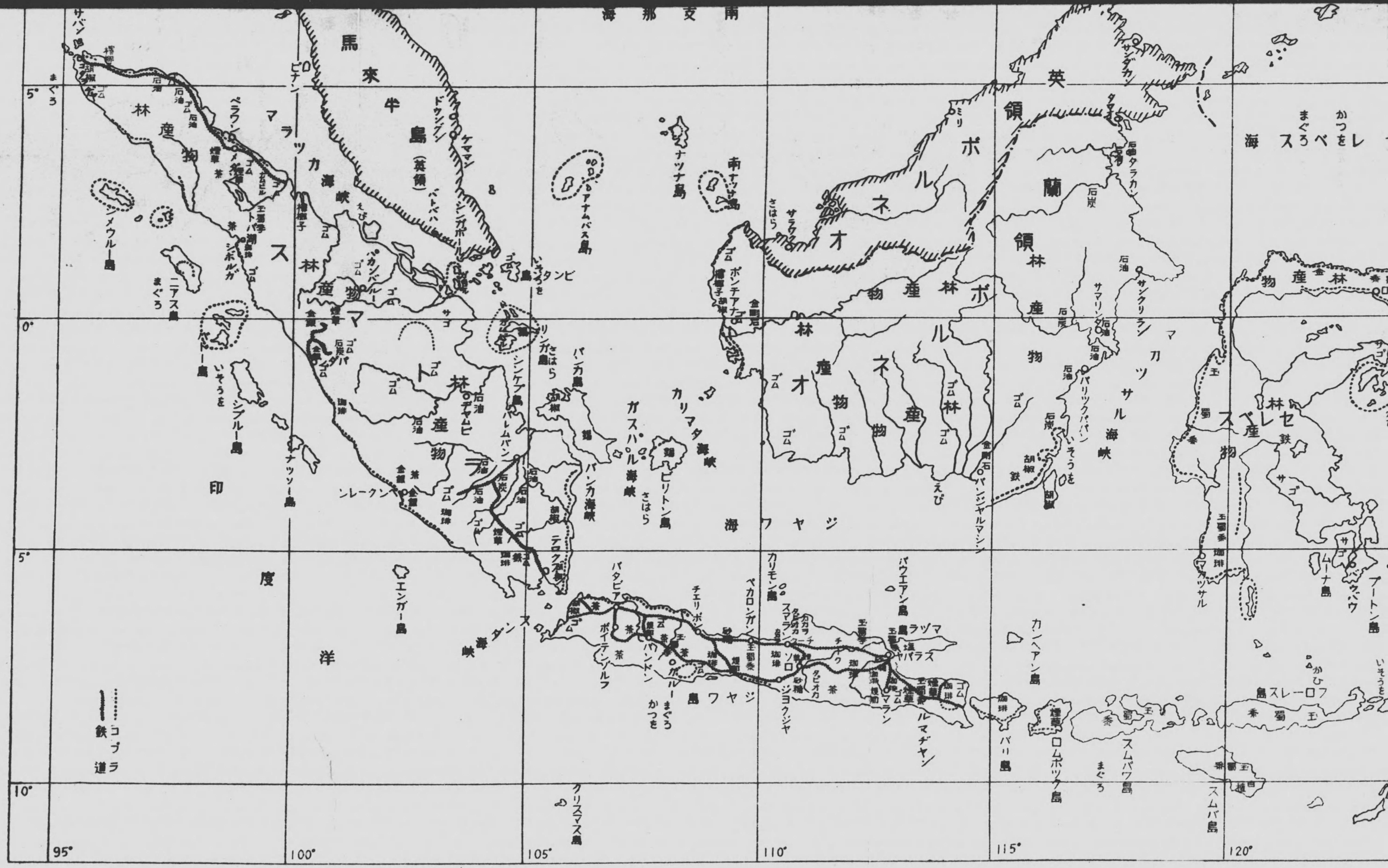



95°
100°
105°
110°
115°
120°
5°
海 那 支 南
馬 來 半 島
マ ラ ッ
ピナン
ドウンゲン
ケマ
ペラワン
石油
林 産
サバン
ゴム
ミリ
かひ
サンダカン
英 領
ボ
海 スベ レ
まぐろ
かつを



英領印度
支那
日本
シャム
フィリピン
ニウギネア
スマトラ
ボルネオ
セレベス
ワヤジ
大平洋
セレベス海
英領ボルネオ
蘭領ボルネオ
蘭領
林産物
金
石油
石炭
サンクリラン
マカッサル海峡
バリックパパン
ゴム
胡椒
鉄
玉
黍
珈琲
煙草
タラウド島
サンギ島
まぐろ
モルッケン海峡
モロタイ島
ハルマヘラ島
テルナテ
メナド
かつを
ロタンロコ
ペレン島
かひ
ミソール島
オビ島
セラム海
アムボン
ブールー島
バンダ島
バンダ海
カイ島
しんじゅ
ドボ
アルー島
タニムバル島
アルー海
スハウテン島
マノクワリ
ファクファク
サルミ
ニウギネア
英領ニウギネア
ムーナ島
バウバウ
プートン島
ソロル島
アロル島
スレーロフ島
スムバワ島
スムバ島
バリ島
ロムボック島
カンヘアン島
ルマヒヤン
ラツマ
クーパン
モルチ島
135°
140°
0°
5
10°
115°
120°
125°
130°

東京 南洋協會藏版



南支那海
馬來半島
(英領)
マラツカ海峡
林産物
ペラワン
ピナン
ドウンゲン
ケママン
ベトバハ
シンガポール
アナムバス島
ナツナ島
南ナツナ島
サラワク
さはら
ミリ
英領
ボルネオ
蘭領
ボルネオ
林産物
ボルネオ
林産物
サンダカン
タラカン
石油
サンクリラン
サマリンダ
バリツクパパン
マカツサル海峡
ジヤワ海
カリマタ海峡
ガスパル海峡
ビリトン島
バンカ海峡
バンカ島
シンケプ島
リンガ島
パレムバン
デヤムビ
ナツソー島
シブルー島
ニアス島
シメウルー島
ベトー島
いそうを
エンガー島
印度洋
スンダ海峡
バタビア
ボイテンゾルフ
バンドン
チエリボン
ペカロンガン
カリモン島
スマラン
ソロ
ジヨクジヤ
ルマヂヤン
バウエアン島
マツラ島
カンヘアン島
バリ島
ロムボツク島
スムバワ島
スムバ島
スレーロフ島
ムーナ島
ブートン島
かひ
いそうを
クリスマス島
コブラ
鉄道
5°
0°
5°
10°
95°
100°
105°
110°
115°
120°

目次

上篇　蘭領印度經濟現勢概要……一
第一章　序說……一
第二章　產業情勢概要……三
第一節　農業……三
第二節　林業・牧畜業・漁業……一五
第三節　鑛業……一七
第四節　工業……一九
第五節　商業……一五
第六節　海運業……一七
第三章　貿易政策……三一
第一節　概要……三一
第二節　輸入貿易政策……三二

第三節　輸出貿易政策……五六
第四章　蘭人經濟の擁護……五六
中編　蘭領印度經濟主要統計……五九
第一章　財　政……七一
第一節　概　要……七一
第二節　國庫收入概況……七一
第三節　國　債……七九
第四節　鑄貨狀況……八一
第二章　金融市場……八二
第一節　爪哇銀行……八二
第二節　其他の金融機關……八九
第三章　證券市場……九七
第四章　爲　替……九九
第一節　對日替爲……九九

第二節　其他の諸國……一〇〇
第五章　物價及生活費……一〇一
第一節　物　價……一〇一
第二節　生活費……一〇四
第六章　產　業……一〇八
第一節　農　業……一〇八
第二節　鑛　業……一一〇
第三節　林　業……一一三
第四節　牧畜業及漁業……一一六
第五節　工　業……一一九
第六節　動　力……一二七
第七節　勞　働……一三一
第七章　貿　易……一四〇
第一節　概　況……一四〇
第二節　輸入貿易……一四六
第三節　輸出貿易……一五二

第四節　主要相手國との貿易情況……一六〇
第五節　織物輸入貿易統計……一六四
第六節　對日貿易……一六七
下編　邦人經濟の概況……一七〇
第一章　概要……一七〇
第一節　緒……一七〇
第二節　輸入業……一七七
第三節　小賣雜貨業……一八七
第四節　入國制限問題……一八九
第五節　農企業及其他産業……一九四
第六節　ニューギニア拓植……一九九
第七節　結……二〇一
第二章　南方提携序論……二〇一
第一節　我帝國の南方策……二〇一
第二節　要論……二〇二
四
蘭領印度の經濟現勢（一九三六年版）
上篇　蘭領印度經濟現勢概要
第一章　序說

一九二九年紐育ウオール街に勃發したる不況襲來の暴風は世界各國を脅かし、以て現在の世界不況に陷りたる處、蘭領印度亦勿論之を免るべからず。唯單に原料生産國輸出超過國として其の襲來に若干の遲延を見たるのみなり。今蘭領印度經濟の重要指數を見るに、以てこの一班を察知し得べし。

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
爪哇銀行紙幣流通額	一〇〇	九七	八六	七七	七〇	六三	五九	五六
輸入額	一〇〇	八六	五七	五七	四一	三三	三〇	二九
輸出額	一〇〇	九一	七六	五一	三七	三一	三三	三〇
輸入商品卸賣物價	一〇〇	九九	九三	七四	五九	五一	四九	四八
輸出物産物價	一〇〇	九五	六五	四五	三四	三四	三七	三六
爪哇に於ける米價	一〇〇	一〇二	九三	五九	四四	三四	三六	三八

土人食料品物價		一〇〇	一〇六	一〇二	六九	五一	四二	四一	四三
主要株式價格		一〇〇	九四	七一	四七	二八	二九	二八	二九
アムステルダム銀行	配當(%)	九・五	九・五	八・〇	—	—	四・〇	四・〇	—
	株價 最低	一八〇	一八〇	一五四・五	八九½	六五½	一〇二½	九二½	—
	株價 最高	一九〇	一九八	一九四	一七八½	一一一	一〇三½	一一六½	—
爪哇銀行	配當(%)	一七	一七・五	一八	一四	六	八・五	九・五	八
	株價 最低	三一五	三〇二・五	二四七・五	二二七・五	一四〇	一七二	一九九	—
	株價 最高	三四七・五	三二五	三一六	二九二	一九七½	二一五	二三七・五	—

（註）和蘭本國アムステルダム銀行（資本金一億盾）と爪哇銀行（資本金九百萬盾）との配當並に株價を對照するに次の如し。

株價は拂込額面額に對する百分率とする。

右の如く、一九三〇年來經濟界は一路下押しに進み一九三五年に至る迄逐年低下を示せり。但し中には右表の如く一九三四年を最低とし一九三五年に入りて若干上向けるものなきにしも非ざるも大勢は尚ほ依然不況に低迷せるの實情に在り。

而して右蘭領印度の經濟指數を和蘭本國に於けると對照するに（註）、略右と同樣の傾向にして以て和蘭經濟が蘭印經濟に依倚せるの一證とも見得らるべし。

蘭領印度經濟界の不況の輪廓略々如斯。之れ所謂蘭印の經濟非常時にして、從つて蘭印政府に於てはこの非常時打開に最善の努力を致しつゝある處なり。これに關する概要並に諸統計を以下に概述せんとす。

第二章　産業情勢概要

領內產業の振興については蘭印政府頗る努力しつゝある處なるも今尚ほ振興するに至らずして一九三五年を終へたり。たゞ一時的に業界に小康を呈せるものは有りと雖も、其の之も單に政府が應急的に匹迫する業界の苦難を彌縫せんとするの努力に趁はるゝに過ぎざるものゝ如く、從つて今尚ほ將來に於ける好轉の曙光を認め得るに至らず。

今各種產業の中主要なるものにつき概要を觀ん。

第一節　農　業

一

領內產業の振興に就て、蘭領政府が主點を置けるは農業特に輸出農業卽ち農園農業就中糖業を以て最たるものとす。

（一）

爪哇に於ける製糖業は其の最盛時生產高三百萬噸、世界輸出砂糖界に頗る優秀なる地位を占めしが、世界不況と共に一九三一年來輸出停頓價格低落を來して一九三四年に至つては僅かに六十萬噸に減產せり（註一）（註二）。この糖業界不況が蘭印經濟の各部門機構に亘りて大不況を及ぼしたる處最も甚大なるものなり。

（註一）蘭印砂糖の生產高左の如し。（單位千噸）

一九三〇年	二、九一六	一九三一年	二、四〇〇	一九三二年	一、九〇〇	一九三三年	一、四〇〇	一九三四年	一、〇〇〇

一九三一年	二、七七二
一九三二年	二、五六〇
一九三三年	一、三七三
一九三四年	六四四
一九三五年	五一四
一九三六年(豫想)	六〇〇

(註二) 砂糖の輸出價格卸値平均左の如し。(百斤につき單位盾)

一九三〇年	中双 九・六〇	白双 一〇・六三
一九三一年	八・〇六	八・八三
一九三二年	六・二八	六・九一
一九三三年	五・六六	六・二八
一九三四年	五・六一	六・〇六
一九三五年	五・九五	六・四四

卽ち蘭印輸出産業を代表する製糖業の不況は上は金融界不振より各種産業の不振を招來し下は下級職業戰線に至る迄異變を及ぼし、こゝに所謂蘭印の經濟非常時を招來せるなり。貿易政策の轉換、和蘭人經濟擁護等全く主因を玆に置くものなり。然れども生産減少に伴ひ在庫量も減じ(註)、且又輸出に於ても稍々小康を呈し一九三五年に至りては糖業界の不況も略ぼ底を衝き市價も前述の如くに若干持ち直すに至れり。

(註) 輸出狀況左の如し。(單位千噸)

一九三一年	一、八六五
一九三二年	一、八八八
一九三三年	一、三八九

一九三四年	一、三八八
一九三五年	一、四一〇

蘭印在庫數量次の如し。(單位千噸)

一九三二年末	二、九三八
一九三三年末	二、七六二
一九三四年末	二、〇二一
一九三五年末	一、一四九
一九三六年末(豫想)	六六〇

然れども業界根本的甦生に尙ほ遺憾の點大なるものあり。乃ち業者に在りても業界內部の自發的改善に努力(註一)すると共に政府に於ても一九三六年一月積極的にこれに乘出し糖業保護の法令を公布し(註二) 斯界に漸く曙光を見得らるゝの趨勢に達したるものゝ如し。

(註一) 爪哇糖生産高は從來ヘクタール當り一六〇乃至一七〇キンタルと稱せられしが、生産制限に伴ひ優良地の選定管理の改善に努めて、一九三五年に於てはヘクタール當り二二一キンタルに達したる農園も見らるゝに至れり。

(註二) 一九三六年一月公布の法令次の如し。

(一) 一九三七—一九三九年砂糖生産規定

(二) 一九四〇年砂糖生産規定

(三) 一九三六年砂糖輸出條例

其他既公布のものは次の如し。

一九三四年砂糖輸入條例 (一九三四年四月)

一九三四年甘蔗栽植原料輸出制限令 (一九三四年八月)

甘蔗栽植原料輸出條例 (一九三五年三月)

一九三五年砂糖輸入條例 (一九三五年四月)

（二）

茶、護謨、規那等に於ては國際生産協定によりて斯界何れも稍々靜穩に經過せり。

茶は一九三三年の國際輸出協定により蘭領印度に於ては基準量の一七・五%と定めらるゝ處にして（註一）、從つて一九三五年輸出量に於ては既往に及ばざるも、市價昂騰によつて輸出金額に於ては一九三三年以前に比し却つて增加を見たり（註二）。但し之を一九三四年に比すれば、市價低落のため輸出金額に於て約二割の減少を見、從つて數年に比すれば市況も稍沈頽せるも、尙斯業若干の活況を續くることを得たり。

（註一）茶に關する諸法令左の如し。

非常時茶條例（一九三三年）

茶輸出條例（一九三三年）

非常時茶條例延長（一九三五年十月）—（一九四〇年迄實施期間延長さる）

（註二）輸出狀況次の如し。

	數量（瓲）	金額（千盾）
一九三〇年	八一、八六二	六九、五三〇
一九三一年	八九、七八四	五九、九七二
一九三二年	八九、五〇〇	三二、五四九
一九三三年	八一、四九七	二六、三六三
一九三四年	七二、九〇五	四四、八八九
一九三五年	七四、四七五	三六、七〇八

卸賣平均價格は次の如し。（半瓩につき單位盾）

一九三〇年	〇・四六
一九三一年	〇・三〇
一九三二年	〇・一七五
一九三三年	〇・二六
一九三四年	〇・三三五
一九三五年	〇・二六

（三）

護謨も亦國際協定による輸出制限生産制限を實施さるゝ處とす（註一）。乃ち蘭印に於ては農園護謨並に爪哇の土人栽培園に於ては生産制限を以てし外領の土人護謨に對しては輸出稅賦課（註二）を以てせるも生産割當の過大なりしと土人護謨制限の寬大なりしため、領內ストック低減には貢獻するに至らざりき。然れども市價引上（註三）には多大の效果あり、斯界小康狀態を持續するを得たり。

（註一）一九三五年に於ける生産標準量は二十四萬七千七百瓲なりしが、一九三六年に於ては農園ゴム標準生産量二十六萬八千六百瓲と決定、卽ち前年に比し二萬瓲の增に相當す。今一九三六年に於ける基礎輸出量を二十六萬二千四百瓲とすれば、右生産量は之を上回ることとなる。

而して標準生産量左の如し。

（一）資料完成したる千百八ゴム園の生産總量二十五萬九千八百瓲

（二）資料未完成の七十四ゴム園の生産總量八千七百瓲

（註二）土人ゴム輸出稅施設以來の稅額左の如し。（乾燥ゴム百瓩につき單位盾）

一九三四年六月一日	一〇
七月一日	一六
八月一日	二〇
十二月十六日	一六
一九三五年六月一日	一八

六月十六日	二〇	
六月廿九日	二一	
八月廿六日	二〇	
九月三十日	二二	
十月十三日	二三	
十月十六日	二四	
十月廿三日	二五	
十月三十日	二六	
十一月十一日	二九	
一九三六年二月十一日	三二	
三月二十日	三三	
四月 六日	三四	

（註三）蘭印ゴム卸賣平均價格を見るに次の如し。（シート並クレープ半瓩につき單位盾）

一九三〇年	〇・三〇五
一九三一年	〇・一五
一九三二年	〇・〇八五
一九三三年	〇・一〇五
一九三四年	〇・一九
一九三五年	〇・一八

而して土人護謨の輸出稅賦課による輸出統制は護謨價昂騰に伴つて輸出激增し、割當量を超過することも一切に留まらず、依つて政府に於ても再々輸出稅の引上を見たる處なるが對內的に觀れば之がために常に土人護謨界は壓迫されて土人經濟を霑すに至らざりき。加之土人護謨に對しても近く個別制限の實施を見るべき情勢に在り。農園護謨は

前述の如くに既に個別制限を實施され來りたる處、而して其の輸出許可料は一瓩當り一九三四年半仙、一九三五年四分の一仙なりしが一九三六年よりは無料とし輸出稅二仙を課せらるゝに至れり。

尙蘭印の輸出狀況並に割當量を見るに次の如し。

	生產高（噸）	輸出量（ネット噸）	國際協定割當量（英噸）
一九三〇年	？	二九二、〇〇八	—
一九三一年	？	三〇八、四四四	—
一九三二年	二一四、三八五	二五一、八七四	—
一九三三年	二八六、八二九	三五二、一六三	—
一九三四年	三八五、四八七	四六六、一二五	三五二、〇〇〇
一九三五年	二八七、三〇三	△三一三、七七三	四〇〇、〇〇〇
一九三六年			五〇〇、〇〇〇
一九三七年			五二〇、〇〇〇
一九三八年			五四〇、〇〇〇

備考　生產高は國際ゴム統制委員會發表數字に據る。輸出に於て△印は風袋込みとす。

護謨に關する法令の主なるものは左の如し。

非常時ゴム條例（一九三三年）
農園ゴム輸出條例（一九三四年五月）
土人ゴム輸出條例（一九三四年五月）
ゴム樹栽植原料輸出條例（一九三四年五月）
ゴム輸入條例（一九三四年五月）
ゴム栽培條例（一九三四年五月）

茶に在りても市價低落のために著しき不況を見たりしが、國際協定の成立によりて輸出制限を實施さるるに至り、蘭領印度の茶業も漸く不況を脫せんとするに至れり。而して協定による蘭印の割當率は一七・五%、其の協定割當數量は一九三三年度八五・〇%、一九三四年度八七・五%、一九三五年度八二・五%、一九三六年度八二・五%（註）とす。尚茶業に關する保護條例は次の如し。

非常時茶條例（一九三三年公布）
茶輸出條例（　〃　）

（註）基準割當量に對する輸出割當率は右の如し。年度は其年の四月より翌年の三月に至る一年間とす。

尚國際茶委員會は、印度、セイロン、蘭領印度の三大茶生產國による協定とす。

斯くて本協定によりて茶の市價は著しき昂騰を見（註一）一九三四年以來斯界著しく改善せられ、一九三五年亦この情勢を略々繼續することを得たり（註二）。

（註一）茶半斤に對する平均輸出價格左の如し。（單位盾）

一九三〇年	〇・四六
一九三一年	〇・三〇
一九三二年	〇・一七五
一九三三年	〇・二六
一九三四年	〇・三三五
一九三五年	〇・六二

（註二）蘭印茶の生產高並に輸出量次の如し。

	生產高（噸）	輸出高（噸）	輸出額（千盾）
一九三〇年	七一、九九一	八一、八六二	六九、五三〇
一九三一年	八一、三〇九	八九、七八四	五九、九七二
一九三二年	八一、九三七	八九、五〇〇	三二、五四九
一九三三年	七五、二九二	八一、四九七	二六、三六三
一九三四年	七一、二九三	七二、九〇五	四四、八八九
一九三五年	六六、九三四	七四、四七五	三六、七〇八

（五）

規那に對しては、非常時規那條例（一九三三年）、一九三四年規那輸出條例（一九三四年）、規那樹栽培條例（一九三四年）を公布され（註）植付禁止輸出制限等の對策によつて不況に對處しつゝあり。ために一九三四年來斯界略々平穩に經過し、斯界の內容も改善さるゝに至れる處とす。

（註）一九三五年に於ける規那皮輸出量は七十二萬瓩（四七・五%）と定めらる。

（六）

珈琲に於ては世界需要の減少と盾高による輸出困難にて市價低落し斯業尙引き續き不振に在り（註）、現在蘭印に於ける珈琲生產費は十二盾と稱せらるゝも市價は之を下廻り而も一九三五年に於ては旱魃のために生產減少し、從來一バウ當り十擔、優良地にては十五擔に達せる處なるも一九三六年に於ては八擔程度に過ぎざるべしと稱せらる。而して蘭印珈琲生產高の五一%は土人珈琲の占むる處なるを以て、土人經濟界に對する影響特に淺からざるものあり。政府に於ては或は外國珈琲の輸入稅賦課若しくは適當なる他の對策攻究中なりしが本年三月に至つて和蘭本國に於て珈琲輸入制限を實施することとなりこれに對する非常時輸入稅（一瓩につき十二仙）の收益を以て爪哇珈琲救濟に當つるものの如し。

尙蘭印珈琲の生產高並に輸出高は左の如し。

	生産高(瓲)	輸出高(瓲)	輸出額(千盾)
一九三〇年	四〇、三一三	六二、七四八	三五、六六五
一九三一年	四八、七四五	七〇、〇五六	二四、一六八
一九三二年	六二、七一四	一一五、七三四	三五、一九五
一九三三年	五六、七〇二	七二、二六三	二五、六三一
一九三四年	六四、二七七	八三、二五一	二二、五〇三
一九三五年	五〇、三八七	八二、八八三	一八、六五三

(註) 珈琲の各年卸賣價格平均次の如し。(百瓲につき單位盾)

一九三〇年	五二、九〇	一九三三年	三一、八七
一九三一年	三六、三〇	一九三四年	二五、九七
一九三二年	三九、〇三	一九三五年	二〇、一二

(七)

カポツクに於ても屑高と輸出不振(註一)によりて萎微し、匡救策攻究されつゝあり。卽ち本類品種の改良を行ひ且其の精製を爪哇にて行ふこと、主要市場たる米國の確保及新市場への伸暢、並に運賃の低下等に努めらるゝものの如く、而して基礎策としてボイテンゾルフにカポツク研究所の設立を見たり。但し本類に於ては生産制限等の必要無しとされ現在に於ては單に輸出制限さるゝに過ぎず(註二)。

(註一) カポツク生産高輸出高左の如し。生産高は農園のみ。

	綿生産高(瓲)	實綿生産高(瓲)	繰綿生産高(瓲)	繰綿輸出高(ネツト瓲)	實綿輸出高(瓲)	輸出額計(千盾)
一九三〇年	二一、二七九	五二七	一、五八七	一九、一八七	四九八	一五、六七〇
一九三一年	二五、六三四	一、一〇二	一、五二六	一九、〇三六	六三三	一〇、一二一
一九三二年	二八、五八四	五六七	一、五二七	一六、九七〇	八九五	八、二一六
一九三三年	三二、三一七	六二〇	一、五四九	二〇、九三六	三一六	七、四五一
一九三四年	三二、二一一	九九一	一、九二三	一九、三二七	四一三	六、〇三一
一九三五年	?	?	?	二三、三〇九	八二三	六、二七一

(註二) カポツクに對する保護規定の主なるもの左の如し。

カポツク樹栽植原料輸出禁止令(一九三四年八月)

カポツク樹栽植原料輸出條例(一九三五年三月)

一九三五年カポツク條例(一九三五年五月)

一九三五年七月より一九三六年に至る間のカポツク輸出許可量は二萬一千五百瓲(ネツト)とす。而して輸出許可料金は百瓲に付き三三・五仙とす。

其他カカオ(註一)煙草(註二)其他各種農作物に對しても夫々保護振興策を講ぜられつゝあり。

(註一) カカヲに關しては次の如き法令あり。

非常時珈琲カカヲ條令(一九三三年)

一九三六年二月右は改正されて、珈琲カカヲ共、需要喚起のために內外に宣傳することとなり、宣傳費一萬六千盾を計上され、各百瓲につき積立金として金三仙宛徵收さるゝ事となれり。

(註二) 煙草に對しては特に特別の法令を公布されず、且輸出制限等の必要なしとされて保護されつゝあること別項の如し。

二

次に土人農業を見るに之に對しては特に振興策を講ぜらるゝ處尠し。唯甘蔗畑跡に於ける米作奬勵の如き又大豆作奬勵の如きを主なるものとすと雖も、其の對策は單なる奬勵若くは輸入制限の如き間接的なる程度に過ぎず(註)。而して大豆に於ては輸入を防遏し自給の域に達せんことを努めつゝあるも、米に在りてはこの目的に基くものに非ずして民間輸入を制限して政府輸入によりて需給の調節を期せんとするものの如し。

（註）一九三三年七月米穀輸出條例公布一九三四年二月右條例追加、同月米並に大豆の輸入制限令公布さる。

（一）

米は土人經濟の中心をなす處、特に爪哇に於て然りとす。然るに其の生産高は常に領内需要を充すに至らざる處遠きものあり。例年佛領印度支那・暹羅より輸入されつゝあり（註）。之にも拘はらず、蘭印政府が積極的に米作改善增收に努めざるは、砂糖輸出の關係上米輸入を有利となす故に因るものとか。

（註）蘭領印度の米（脫穀米）輸入狀況左の如し。

	數量（噸）	金額（千盾）
一九三〇年	六二七、八四三	八八、二六〇
一九三一年	六〇八、三九六	五五、八四六
一九三二年	四二三、〇九九	三三、六七八
一九三三年	三五七、二二七	一八、三七五
一九三四年	二七九、四三七	一一、〇七五
一九三五年	三八七、一四三	一七、〇二九

一九三五年に於ても米作不良特に中部西部爪哇北海岸方面に於て甚だしきものあり。乃ち右の如き大量の輸入を見たり。米作に於て政府の奬勵策如斯消極的なるに加へて、米作による利潤は擧げて華僑に掌握され、彼此相待ちて土人經濟は甚だ窮乏に追はれつゝあり。

（二）

玉蜀黍も亦土人農業の重要なるものなり。玉蜀黍及は一九三五年に於ても比較的農作なりしものゝ如く、輸出も相當高に達し價格亦低落を阻止し得たり（註）。

（註）玉蜀黍の輸出量生産量を見るに次の如し。

	爪哇生産高（千噸）	輸出量（ネット噸） 爪哇	輸出量（ネット噸） 外領	輸出額計（千盾）	爪哇平均卸値（百斤に付單位盾）
一九三〇年	二、〇〇三	八〇、三〇三	三九、七九二	八、二九九	六・八〇
一九三一年	一、九一一	一一〇、九九九	五五、五〇一	六、二九九	四・六六
一九三二年	一、九〇二	一〇六、三〇四	六六、六三八	五、五三六	四・〇二
一九三三年	二、一二七	七八、六五〇	三一、五二五	二、九六七	三・二八
一九三四年	一、七二〇	三一、三七七	一二、六七五	八九〇	四・〇六
一九三五年	一、九〇四	六三、四二〇	二〇、五八四	二、六七三	三・三六

外領特にスマトラに於ては護謨を以て土人農業の最緊要なるものとすと雖も、本類に於ては輸出稅賦課によりて殆んど土人經濟と雷すに至らざること既に述べたる如し。

三

以上述べたるが如くに、農業方面に在りては政府の保護奬勵により既に不況の底を衝きたる程度に達せるもの勘からず。唯土人農業に在りては尙未だ不況に低迷しつゝあり俄かに好轉を期待し難きものといふべし。

第二節　林業・牧畜業・漁業

林業（註一）牧畜業（註二）漁業に於ては特に前年に比して記述すべき處勘し。たゞ林業に於てボルネヲに於ける我國南洋林業株式會社の進出の特に顯著なるものありしこと、漁業に於ける邦人の勢力も稍々革新復興の狀態に至れることを顯著なるものとすべし。

（註一）爪哇に於ける國營林業の概要

	チーク林（千ヘクタール）	雜木林保護林（千ヘクタール）	雜木林（其他）（千ヘクタール）
一九三〇年	七九六	一、六六一	五八三
一九三一年	七九一	一、六九三	五四一
一九三三年	八〇六	一、七六四	三一一
一九三三年	八〇一	一、七七九	三一六
一九三四年	八一八	一、七九一	三九九

爪哇に於ける官營材木伐採量左の如し。

	單位	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
材木（チーク）	千立方米	三〇一	二四三	一五九	一七八	一七八
材木（雜木）	〃	三一	二六	二五	一七	二五
材木（板）	〃	八〇	一一三	七二	八六	九二
薪	千SM	一、二六一	一、一七六	七九二	八一五	九一〇
木炭	千瓩	八、八六六	七、九九〇	四、五二六	八、四三八	一〇、六八九
樹皮	千瓩	七六八	三一八	八四〇	三一五	三二三
竹	千個	四、〇二四	五、二九四	六五七	四、七七六	二、〇五三

爪哇に於ける官營林產物の產額左の如し。（千盾）

	總收入	總經費	純利益
一九三〇年	一五、一九九	一五、〇六七	一三二
一九三一年	一〇、八七〇	一三、四五〇	損 二、五八〇
一九三二年	七、五三八	九、六八八	損 二、一五〇
一九三三年	六、七〇〇	七、七七七	損 一、〇七六

一九三四年　五、八七三　六、四〇一　損　五二九

外領に於ける森林面積、保護森林面積、生產高左の如し。

	面積（千平方粁）	保護森林面積（同上）	生產高 材木（千立方米）	薪（千SM）	木炭（噸）
一九三〇年	一、二二二	七三	九七一	一、一〇〇	一二一
一九三一年	一、二一二	七七	一、〇二六	九〇二	四五
一九三三年	一、二一六	八八	六九六	五四一	六一
一九三三年	一、二一六	九一	五三二	三六九	四二
一九三四年	一、二一六	九四	五五三	三七四	四六

（註二）蘭領印度の家畜數次の如し。（單位千頭）

	牛	水牛	馬	計	豚	山羊	羊
一九三〇年	四、五五四	三、二七八	六六一	八、五一三	—	—	—
一九三一年	四、六八一	三、三九一	六五五	八、七二八	—	—	—
一九三二年	五、〇三二	三、三五三	六八一	九、〇六六	八八一	六四二	二一六
一九三三年	四、九六三	三、二九三	六五〇	八、九〇六	—	—	—
一九三四年	四、八二六	三、二一八	六三八	八、六八二	—	—	—

第三節　鑛業

鑛業に於ても、前年度に引き續き一般に沈滯の狀を示したり。錫に於ても一九三二年三月以來世界錫協定により漸次市價も持直り業態も改善さるゝに至れる處なるも、一九三五年に入りては市價は前年に下廻り（註）之がために其の生產量も一九三六年には九萬キンタルに減產さるゝことに決定せり。今、

蘭印に於ける錫の生産高（産地は專らバンカ島ビリトン島とす）を見るに次の如し。（單位噸）

一九三一年	二七、八一四	一五四、九六	
一九三二年	一六、〇五八	一五九、九七	
一九三三年	一二、八一一	一五四、二七	
一九三四年	一九、七四五	一四六、三五	
一九三五年	二〇、四二五	一五五、七三	

（註）蘭領印度の錫生産地はバンカ、ビリトン島を以て代表する。而して錫一キンタル（百瓩）の相場は左の如し。

一九三一年	一三〇、六六	一五九、四八			
一九三二年	一一五、六八	一五八、九五			
一九三三年	一五七、七六	一五九、九六			
一九三四年	一六四、九八	一九三五年			
		一月	一七二、三六	一五四、七六	
		二月	一六七、五九	一五二、四一	
		三月	一六九、三七	一五一、四五	
		四月	一七四、六八	一五五、一三	
		五月	一六八、〇七		
		六月	一六一、八一		
		七月	一六二、二六		
		八月	一六一、三四		
		九月	一五九、四五		
		十月	一六〇、〇四		
		十一月	一六一、六六		

石油は一九三五年の生産高六百九萬瓩にして前年に比し若干の增を示し、輸出亦增加せり。唯金額に於ては一割餘の減を示せるも尙八千六百萬盾を示し、斯業一般に堅實、業態可良にあり。從つて政府に於ても財源を玆に求めんとし、一九三六年に於ては石油會社と交涉成り生産稅五百萬盾を賦課することに決せり。今石油並同製品の輸出狀況を見るに次の如し。

	數量（噸）	金額（千盾）
一九三一年	三、四四〇、一〇八	一四三、三八五
一九三二年	三、九四六、八七一	九六、九〇〇
一九三三年	四、三九九、八八五	一〇三、七一二
一九三四年	四、九一二、五二八	九八、八四二
一九三五年	五、一四〇、二七八	八六、四九九

其他石炭、金、銀、鐵、滿俺等の產出あるも、外領に在る莫大なる埋藏礦產物は勞働力の不足と輸送上の不便より して今尙空しく地下に藏せられ、蘭印經濟に寄與する處極めて淺し。而して從來本邦に輸入しつゝなりしは、ボルネヲ石油を主なるものとせしが、一九三五年に入りてアルミニウム原礦として一年二萬瓩のボーキサイトを輸入することに契約成立せしを特記すべき一事とす。

第四節　工　業

工業に於ては政府の奬勵によりて漸次整備されつゝあり。但し蘭領印度の工業は其の大部分單に其の種のものゝ存

在するといふ程度に過ぎざるもの多きことは豫め諒知するを要す。且又蘭領印度政府の奬勵なるものも單なる宣傳に過ぎずして實質は之に伴はず。一九三六年政府豫算に於ける新規工業奬勵費僅かに一萬盾に過ぎざるに徴しても十分に之を認むることを得べし。

今、最近に於て設立され若しくは計畫されたる新規工業と傳へらるゝものを見るに、硝子工場(バタビヤ)、窯業(中部爪哇)(註)、チヨコレート工場(ジヨクジヤ)、乾電池工場(バタビヤ)、石鹸工場(バタビヤ)、飛行機製作工場(スマラン及バタビヤ)、豆ミルク工場(バンドン)、靴紐工場(ジヨクジヤ)、白墨工場(チエリボン)、鳳梨罐詰工場(パレムバン)、紙製瓶工場(スラバヤ)、自轉車工場(スラバヤ)、自轉車タイヤ工場(ボイテレゾルフ)、釦工場(スマラン)、薄荷油工場(アチエ)、硝子製造工場(スマラン)、椰子繊維工場(チラチヤツプ地方)、ラテツクス製品工場(バンドン)、人造バタ工場(バタビヤ)、等あり。而して一九三五年中に於ける重要工場としては、六月開場されたるボイテンゾルフの「グツドイヤー」自動車タイヤ工場とす。右は米國資本の進出に基くものにして、一日の生産能力自動車タイヤ及チユーブ各三百本と稱せられる。

(註) 蘭印耐火陶磁器粘土工業會社 NICKI の家庭用陶器(主に肉皿の類なり)之なり。外觀粗なるも蘭印製品としては見るべきものなり。價格割合に廉。原料陶土はバンカ島産。尚製品の名前は NICKI と稱せらる。

政府の最も努力しつゝあるは爪哇更紗業と稱せらる。本工業は、原料たる晒綿布キヤンブリツクの輸入制限(一九三四年三月より實施)以來、其の價格騰貴のために多大の打撃を蒙り止むなく其の代用品たる生地綿布三巾金巾に需要の移行を見たりしが、一九三五年一月に至つて斯品も亦輸入制限せられて價格高騰、爾來更紗工業の不況益々增大せり。一九三五年六月頃の情報によれば、從來二盾四十仙と唱へられたるキヤンブリツク一反の價格は三盾四十仙に幾ね上りしに不拘、製品値上りは一コーヂに付き二十五仙に過ぎず加之需要停頓し、斯業の不況著しきものありと。

卽ち苦力日給の如きも從來の二盾が低落して四十仙に至れりといふ。

茲に於て一九三六年二月、蘭印政府はバチツク工業助成なる名に於てキヤンブリツク補償法を決定するに至れり。

(註) バチツク工業窮狀の緩和は未晒綿布市價の若干の引下げと晒綿布市價の比較的大巾引下げの外になしとし。仍て政府は和蘭製晒綿布販賣の新市價を指定して輸入商には割戻金を與へ、同時に仲介商にも市價下落の結果生ずる損害を賠償せんとするものにして、一九三六年度に於て八十萬盾を支出し、この外右實施に伴ふ人件費物件費として一萬三千盾を計上せり。抑々バチツク工業が使用する晒及未晒綿布の市價昂騰の因は、キヤンブリツクの六割一分は和蘭品に限る旨規定したがために、これがために凡ての晒綿布市價は和蘭製品並みに騰貴し、之に連れて未晒綿布迄騰貴するに至れり。然るにこれによる壓迫の大部分乃至全部はバチツク工業の上に加へられ、斯業は原料に高額を支拂ふと同時に製品たるサロンはこれに相應した市價で販出出來得ざりしなり。如斯不況に呻吟せるバチツク工業たる斯業には信憑すべき帳簿なく、仍て間接的保護策としてバチツク工業原價の三乃至五割を占むる原料布市價を低落せしむるため、斯品の公定價格を定め之と輸入價格との差額を割戻金とし輸入業者者に補給する策を取るに至れるものなりといふ。

然るに現在に於ける晒綿布の値段にては和蘭綿業は尚合理的なる收益を得るに至らずと稱せらる。從つて賠償法實施に伴つて輸入價格が若干高騰することも考へられ、且右賠償は和蘭製品に限らるゝ故、この保償法はバチツク工業保護に非ずして和蘭綿業の保護に過ぎず、從つてバチツク工業の眞の繁榮には貢獻する處極めて淺かるべしと稱せらるゝ處なり。

尚右は三月一日より實施さるゝこととなりしが、主なる類の引下額は次の如し。

商標	丈(碼)	巾(吋)	引下額(仙)
銅仙厚	一七・〇	四二・〇	二二・五
蟋蟀薄	一七・〇	四二・〇	二二・五
青鳥	一七・五	四二・〇	一七・五
〃	一六・五	四〇・〇	一五・〇

三　虎	一七・五	四二・〇	一七・五
〃	一六・五	四〇・〇	一五・〇
王冠青赤	一七・五	四二・〇	二〇・〇
〃	一六・〇	四〇・〇	一五・〇
三　魚	一六・五	四二・〇	二〇・〇
金　鶏	一七・五	四二・〇	二〇・〇
栗　鼠	一六・五	四二・〇	一五・〇
貝　殻	一六・五	四〇・〇	一七・五
銀花君	一六・五	四〇・〇	一七・五
金鳥籠	一六・三	四〇・〇	一七・五
金水田	一六・五	四〇・〇	一七・五
紫　星	四八・〇	四〇・〇	五七・五
青　傘	四八・〇	四〇・〇	二〇・〇
〃	一六・五	四一・〇	五七・五
孔　雀	四五・〇	四〇・〇	二〇・〇
青大鳥	一六・五	四〇・〇	四〇・〇
總赤	四八・〇	四〇・〇	

本施設が其の名の如く果して爪哇更紗工業を振興し得るや否や、こは全て懸りて將來に在る所とす。

其他領内工業として主なるものは、セメント工業（スマトラパダン市）（註一）、ビール醸造工業（バタビヤ並にスラバヤ）（註二）、織物工業（爪哇パダラン市）（註三）、製紙工業（爪哇バダラン等の）（註四）、ビスケツト工業（一九三五年生産高二、七六〇噸）、製氷工業（一九三三年一九〇二圓、一九三四年一、九五五圓、一九三五年一、七六〇圓）、塗料工業（一九三五年二千噸）、石鹸工業（一九三五年生

産高三萬六千噸）乾電池工業の如し。尙中小工業としては鐵鍋工業（註五）の如きあり。之等については或は其種製品の輸入制限によりて或は營業制限等によりて夫々振興策を講ぜられつゝある處にして、一九三五年に於ては何れも稍々活況を見るに至れる處なり。

（註一）セメント工業は、關印主要工業の一なり。然れども本邦セメントの異常なる進出によりて、多大の脅威を受けたために一九三三年九月來輸入制限によつて保護されつゝある處。蓋し輸入制限の嚆矢をなすものとす。爾來業績漸く立直り、一九三四年、一九三五年の生産高一四〇、〇〇〇噸に達せり。尙輸入狀況を見るに

一九三一年	一三二、二一七噸
一九三二年	一〇七、五四〇
一九三四年	五二、二九三
一九三五年	四八、八三八

（註二）關印に於ける麥酒工場は、バタビヤのアーチベル・ビール會社、及スラバヤのジャバ・ビール會社の二とす。一九三三年十二月麥酒輸入制限以來、業態も漸く整ひ且品質も著しく改善され一九三五年には醸造高六萬二千五百瓶に達せり。從つて輸入も激減され、且外領に對する移出量も一九三五年上半期は二十二萬二千立にして前年同期の十一萬立に比し二倍となれり。スラバヤのジャワビール會社は、一九三六年の初め和關ハイネケンスビール會社に讓渡されたり。尙關印に於ける麥酒輸入量は次の如し。

一九三二年	六、五八七千立
一九三三年	八、八六八
一九三四年	三、三九九
一九三五年	三、四〇二

（註三）織物業は政府の奬勵により著しく整備されたるものの如く、各年一月に於ける工場數、機臺數を見るに左の如し。

	工場數	手織機	力織機
一九三三年	三三	四九九	四
一九三四年	四〇	五九六	四

一九三五年　二七　一、〇二七
一九三六年　三五　一、九三三

尙、サロン用織機の臺數は次の如し。

	一九三三年末	一九三四年末
手織機	三、五〇〇	六、〇〇〇
力織機	二五〇	六一〇
從業者	六、〇〇〇	一二、〇〇〇

工賃は女二四仙、男三〇仙乃至六〇仙なりといふ。

右に於て機臺數等に著しき相違あり、何れに據るべきか參考のために兩者を擧げたり。

要するに右によりても增加の情勢にあることは明らかなるも更にこれを織糸の輸入狀況に徵するに（單位噸）

	絹織糸	人絹織糸	其他織糸
一九八八			三
一九三一年	二、三六四	五三	一〇
一九三三年	三、〇九五	二一七	五
一九三四年	三、六二六	二二八	
一九三五年	四、三九二	三一八	三五九　七

（註）機業地としては爪哇のガルー、チエリボン、スラバヤ方面を主なるものとす。其の製品はサロンを主とし、其他被服用織物各種あり。而して其の製品は品質は比較的可良なるも、價格不廉且生產高も尠く、卽ち一九三五年末に於て其の能力は日產絹サロン五千枚（一九三四年末二千枚）に過ぎず、其の稱せらるゝが如くに、大した工業に非ず。

尙和蘭綿業の爪哇移轉たる其の唱へらるゝこと久し。然るに其の實現殆んど不可能の如くに傳へられたる處、一九三六年二月始めて和蘭本國に爪哇綿業株式會社（資本金四十五萬盾工場豫定地爪哇テガル市）なるもの設立されたりといふ。遠からずしてトエンテ綿業の爪哇進出を見ることあるべしと思はる。テガル市はチエリボンの東郊に在り。

（註四）製紙工業は西部爪哇バダラランに在るものを代表的唯一の工場とす。半官半民の會社にて主に政府諸用紙を製しつゝあるも、最近業績不振と傳へらる。最近既に減資せる筈なり。

（註五）纖維工業とは所謂南洋鍋（支那鍋）の鑄工場とす。爪哇各地に見らるゝ所にして、相當規模のものより小規模工場のものに至る迄各種あり。本類の用途は主として、爪哇更紗用蠟の煮鍋とするゝものにして、其他家庭用厨具としても相當の需要あり。

本類に於ても日本品輸入のために、領內斯業大打擊を蒙るに至り、一九三四年十月輸入制限され更に一九三五年九月に至つて營業制限令を公布され、許可營業として相互の競爭を避くるの策を取られて今日に至る。

第五節　商　業

商業方面を概觀するに、其の大規模なるは輸入輸出の貿易業とす。斯業に於ては各種商品の輸入制限によりて略々現狀維持を以て非常時善處策とせられ、特に所謂五大蘭商（註）に於ては業態著しく立直るに至れり。然れども中小貿易業に於ては却つて退步せざるの止むなき域に近きものも見らるゝに至り、特に本邦商社に於て此の傾向著しきものあり。

（註）五大蘭商とは、インターナショ社、ゲオウエリー社、ヤコプソン社、リンデテープス。ボルスミー社。

非輸入制限商品に於ては概ね本邦品の進出未だしきものにして、從つて略々從前の情勢を保持しつゝあるものゝ如し、唯何れに於ても、蘭印經濟界の根本的不況によりて既往に比すれば業態保守的に陷りつゝあるは止むを得ざるところといふべし。

輸出商品に於ては、其の數量に於て金額に於て若干增加の情勢（註）に在るものなきにしも非ざるも、この原因は主に人爲的工作に因するものなるが故に、斯品輸出業其のものゝ內容に於ては必ずしも好轉せりとはすべからず。特に本邦商社にして輸出を營む中小資本のものに於て特に然りとする處なり。

（註）一九三五年の輸入高が前年度を超過したるものを見るに次の如し。（單位噸）

	一九三三年	一九三四年	一九三五年
動植物製品	三〇、四八一	二九、〇六一	二九、八三五
藥料及香料	一〇五、一九二	一一一、二六三	一二六、四三四
植物性油脂及原料	七〇四、五二七	六二九、六八〇	七三一、六八四
砂糖	一、三八九、〇八八	一、三八八、四六〇	一、四一〇、二六五
煙草	五〇、一三二	四五、六八七	五〇、六七三
タピオカ製品	一七四、六二一	一四七、四〇二	一五九、七六四
茶	八一、四九七	七二、九〇五	七四、四七五
植物纖維類	一二一、六三二	九四、二五二	一二四、九八一
別揭以外の農產物	六二三、六三九	六二七、一六一	七四九、一八四
鑛油及同製品	四、六七四、三三四	五、一五四、八八九	五、三八八、〇六五

金額等については別揭統計欄參照ありたし。

領內物資の配給機關たる各種輸入商品の卸商並に小賣商に於ても領內經濟界の不況によつて、おしなべて不振の狀に在り。卽ち歐商に於ても華商に於ても且又邦商に於ても然る處にして從つて業態不振のために破產等を示すものも相當數に達せり。（註）

（註）參考のために、バタビヤ州に於ける最近の破產件數等を見るに次の如し。

	件數	破產金額（千盾）	一件當り破產金額（千盾）	實收額（千盾）	一件當り實收額（千盾）
一九三四年	三〇一	三、五五六	一一・八	一、一二三	三・七
一九三五年	二九二	四、五一四	一五・四	一、二五五	四・三

右によれば件數に於ては減少を示せるも、破產金額に於ては一二%の增を示せり。之れ卽ち漸次規模の大なるものに破產者を生じたるものと見得らるべく、且又、一件當り實收額の大なるによりて必ずしも惡性破產に非ることを知るべく、卽ち不況が漸次深刻化しつゝあるものといふことを得べし。

第六節　海運業

海運に於ても、外國航路に在りても又領內航路に在りても夫々世界不況並に領內不況により何れも不振を示せり。但し對日航路に於ては日蘭海運會商未成立のため、我南洋海運會社對JCJ會社との海運競爭相當熾烈なるものなり、JCJにても常に攻勢を持し積荷量に於ては却つて既往に勝ると稱せらる。然れども之がため業績の內容に於ては頗る不良にして政府に對して屢々補助金交附を申請しつゝあり、又他面に於てはKPMとの合併說時に流布され其の都度會社株値の昂騰を見つゝある處とす。

日蘭海運會商は曩に神戶に於て協定に至らず一九三五年度に於て更に會商の豫備交涉を行ふに至れるも今尙相互の諒解に至らず。而して本問題に對する蘭印側の主張は相當強硬に在るものと傳へらるゝ處なるが、之れJCJ線の使命は和蘭東方政策の根原をなすものなるが故なり。蘭印政府の意圖は先づ海運問題を先決問題とし此の圓滿なる解決を待ちて而して通商協定に入らんとするものなり。思ふに、和蘭の東方植民政策よりすれば、屢々引例さるゝ重要商社たる五大蘭商の如き假令破滅するやうの事ありとしてもそは忍ぶべし、JCJの存續は絕體的必要なりとする國策に在るべしと想像さるゝ處なり。從つて日蘭海運會商の圓滿なる協定は通商協定の前驅をなすものにして、この解決にて成らざる限り輸入制限緩和の如き極めて見込薄なりと見て然るべし。

而してKPM社に於ても單なる領內航路のみに滿足せず更に上海を起點として支那、南洋（爪哇及新嘉坡）及南阿

に至る貨物航路開始の計畫なりと噂さる處にして、和蘭の東方政策は英國を恃みて其の强化に益々前進しつゝあるもの〻如し。（註）

（註）和蘭下院副議長ファン・ダイク氏は蘭印視察の歸途新嘉坡に於て語れり。

和蘭は蘭印に於ても種々國防施設をなしつゝある處なるも、この新嘉坡に斯の如き强大なる軍港あることは、蘭印にとりても誠に心强き次第なり。予は蘭印の防備に就いては、蘭英間に確たる諒解あるものと信ずるも、和蘭海軍は東亞に於て最も重要なる役割を有するが故に、予個人としては更に强大にするの要ありと思ふ。（一九三五年十月卅一日）

尙參考のために、次に蘭印海運に關する若干の統計を擧げん。

（一）蘭領印度と外國間の航路

船籍國	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
	隻數	隻數	隻數	隻數	隻數
	屯數（單位千立方米）	屯數（單位千立方米）	屯數（單位千立方米）	屯數（單位千立方米）	屯數（單位千立方米）
蘭印	三、九四二 八、一〇四	三、九二七 七、五七二	三、二一九 六、四七五	三、二四七 六、五八五	三、〇四八 六、四三八
和蘭	七、五八二 六、二五	七、五七九 四、二一	七、六一八 二、七〇	七、六〇五 二、六二	七、六七八 七、二二
英國	一一、三九〇 一〇、八八七	一〇、六一〇 七、八七四	八、八三六 八、二二六	八、〇二二八	八、〇〇七二 九、〇〇六五
日本	二〇五 六一五	二一九 九二六	二一三一 〇五三	二二〇 九八〇	二五三 一七三
支那	七九二 三三七	五八二 二九〇	〇五九 六〇	〇八二 六四	六七 七三
計（其他共）	一九、九六五 三四、一八八	一七、五四七 三〇、〇八九	一四、四七一 二八、五〇七	一三、九六〇 二九、五六四	一三、六一三 三一、〇八七

（二）蘭領印度領內の航路

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
	隻數	隻數	隻數	隻數	隻數
	屯數（單位千立方米）	屯數（單位千立方米）	屯數（單位千立方米）	屯數（單位千立方米）	屯數（單位千立方米）
蘭印	一〇九、一五二 八四、四三〇	一〇七、六九七 七九、八六四	一〇五、七三一 七一、三九九	一〇七、五三一 七二、四五六	一一五、九二二 七〇、六五〇
和蘭	二、九六四 三九、七二五	二、六一七 三四、五九六	二、四六九 二九、〇七四	二、四八五 三〇、五一一	二、四六五 三一、四〇四
英國	五、九七〇 二〇、一一五	五、四六五 一五、五二三	六、二九四 一五、八一四	六、六五二 一五、五四二	五、三一九 一六、四〇四
日本	五〇九 七五〇	六七五 二九九	六二六 八四〇	八六〇 五一九	八〇二 一九七
支那	六六〇 九三	六六七 八八	五八四 六六	六一〇 一五一	五六〇 八六
計（其他共）	一二〇、三八三 一五六、九三四	一一八、〇三二 一四三、〇〇三	一一七、九七〇 一九六、一三〇	一一五、八九一 一二五、三七三	

（三）汽船到着（單位 千立方米）

（から）	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
東部アジア	七、三六〇	七、〇六七	七、三七九	七、七九五	七、四八四
英領印度	四、二五一	三、四三六	二、七八二	二、六六三	二、四六五
歐羅巴	四、六六八	三、八五三	三、五三九	三、七一五	三、五五七
亞米利加	二、三六八	一、九四〇	一、六八五	一、五九一	一、五九〇
アフリカ	五三〇	七一〇		七〇一	七三四
濠洲	二、一〇二	一、六六七	一、九四六	一、〇一〇	二、三二九
計	二一、二七九	一八、六七三	一八、四八七	一八、四七五	一八、一五九

（に向け）汽船出發

東部アジア	五、六二〇	六、一七九	五、六三六	五、三二六	五、五七八
英領印度	四、一五五	三、七八五	四、一〇二	五、一〇二	四、一〇二
歐羅巴	五、八九一	四、五四二	四、三〇七	四、三四四	四、五八六

亞米利加	二、二五四	一、六五三	一、一三六	一、三三七	一、五四九
アフリカ	三五〇	五一二	一、三二八	九七三	一、〇八二
濠洲	二、〇九〇	一、九一〇	一、八七九	二、〇九三	二、三四八
計	二一、六二七	一八、八四七	一八、四二五	一八、九〇九	一九、三四五

領內汽船會社內容（括弧內は公稱資本金とす）

	一九三一年		一九三二年		一九三三年		一九三四年	
K P M（三千萬盾）	汽船	一一二	一一〇		一〇五			
	モーター船	三二	三四		三三		九八	
	總噸數	八一六、五〇〇	八一五、八〇七		八〇五、六五七		三三	
J C J（六百萬盾）	汽船	一七	一三		一三		七七九、五二九	
	總噸數	三四八、三八九	二八七、六八五		二八七、六八五		二六八、八〇四	

第三章　貿易政策

第一節　概要

貿易政策は依然貿易統制主義に則り、加之益々この強化に努力されつゝある處とす。一九三五年六月十五日、國民參議會に於ける總督の施設演說中に曰く「貿易關係を觀るに、各國の自給自足政策は漸次強化され、關稅障壁及生產競爭は益々激烈化しつゝあり。之れに對する策はバーター制あるのみ。唯この制たる蘭印の如き出超國には最善の策とは稱し難き處なるも、世界經濟の現狀に卽してはこれに據らざるを得ず。而してこの實施のために、蘭印に於ては比較的高物價の國より輸入せざるべからざるの止むなきに至らんことあらんも、これ亦止むを得ず。卽ち輸出を增進せば蘭印の購買力を大にするが故に、輸入品が若干高價なるが如きは、結局は大問題に非るなり。換言せば輸出、輸入、購買力の三者が均衡を得ることを必要とするものとす。斯くて日蘭會商に於てもバーター制採用の方針なりしも圓滿なる協定に到達するに至らざりき。然れども妥協不可能と見るべき事情は存在せざるが故に近き將來に於て妥協成立に至るべし。」と。

尙又、經濟省長官の曰く「現在の情勢に在つては、自由貿易なるものは、蘭印にも和蘭にも適せず。眞の意味の交換貿易は今日各國間とも實現困難なるも、さらばとて單なる自由通商策は今日の經濟機構を益々混亂せしむるのみ。」（一九三五年十一月於國民參議會）と。

而して之を更に明らかに說けるは、一九三六年三月に於ける非常時輸入局長の談とす。これを要約引用するに、

「對アジア輸出の激減と對アジア輸入の激增といふ現狀に於ては其の通商政策を如何にせざるべからざるかは自ら明白なり。特に一九三三年以降の廉價商品の流入は著しく市場の混亂を惹起せり。加ふるに農產物輸出上に生じたる大困難により、蘭領印度は擧つて從來大部分輸入に仰ぎたる商品の製造に向ふに至れるも、著しき低廉市價を以てする過大なる輸入は此の創業幾何も無き工業の存立を脅威するに至れり。從つて輸入に關する限り蘭領印度の通商政策の目的は左の趣旨を含むものなり。

一、過大なる輸入に對する蘭印工業並に領內市場の保護
二、領內販賣機構の保護
三、蘭印消費者の輸入維持による輸出の確保
四、和蘭本國との經濟的提携
五、輸入商品の急速なる低下に對し市價標準の維持。」

蘭領印度の貿易政策斯くの如し。かくて之に基いて、蘭領印度がバーター制を加味せる新協定を締結せるは、既に英國、伊太利、佛蘭西、米國、西班牙、葡萄牙等其他各國に及びたり。況んや和蘭本國との間に於ける提携の緊密なるは玆に言ふ迄もなし。唯對本國間の通商協定に在りては、蘭領印度の得る處は殆んど無く專ら和蘭のために爲されたるものゝ如くに稱せらる。卽ち元和蘭大臣フエルシュツール氏の蘭印視察談に曰く「和蘭は蘭印に對して餘りに無關心に過ぐ。卽ち和蘭對蘭印の經濟的關係は、和蘭が蘭印に與へつゝある利益に比し和蘭は遙かに多大なる利益を蘭印より受けつゝあるなり。然るにも不拘、和蘭本國人士の蘭印に對する認識たるや不十分且誤解多し。例へば輸入制限令等に依つて和蘭產業を支持するために蘭印は或る意味に於て不勘犧牲を供し居る處にして、之に對しては和蘭は更に感謝するを要す。」と。

而して貿易政策に於て、蘭印は既往條約の束縛を受けて（註）、保護關稅の如き策を採るに困難あり。斯くて採る處は殆んど專ら輸入割當制、輸入制限制とす。

（註）一八二四年ロンドン條約第三條に曰く、

各當時國ノ臣民及船舶ハ東洋諸地ニ在ル各相手國ノ港灣ニ於ケル輸出入ニ際シ、該港灣所屬國ノ臣民及船舶ニ課セラルル稅額ノ二倍ヲ超ユル稅ヲ課セラルルコトナシ。若シ該港灣所屬國ノ臣民並船舶ガ何等ノ稅ヲ課セラレザルトキハ相手國ノ臣民一八七一年スコトラ條約の第二條に曰く

英國臣民ニ依ル貿易並ニ英國船舶ハ和蘭臣民ノ貿易並和蘭國船舶ノ現ニ享受シ又ハ將來享受スルコトアルベキ總テノ權利及特權ニ均霑スベキモノトス。

第二節　輸入貿易政策

一

一九三五年度に於て輸入制限は益々峻烈を加へ、其の類に於て增加し其の內容に於て益々强化されつゝあり。尙一般に單に輸入制限と稱するも、實際は之れに二あり。一は卽ち輸入制限にして他は輸入許可制なりとす。前者は輸入數量の割當制限にして、後者は輸入の許可制度なり。これに關して經濟省長官の所說を引用するに「輸入制限令と輸入許可令とは其の出發點は同一なるも其の性質は異にす。輸入制限商品は市價の昂騰を來し得るも輸入許可商品にはこの虞なし。卽ち輸入許可令に在りては其の商品にして供給不足を生ぜば特別輸入許可の方法によりて之に適應し得

るが故なり。從つて今日に至る迄に、輸入制限令が各部門に對して些かの不利益を與へたることは絶無なるを確信す。」（一九三五年十一月於國民參議會）と。

然れども、輸入制限令に於ても亦輸入許可令に於ても、輸入量は豫め決定され其の範圍内に於て夫々の輸入業者の輸入實績に基いて割當てらるゝ處なるが故に、實質に於ては殆んど異なる無し。寧ろ輸入制限令を可とする處之れ輸入許可制に在りては輸入總量は比較的過大に定められるゝが故に、市價の持直しも殆んど庶幾し難く、輸入許可手續或は輸入許可料金等徒らに煩雜と失費とを增すのみなるが故なり。特に本邦商社に於ては輸入割當量は極めて僅少率に過ぎず且特別許可は殆んど得られずして、從つて營業維持上に一大支障を生ぜんとしつゝあるもの〻如し。但し一九三五年度（一九三六年三月迄）に至る間に於ては輸入制限令實施のために、營業不可能に陷りたる邦人商社は殆んど皆無なりと稱すると得べし。其の之がために營業維持不可能なるが如くに稱して引上げ若しくは業態縮少等を見たるは概ね單に輸入制限令に籍口して云々せるに過ぎざるものにして營業不振の因は寧ろ他に存するものと認むる處なり。

然れども過去を以て將來を卽することは誤り亦甚だし。一九三六年度に於ては輸入制限令等のために否之を主因として邦人商社の業態は相當惡化不良化するを免れざるものと認められる。之れ一には輸入制限令の續行によりて輸入權は漸次益々蘭商に移行せざるの止むなきと、二には織物輸入制限令は織物を極めて細目に分類し加之需要旺盛品は何れも和蘭英國品のみに大部分を割當て、自由輸入量を極めて僅少にせるが故なり。茲に言ふ迄もなく、對蘭印輸出の日本品は綿布人絹布等織物類を主要品となすが故に、本類の不振は全面的本邦商品の退行卽ち本邦商社の不振を招來するものといひ得べし。

今參考のために現行輸入制限令を一覽するに左の如し。

〔備考〕左表に於て△印は輸入許可商品、他は輸入制限商品とす。
○印は一九三五年度に公布されたもの。

イ、輸入制限令一覽（輸入條例は輸入制限令の基本法なり）

輸入制限令（政廳令）	日付	法令公報番號	輸入條例（總督令）	日付	法令公報番號
セメント（ポートランドセメント）					
一九三三年	二八三		一九三三年非常時セメント輸入制限令	二八三	
一九三三年 九月廿六日	三五八		一九三三年第二次非常時セメント輸入制限令	三四九	
一九三四年 三月廿六日	一四九		一九三四年非常時セメント輸入制限令	〃	〃
一九三四年 七月廿六日	四七四		一九三四年第二次非常時セメント輸入制限令	〃	〃
一九三四年 十月廿七日	六〇四		一九三四年非常時セメント輸入制限令	四七三	
一九三五年 二月廿八日	八七		一九三五年セメント輸入制限令	八六	
一九三五年 九月三十日	四七四		一九三五年第二次セメント輸入制限令	〃	〃
麥酒（黑ビール以外の麥詰ビール）					
一九三三年十二月十二日	四八四		一九三三年非常時麥酒輸入制限令	四七九	
一九三四年 三月十二日	一二六		一九三四年非常時麥酒輸入制限令	〃	〃
一九三四年 六月十二日	三六三		一九三四年第二次非常時麥酒輸入制限令	〃	〃
一九三四年 十月十二日	五八二		一九三四年非常時麥酒輸入制限令	五八一	
一九三五年 四月十二日	一三〇		一九三五年麥酒輸入制限令	一二九	
一九三六年 一月十一日	七		一九三六年麥酒輸入制限令	〃	〃

糸染サロン並に特殊糸染織物類

一九三四年 二月十三日	六〇	一九三四年非常時織物輸入制限令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三四年 五月十二日	三〇一	一九三四年第二次非常時織物輸入制限令	〃	〃	〃
一九三四年十一月十三日	六三八	一九三四年第三次非常時糸染織物輸入制限令	〃	〃	〃
一九三四年十二月十三日	六七九	一九三四年第四次 〃	一九三四年十二月十三日	六七八	一九三四年非常時糸染織物輸入條例
一九三五年 六月十三日	三六六	一九三五年糸染織物輸入制限令	〃	〃	〃
一九三五年十二月十三日	五八二	一九三五年第二次糸染織物輸入制限令	〃	〃	〃

晒綿布

一九三四年 二月廿八日	九八	一九三四年非常時晒綿布輸入制限令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三四年 三月 六日	一一四	右制限令一部改正			
一九三四年十二月卅一日	七一三	一九三五年晒綿布輸入制限令	一九三四年十二月卅一日	七一三	一九三五年晒綿布輸入條例
一九三五年十二月卅一日	六三八	一九三六年晒綿布輸入制限令	〃	〃	〃
一九三六年 三月卅一日	一六六	一九三六年第二次晒綿布輸入制限令	〃	〃	〃

鐵製フライ鍋

一九三四年 十月廿五日	五九七	一九三四年非常時鐵鍋輸入制限令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三四年十二月卅一日	七五〇	一九三五年鐵鍋輸入制限令	〃	〃	〃
一九三五年 七月卅一日	三四二	一九三五年第二次鐵鍋輸入制限令	一九三五年 七月卅一日	三四一	一九三五年鐵鍋輸入條例

未晒綿布

一九三五年 一月廿一日	二三	一九三五年未晒綿布輸入制限令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三五年 四月廿九日	一五三	一九三五年第二次未晒綿布輸入制限令	〃	〃	〃
一九三五年 十月卅一日	五三三	一九三五年第三次未晒綿布輸入制限令	一九三五年 十月卅一日	五三三	一九三五年未晒綿布輸入條例

△八商品（窓ガラス、コップ、火屋、琺瑯鐵器、自轉車）

一九三五年 一月廿一日	二四	一九三五年輸入ライセンス令	二九三三年 九月十二日	三四九	一九三四年非常時輸入條例

一九三五年十一月廿二日	五五五	一九三五、三六年第二次輸入ライセンス令	一九三五年十一月廿二日	五五四	一九三五年輸入許可條例

人造肥料

一九三五年 二月廿八日	八八	一九三五年人造肥料輸入制限令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三五年 七月三十日	三三八	一九三五年第二次人造肥料輸入制限令	〃	〃	〃
一九三五年十二月卅一日	六二五	一九三六年人造肥料輸入制限令	一九三五年十二月卅一日	六二四	一九三六年人造肥料輸入條例

電球

一九三五年 三月十一日	九九	一九三五年電球輸入制限令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三六年 一月十一日	九	一九三六年電球輸入制限令	一九三六年 一月十一日	八	一九三六年電球輸入條例

△十商品（齒刷子、刄物、ランプ）

一九三五年 三月二十日	一〇八	一九三五年輸入ライセンス令第一次追加令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三六年 一月十一日	六	一九三六年輸入ライセンス令第一次追加令	一九三五年十一月廿一日	五五四	一九三五年輸入許可條例

加工綿布

一九三五年 四月二十日	一二七	一九三五年輸入ライセンス令第二次追加令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三五年十一月二十日	五四二	右廢止（十一月廿一日より）			

タオル

一九三五年 五月十七日	一七一	一九三五年タオル輸入制限令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三六年 三月十七日	一二八	一九三六年タオル輸入制限令	一九三六年 三月十七日	一二七	一九三六年タオル輸入條例

綿毛布

一九三五年 五月十七日	一七三	一九三五年綿毛布輸入制限令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例
一九三五年 六月廿九日	三〇一	右追加令			
一九三六年 三月十七日	一三〇	一九三六年綿毛布輸入制限令	一九三六年 三月十七日	一二九	一九三六年綿毛布輸入條例

衛生陶器

一九三五年 五月廿九日	二四〇	一九三五年衛生陶器輸入制限令	一九三三年 九月十二日	三四九	一九三三年非常時輸入條例

期間	輸入制限量	計	中特ニ和蘭品ニ限リ制限ヲ行ハサルモノ	備考
昭和六年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和七年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和八年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和九年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十一年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十二年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十四年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十五年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十六年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十七年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十八年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和十九年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十一年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十二年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十四年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十五年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十六年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十七年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十八年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和二十九年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十一年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十二年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十四年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十五年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十六年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十七年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十八年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和三十九年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十一年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十二年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十四年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十五年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十六年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十七年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十八年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和四十九年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十一年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十二年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十四年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十五年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十六年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十七年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十八年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和五十九年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同年十二月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
昭和六十年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年四月一日ヨリ同年六月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年七月一日ヨリ同年九月三十日迄	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓	〇	
同年十月一日ヨリ同

〇六	自一九三六年一月十三日 至一九三六年八月十二日	八ヶ月	二、七六〇、〇〇〇	〃	〃

(三) 糸染サロン並に特殊糸染織物輸入制限

一	自一九三四年 二月十四日至一九三四年 五月十三日	三ヶ月
二	自一九三四年 五月十四日至一九三四年十一月十三日	六ヶ月
三	自一九三四年十一月十四日至一九三四年十二月十三日	一ヶ月
四	自一九三四年十二月十四日至一九三五年 六月十三日	六ヶ月
〇五	自一九三五年 六月十四日至一九三五年十二月十三日	六ヶ月
〇六	自一九三五年十二月十四日至一九三六年 六月十三日	六ヶ月
七	自一九三六年 六月十四日至一九三六年十二月十三日	六ヶ月

類別	第一次	第二次	第三次	第四次	第五次	第六次	第七次	單位	和蘭品特別割當
綿サロン 並物	亖0,000	六0,000	一六,六七0	100,000	100,000	100,000	100,000	ヤーヂ	ナシ
〃 上物	四三,000	八五,三00	一八,三四0	110,000	110,000	110,000	九0,000	〃	四五%
人絹サロン	三,五00	四,六00	七七0	三,000	ナシ	10	10	〃	ナシ
人絹綿サロン	1,000	六,000	1,000	五,000	五,000	五,000	五,000	〃	100%
絹・絹交織サロン	六00	1,二00	二00	1,二00	ナシ	10	10	〃	ナシ
其他糸染サロン	100	二00	三五	二00	ナシ	10	10	〃	四五%
撚合せ糸織物	三,000	六,000	1,000	六,000	六,000	六,000	六,000	碼	ナシ
ルーリック	一九三〇年の八〇%	同上	三九,三七0	1,三三五,000	1,三三五,000	1,三三五,000	1,三三五,000	〃	ナシ

(四) 晒綿布輸入制限

一	自一九三四年三月一日至一九三四年十二月卅一日	十ヶ月
二	自一九三五年一月一日至一九三五年十二月卅一日	十二ヶ月
〇三	自一九三六年一月一日至一九三六年 三月卅一日	三ヶ月
〇四	自一九三六年四月一日至一九三六年十二月卅一日	九ヶ月

統計番號	品名	第一次	第二次	第三次	第四次	單位	和蘭品への特別割當
一五三一—一五三二	キャンブリック	七五,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一六,〇〇〇	四八,〇〇〇	千碼	六一%
一五三三—一五三六	マダポラム及其他	二一〇	二五二	一三	三九	〃	八〇%
一五五七—一五六五	シャーチング	二九,〇〇〇	三〇,〇〇〇	六,七五〇	二〇,二五〇	〃	四三%
一五六六	ドリル	四,五〇〇	五,四〇〇	一,三五〇	三,〇〇〇	〃	一四%
一五六六	ジンス	八,〇〇〇	九,六〇〇	二,四〇〇	七,二〇〇	〃	五%
一五六七—一五六九	朱子、ネル、其他	三,〇〇〇	三,六〇〇	一,四五〇	四,三五〇	〃	一七%

備考 一、第二次以降に在りては、巾三八—四〇吋糸數三二本以上のもの、四一吋以上の三六本以上の未晒シャーチングも、キャンブリック中に含まれ、又巾三三吋以下糸數三五本以上並巾三四吋以上の糸數三七本以上のものは未晒シャーチングも、シャーチング中に含まる。

二、第四次に在りては、和蘭國特別割當にはジンスは削除、シャーチング四七・七八%と改めらる。

(五) 鑄鐵製フライ鍋輸入制限

統計番號	品名	次數	期限	期間	制限數量總計	單位
七四〇	鐵鍋	一	自一九三四年十月一日至一九三四年十二月卅一日	三ヶ月	一二五,〇〇〇	ネット瓩
		二	自一九三五年一月一日至一九三五年七月卅一日	七ヶ月	二九二,〇〇〇	〃
		〇三	自一九三五年八月一日至一九三六年七月卅一日	一ヶ年	特に外領に限り 三七〇,〇〇〇	〃

(六) 未晒綿布輸入制限

一	自一九三五年一月一日至一九三五年四月卅日	四ヶ月
〇二	自一九三五年五月一日至一九三五年十月卅一日	六ヶ月
〇三	自一九三五年十一月一日至一九三六年十二月卅一日	十四ヶ月

統計番號	品名	品位	第一次	第二次	第三次 (單位碼)
一五三三—一五三四	キャリコット		ナシ	10三,000	三六八,000

統計番號	品名		第一次	第二次	單位	
三五七	過燐酸、重過燐酸肥料		一、六六七、〇〇〇	一、六六七、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	每次共四〇%六四%
三五九	混合肥料		六、六六七、〇〇〇	六、六六七、〇〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇	〃
三六〇	硫安		一、六六七、〇〇〇	一、六六七、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	〃
三六一	石灰窒素		一、六六七、〇〇〇	一、六六七、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	〃
三六二	其他ノ肥料		一、六六七、〇〇〇	一、六六七、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	〃

(九) 電球輸入制限

一	自一九三五年三月十二日至一九三六年一月十一日					
〇二	自一九三六年一月十二日至一九三七年一月十一日				十二ヶ月	
統計番號	品名		第一次	第二次	單位	
四八〇	自動車用懐中電燈用	五、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	個		
四八〇	自動車用電燈用	一一七、〇〇〇	二三六、〇〇〇	〃	每次共五五%	
四二〇	家庭用	二六七、〇〇〇	二六〇、〇〇〇	〃	五五%	

(十) 商品輸入制限

一	自一九三五年三月十二日至一九三六年一月二十日					
〇二	自一九三六年一月十一日至一九三七年一月二十日				十二ヶ月	
統計番號	品名		第一次	第二次	單位	
九〇八	齒刷子		二〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	打	
九二三	双物（チイフ、小刀）		一二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〃	
九二四	〃〃（各種鉄）		一二〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	グルト庭	
九二五	〃〃（家庭用双物）		一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〃	
九二六	〃〃（剃刀類）		三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	グルト庭	
九二七	〃〃（其他）		一〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	〃	
九三六	石油ランプ（鉄力笠付吊ランプ）		一二三、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	〃	
九三七	〃〃（硝子笠付吊ランプ）		一二三、〇〇〇	一八、〇〇〇	〃	
九三八	〃〃（壁掛ランプ）		一七、〇〇〇	二四、〇〇〇	〃	

九三九　〃　（其他）　二二〇、〇〇〇　一八〇、〇〇〇　ブルト疋

（十一）加工綿布輸入制限

本類制限令は、自一九三五年四月廿一日至一九三五年二月廿日（十ヶ月間）の輸入量左記の如くに定められたるが、施行の中途、一九三五年十一月二十日限り廃止されたり。之に代る輸入制限が後述する織物輸入制限令とす。

統計番號	品名	數量	單位
五六三	布染綿布	九〇、〇〇〇、〇〇〇	碼
五六四	捺染綿布	七五、〇〇〇、〇〇〇	〃
五六五	糸染綿布（サロン制限令に含まるるものを除く）	五二、〇〇〇、〇〇〇	〃
一五九三―一五九六及一六四八	蚊帳地、フアンシー綿布、靴布等	六〇、〇〇〇、〇〇〇	〃
毛糸の中	模造パチツク並捺染サロン等	五、〇〇〇	コーヂ
五七八	卓子掛、白手巾等	二〇〇、〇〇〇	ブルト疋
五八八	綿メリヤスシヤツ	一、五〇〇、〇〇〇	打

（十二）綿タオル輸入制限

統計番號	品名	第一次	第二次	單位	特に和蘭品に
〇一	自一九三五年五月十八日至一九三六年三月十七日	十ヶ月			
〇二	自一九三六年三月十八日至一九三七年三月十七日	十二ヶ月			
五七六	綿製浴用タオル（打の目方一三二〇瓩以下）	二七五、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	打	なし
五七六	〃（〃以上）	九一、六六七	一一〇、〇〇〇	〃	八〇%

（十三）綿毛布輸入制限

統計番號	品名	第一次	第二次	單位	和蘭品へ
〇一	自一九三五年五月十八日至一九三六年三月十七日	十ヶ月			
〇二	自一九三六年三月十八日至一九三七年三月十七日	十二ヶ月			
五七七	兵隊毛布	一五、〇〇〇	第二次	單位	特に和蘭品に
			一八、〇〇〇	〃	一〇〇%

（十四）衞生陶器輸入制限

統計番號	品名	第一次	第二次	單位	和蘭品へ
〇一	自一九三五年五月三十日至一九三六年三月廿九日	十ヶ月			
〇二	自一九三六年三月三十日至一九三七年三月廿九日	十二ヶ月			
四四八	移動式のもの	三〇、〇〇〇	第二次	單位	和蘭品へ
四四九	固着式のもの	一五〇、〇〇〇	一四、四〇〇	ブルト疋	四二%
一四四九	右の附屬品等	七五、〇〇〇	二一四、〇〇〇	〃	四〇%
			九〇、〇〇〇	〃	二〇%

（十五）綿以外の各種織物輸入制限

本制限令は、自一九三五年六月十四日至一九三六年四月十三日（十ヶ月間）の輸入數量左記の如くに定められしが、施行の中途、一九三五年十一月二十日限り廃止されたり。之に代る輸入制限が後述する織物輸入制限令とす。

統計番號	品名	數量	單位
五六七―五六八	毛及毛交織物	三七五、〇〇〇	ブルト疋
五六九―五七〇	絹及絹交織物	三四〇、〇〇〇	〃
五七一	人絹織物（サロンを不含）	四、二五〇、〇〇〇	〃
五七二	麻及麻交織物	二九〇、〇〇〇	〃
五六八	毛織毛布、特殊毛布	六〇、〇〇〇	〃
一六三一	手巾（白以外のもの）	九五〇、〇〇〇	打
五七四	綿天鵞絨	二五〇、〇〇〇	ブルト疋
五六九	絹天鵞絨	八五、〇〇〇	〃

（十六）陶磁器輸入制限

〇自一九三五年七月九日至一九三六年五月八日　十ヶ月
自一九三六年五月九日至一九三七年五月八日　十二ヶ月

（十七）金屬製品輸入制限

○自一九三五年七月二十四日至一九三六年五月十三日

自一九三五年五月二十四日至一九三七年五月十三日　十二ヶ月

統計番號	品名	第一次數量	第二次數量	單位
四三三一—四三五	陶器（皿、珈琲碗、鉢、土瓶）	一六〇、〇〇〇	一二二、〇〇〇	打
四三六	〃（其他）	一、一〇〇、〇〇〇	二五五、〇〇〇	グルト
四四五	磁器（皿、珈琲碗、鉢、土瓶）	三、三〇〇、〇〇〇	四、一八四、〇〇〇	〃
四四六、四四七	〃（其他及食卓用陶磁器）	二、六〇〇、〇〇〇	三、一八六、〇〇〇	〃

（十八）石鹸輸入制限

○自一九三五年八月十日至一九三六年六月九日

自一九三六年六月十日至一九三七年六月九日　十二ヶ月

統計番號	品名	第一次數量	第二次數量	單位
四一八	化粧石鹸	八五〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	千瓦
四一九、四二〇、四二一	其他石鹸（洗濯石鹸、滑瀉石鹸）	二、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〃

（十九）綿織糸輸入制限

○自一九三五年八月三十一日至一九三六年六月三十日

自一九三五年八月三十一日至一九三七年四月一日より三ヶ月間　十ヶ月　延追加、

統計番號	品名	數量	單位	和蘭品へ
三一五	綿糸			
三一五一一	ボビン巻き白もの	四、一六二、五〇〇	千瓦	一七・五%
三一五一二	〃色もの	二九六、七〇〇	〃	〃
三一五一三	〃球巻き白もの	三三二、二五〇	グルト	〃
三一五一四	〃色もの	二七、八三〇	〃	〃
三一五一七	其他の綿糸	二、三七五	〃	〃

（二十）包裝紙輸入制限

統計番號	品名	期間	數量 總計	單位	和蘭品へ
〇六二〇	包裝用紙	至自一九三五年七月十八日 一九三六年七月十八日	五、七五七、〇〇〇	千瓦	一、七二七、〇〇〇

（二十一）織物輸入制限

○自一九三五年十一月廿一日至一九三六年九月十日

統計番號	類別	品名	品質	品位	備考	制限數量	和蘭品制當	單位
a	三毛〇	布	染綿布					
b	三毛一	〃	ジャンプリッタンス、ドリル		巾二六吋以下	二、三三、〇〇〇	—	碼
c	三毛二	〃	及ジャンス、ドリル		巾二六吋以下ノ二八吋ニ糸ノ物ニシテ、數ハ三巾二本以七	六、七〇〇、〇〇〇	—	〃
d	三毛三	〃	〃		巾二六吋以下ノ二八吋ニ糸ノ物ニシテ、數ハ三巾二本七以上	三、四〇〇、〇〇〇	—	〃
						八、三三、〇〇〇	—	〃

× e	三五七二	〃	〃	巾二七吋及以上。糸數三三本及以上のもの		六、〇五〇、〇〇〇	一、〇六一、七七五	—	〃
f	四五七二	〃	〃	巾二九吋及以上。糸數三二本及以下のもの		一、〇〇〇		—	〃
× g	一五七三 二五九六	〃	朱子、イタリアン、ラスチング、ヴエネシアン	ブロッシエ物も含むもの	二五九六はブロッシエ物を含むもの	一三、五〇〇、〇〇〇	六三五、〇〇〇	—	〃
h	一五七四	〃	綿ネル			一、二五〇、〇〇〇		—	〃
i	一五七五 二五九六	〃	上記以外の布染綿布	巾二四吋及以下。糸數三二本及以下	右同	二五、〇〇〇、〇〇〇		—	〃
j	二五七五 二五九六	〃	〃	巾二四吋及以下。糸數三三本及以上	右同	一、〇〇〇		—	〃
× k	一五七六 二五九六	〃	〃	巾二五吋及以上のもの	右同	三三、一一七、〇〇〇	一六、〇六五、〇五七	—	〃
l	一五七七	捺染綿布	ドリル、ジンス及トウイル	巾二八吋以下糸數三三本及以下の立縞捺染物	地染の如何を不同且抜染物も含む。	一三、〇八三、〇〇〇		—	〃
m	二五七七	〃	〃	右以外のもの		一、〇〇〇		—	〃
n	一五七八	〃	朱子			一〇〇、〇〇〇		—	〃
× o	一五七九	〃	ネル			二五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—	〃
p	一五八二	〃	上記以外の捺染物	巾二四吋及以下、糸數三二本及以下のもの		五六、三三三、〇〇〇		—	〃
q	二五八二	〃	〃	巾二四吋及以下、糸數三三本及以上のもの		一、〇〇〇		—	〃
× r	一五八三	〃	〃	巾二五吋及以上のもの		一六、〇二八、〇〇〇	四、〇〇七、〇〇〇	—	〃
s	一五八四	糸染綿布	ドリル、ジンス及びトウイル	巾二四吋及以下糸數三三本及以下の白地物	サロン輸入制限に含まるるもの除く	三三、三三三、〇〇〇		—	〃
t	二五八四	〃	〃	其他のもの	〃	九〇〇、〇〇〇		—	〃

u	一五八九	〃	ネル			二〇、八〇〇		—	〃
v	一五九〇	〃	柳條布			四、二五〇、〇〇〇		—	〃
w	一五九一	〃	上記以外の糸染綿布	巾二四吋及以下、糸數二六本及以下のもの	サロン制限令に含まるるものを除く	五、三三三、〇〇〇		—	〃
x	二五九一	〃	〃	巾同上、糸數二七本及以上	〃	一、〇〇〇		—	〃
× y	一五九三	〃	〃	巾二五吋及以下のもの	〃	二、三三五、〇〇〇	八一三、七五〇	—	〃
× z	一五九四	蚊帳	蚊帳用織物		チユールも含む	六、六六七、〇〇〇	六六六、七〇〇	—	〃
a a	二六〇六	〃	製品			一九三三年の八三%		—	ブルト竏
b b	一五九六	ファンシー綿布	綿ボイル	双糸物並に片方双糸物		二、五〇〇、〇〇〇		—	碼
c c	二五九八	〃	アジュール物 金銀箔捺印物 マーセライズ物 人絹交織物 其他特殊織物			四一七、〇〇〇		—	〃
d d	一五九七	綿サロン類	模造バチック物	大人用サロン	製品も含む	八三三		—	コーチ
e e	一五九八	〃	〃	小供用サロン	〃	八三		—	〃
f f	一五九九	〃	〃	カインパンジヤン、スレンダン、カインカパラ	〃	一、六六七		—	〃
g g	一六〇〇	〃	捺染物	大人用サロン	〃	二五〇		—	〃
h h	一六〇一	〃	〃	小供用サロン	〃	一〇		—	〃
i i	一六〇三	〃	〃	カインパンジヤン、スレンダン、カインカパラ	〃	二一〇		—	〃
j j	一六〇七	〃	糸染物	スレンダン及カインカパラ	〃	二五〇		—	〃
k k		特殊綿製品		襁褓、雑巾、拭磨き布浴布		一九三三年の八三%		—	ブルト竏

×ll	一六一〇	毛織物			三一七、五〇〇	〃
×mm	一六一二	毛交織物			五三、二五〇	〃
nn	一六一六	絹織物			三八九、二〇〇	〃
oo	一六一七	絹交織物			一七〇、八〇〇	〃
×pp	一六一八	人絹及其交織物			二、七〇八、三〇〇	〃
qq	一六一九 一六二〇	麻及其交織物			二九九、二〇〇	— ブルト疋
×rr	一六二一	其他繊物			九一、七〇〇	〃
ss	一六二二	被覆物上掛物	毛布	黄麻を混織せる綿製品 純毛物、半毛物 別掲以外のもの 起毛されてゐないもの	一〇、二四〇	— 枚
×tt	一六二五	〃		綿毛布、兵隊毛布以外	三三、三〇〇	ブルト疋
×uu	一六二六 一六二七	織物製品	卓子掛、ナフキン、其他類似品 シーツ	綿製、麻製、半麻製	八一、一〇〇	〃
vv	一六三〇	〃	白ハンカチ		三五五、八〇〇	— 打
ww	一六三〇	〃	〃		一、〇〇〇	〃
xx	一六三一	〃	糸染ハンカチ		三七五、〇〇〇	〃
yy	一六三一	〃	〃		一、〇〇〇	〃
zz	一六三一	〃	別掲以外の手巾		四一七、〇〇〇	〃
3a	一六三三	天鵞絨	衣服用	綿製	三七〇、〇〇〇	— ブルト疋
3b	一六三三	〃	〃	絹製	九五、八〇〇	〃
3c	一六三七	織物製品	カーテン布家具用布壁張布		一九三五年の八三%	〃
3d	一六三八	莫大小並編製品	肌着、下着	綿製	一、五〇〇、〇〇〇	一 打

3e	一六三九	〃	〃	右以外のもの全部	猿又シュミーズ等	一五、〇〇〇	— ブルト疋

（備考）×印は英國品にも特別割當を規定さるゝもの

（二十二）自動車タイヤチューブ輸入制限

○自一九三五年十二月三日至一九三六年十月三日

統計番號	品名		數量	單位
九五九	タイヤ（自動車用）			十ヶ月
九六一	〃	（自動自轉車用）	一、六七三、〇〇〇	〃
九六〇	チューブ（自動車用）			
九六二	〃	（自動自轉車用）	一六三、三〇〇	〃

（二十三）既製衣類輸入制限

○自一九三六年二月八日至一九三六年十二月七日

統計番號	品名		數量	單位
五八六	男子用並少年用上衣		一三五、〇〇〇	ブルト疋
五八七	婦人、及少女、並に少兒用の上衣		八五、〇〇〇	〃
五九〇	綿製下着ブロース		二〇〇	打
五九一	右以外の下着		七七五、〇〇〇	ブルト疋
五九六	別掲以外の衣服着物類、ショール、襟巻、ヴエール、面網、其他之等類似品		八〇、〇〇〇	〃
六〇〇	鳥打帽、學帽、トルコ帽、頭巾、其他頭に被るもの		二、五〇〇、〇〇〇	個
	布團上張り布		一〇〇	枚

三

輸入制限並輸入許可は、蘭領印度經濟復興並に保護のために、和蘭並蘭印の產業保護、蘭印に於ける商品需給の調

整、及び外國貿易の調整の目的を有するものと稱せらるゝも、其の眞意は日本品の輸入抑壓並に日本輸入商社の膨脹阻止に在りといひ得べし。從つて之がために蘭印經濟就中土人經濟の得たる處は極めて薄く却つて其の蒙れる不便不利のみ徒らに大なりと稱し得べく、蘭印經濟復興に資せる處は單に部分的局部的に有效なりしに留まるといふ狀態なり。即ち蘭印に於ける金融主要部門、產業主要部門之と並に和蘭本國の經濟之なり。

而して輸入制限品にして和蘭並蘭印の工業保護若しくは工業振興に資せらるゝものと認めらるゝものは、セメント、ビール、織物類、人造肥料、電球、衞生陶器、縫糸等の如く和蘭品に對し優先割當を規定されつゝある類にして、其他のものは主に輸入並配給の統制に在るものと概論することを得。

今現在の輸入制限されつゝある商品の蘭印輸入統計を見るに概算左表の如し。（單位千盾）

	蘭印輸入總額	制限商品輸入額	制限品の%
一九二九年	一、〇八八、四〇三	三四七、四六三	三一・九
一九三〇年	八六二、九九四	二五二、八四〇	二九・三
一九三一年	五六五、一八五	一七三、九六〇	三〇・八
一九三二年	三六八、七五八	一三二、五九〇	三六・七
一九三三年	三一八、一四四	一二三、九六九	四〇・一
一九三四年	二八六、一六三	一〇、七二九	三八・七

即ち輸入額よりすれば、殆んど總額の四割を占むる商品が輸入制限されつゝある處とす。而して右輸入制限品に於ける日本、和蘭、英國、三國品の輸入額を概算するに左の如く、之によるに輸入制限の目的が日本品排斥に在るものと稱するも亦止むを得ざる處とすべし。

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
輸入制限品輸入總額	三四七、四六三	二五二、八四〇	一七三、九六〇	一三二、五九〇	一二三、九六九	一〇、七二九
金額（千盾）日本品	八五、一四四	七四、四七二	六八、四二八	四二、三四七	三〇、二三四	一九、一八九
金額（千盾）和蘭品	六五、五六〇	四八、三五三	三〇、二三四	一九、二〇四	一九、一八九	三九・四
金額（千盾）英國品	六〇、四一七	三八、四七三	一九、一八九	一五、九〇九	四八・六	一四・五
% 日本品	二四・五	二九・五	三九・四	四八・六	一四・五	一七・四
% 和蘭品	一八・九	一九・一	一七・四	一四・五	一七・四	一一・〇
% 英國品	七・四	一五・二	一一・〇	一二・〇	一一・〇	九・〇

尙、右に於ける日蘭英各國の輸入制限品輸入額を夫々の其の輸入總額より見るに次の如し。（單位千盾）

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
日本品 輸入總額	一九二九年 一一四、八六九	一九三〇年 一〇〇、一五四	一九三一年 七八、三三八	一九三二年 九八、七一五	一九三三年 九二、九一六
日本品 制限品 ‰	八五、一四四 七四・二	七四、四七二 七四・四	六四、二四七 八二・一	七九、八五四 八一・〇	七三、〇九七 七八・九
和蘭品 輸入總額	二一三、五〇五	一六三、三一五	一九、二〇四	一五、九〇九	一一、〇九九
和蘭品 制限品 %	六五、五六〇 三〇・七	四八、三五三 二九・六	四八・六	六四・四	五、八八五 六六・五
英國品 輸入總額	一一七、三一三	八七、九二四	三九、三五四	三〇、六四〇	二三、五七三
英國品 制限品 %	六〇、四一七 五一・七	三八、四七三 四四・八	一五、九〇九 三九・四	一一、〇九九 三六・三	五、八八五 二四・九

即ち一九三三年輸入狀況よりすれば、日本品に在りては總額の八〇%を超ゆる金額の商品が輸入制限さるゝに反し、和蘭品に在りては二三%英國品にては三六%。更に一九三四年を見るに、日本品七九%和蘭品二二%英國品二五%。

之によりて制限商品の選擇標準の奈邊に在るかを察知し得べし。

尙非常時輸入局長の談によれば、「一九三五年度に於ける輸入手續の手數料收入は、三十六萬四千九百七十一盾八十四仙とす。而して手數料は輸入金額の約〇・五%なるが故に、右金額より推して同年度に於て非常時輸入局發給の輸入許可書を以て輸入されたる商品は約七千三百萬盾に達す。而して一九三五年の蘭印輸入總額は二億七千四百萬盾なるが故に輸入制限商品の輸入額は總額の二割七分を占むるものと推定さる。」と。

輸入貿易政策は斯くの如く專ら輸入統制に在る處なるが、この根因は輸出入の調節に在るものなること、既に述べたる處なり。今最近に於ける蘭領印度の貿易を見るに

	輸入額(千盾)	輸出額(千盾)	輸入百に對する輸出の指數	出超額(千盾)
一九三一年	五六五、一八五	七四七、一六一	一三二	一八一、九七六
一九三二年	三六八、七五八	五四一、三七五	一四七	一七二、六一七
一九三三年	三一八、一四四	四六七、八九二	一四五	一四九、七四八
一九三四年	二八六、一六三	四八七、三二八	一七一	二〇一、一六五
一九三五年	二七三、三七〇	四五〇、七七五	一六五	一七七、四〇五

の如くに、出超額は莫大なるものあり。

然るに對日本貿易について見るに

	輸入額(千盾)	輸出額(千盾)	輸入百に對する輸出の指數	入超額(千盾)
一九三一年	九二、五五一	三三、〇五一	三六	五九、五〇〇
一九三二年	七八、三三八	二三、六五七	三〇	五四、六八一
一九三三年	九八、七一五	二二、七七〇	二三	七五、九四五

一九三四年	九二、九一六	一九、四二七	二一
一九三五年	八二、〇九二	一四、一四八	一七

一九三四年	二四、一四八	一九、四二七	七三、四八九
一九三五年	八二、〇九二	一四、一四八	五七、九四四

の如く、著しき入超を示し輸入對輸出の比は一九三四年に於ては僅かに二一%に過ぎず。一九三五年に入りては輸入制限と輸出增加のために二九%に達したるも、尙之を蘭領印度の貿易總額に於ける比率一六五%に比較すれば、實に格段なる差異あり。蘭領印度に於て對日本貿易に關し種々論議され、輸入制限の如き主として日本品に目標を置かるゝも亦蓋し當然とも云ひつべし。

尙蘭領印度輸入制限の一目的が領內商品配給機關の調整に在ることに既に述べたる處なり。この目的よりすれば相當の效果を示したるものゝ如し。卽ち輸入業者の濫立防止、並に經濟機構の現狀維持之にして、之により輸入可能數量も略々豫定されてあるが故に業者の過度なる競爭は避け得られて安穩なる營業態型を現はし利益率も著しく好轉せり。一九三五年に於ける邦商の業態も略々然る處にして、或は却つて輸入制限實施によりて得たる處多しとも稱し得らるゝ所以のもの全く之に因るものなり。邦商に於てすら斯くの如し。況んや蘭商に於てをや。

（參考）現行の輸入制限令並に輸入許可令は、全て一九三三年非常時輸入條例（一九三三年九月十二日公布法令公報第三四九號、一九三五年十一月二十一日一部改正、法令公報第五五三號）の主要條文を揭ぐるに左の如し。

第二條　蘭領印度關稅施行地域內ニ輸入サルル特定ノ商品又ハ商品グループノ價格數量又ハ重量ガ、夫々ノ場合ニ特ニ定ムル量額ヲ超ユル場合ニハ、政府令ヲ以テ其ノ超過スルモノノ輸入ヲ禁止スルコトアルベシ

前項ノ政府令ヲ以テ、(一)之ガ施行方法、(二)特別ノ場合輸入禁止ノ除外例ヲ認ムル權限、並ニ(三)右施行ニ要スル經費支辨ノタメ當事者ニ賦課スベキ金額ヲ定ムルコトヲ得。

第三條　前條ニ規定シタル商品グループヲ適用スル政府令ノ實施ハ最高十ケ月トス。必要ト認ムル場合ニハ此ノ期間ニ限リ政府令ヲ以テ期間ヲ定ムルコト得。

第三節　輸出貿易政策

輸出に關する政策は云ふ迄もなく輸出增進とす。今蘭領印度輸出狀況を見るに其の指數次の如し。

	輸出數量	輸出總額	輸出物產價格
一九二八年	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九二九年	一〇五	九一	九五
一九三〇年	一〇三	七六	六五
一九三一年	八四	五一	四五
一九三二年	八九	三七	三四
一九三三年	八八	三一	三四
一九三四年	九四	三四	三七
一九三五年	九七	三一	三六

右の如くに輸出數量に於ては近年漸く增加しつゝあるも、輸出物產價格低落のため輸出額に於ける減少は著しきものあり。然るに、和蘭金本位維持のため、右價格の低落は對外的に觀じて殆ど意義なきこと次によりて明らかたり。今各年度に於ける平均爲替低下率（平價に對する時價の比率。和蘭商事組合のT・T相場）を見るに實に次の如し。

	對日本	對倫敦	對紐育
一九三〇年	九九・五	一〇〇・一	一〇〇・四
一九三一年	九八・九	九三・七	一〇〇・七
一九三二年	五七・八	七二・八	一〇〇・八
一九三三年	四一・〇	六八・七	八二・二

屑價値の昂騰如斯なるが故に、內部的に於ける物產價格下落上述の如しと雖も、之を對外的に觀すれば殆んど問題とならざるなり。況んや世界各國の不況何れも益々深刻化したるの大勢に於てをや。

此の間に處し、蘭印政府は或はゴム、茶、錫の如く世界協定によりて輸出の調整に力め、或は市場開拓によりて輸出增進を圖り、消極的には物產原料の輸出を禁止して競爭市場の生產を回避し（註）、或は輸出許可制によりて其の手數料を以て斯業の改善に資する等各種の努力を致しつゝあり。而して之等輸出保護奬勵に伴ふものは、領內各種產業の振興策とす。

（註）輸出の消極的奬勵として、上述非常時輸入條例に對應するものに、一九三三年非常時輸出條例（一九三三年十月三日公布、法令公報第三五三號）より。この主要條文は次の如くにして、而して本條例に基く政府令は最高十ケ月とす。

第一條　緊急ノ必要ト認ムル場合ニハ、住民ニ必需品ヲ供給シ若クハ蘭領印度生產ノ植物種苗ノ濫輸出ヲ防止スルタメ、政府令ヲ以テ右ノ事項ヲ禁ジ又ハ制限スルコトヲ得。

イ、特定ノ商品又ハ商品グループヲ蘭領印度關稅施行地域外ニ輸出スルコト

ロ、特定ノ商品又ハ商品グループヲ蘭領印度關稅施行地域內ノ特定ノ地域ヨリ輸出スルコト

ハ、特定ノ商品又ハ商品グループヲ蘭領印度關稅施行地域內ノ特定ノ地域ヨリ他ノ特定ノ地域ニ搬出スルコト

本條例ノ施行細則及特別ノ場合ニハ右ニ定メル輸出又ハ搬出ノ禁止ニツキ除外例ヲ認ムル權限ニ關シテハ政府令ヲ以テ之ヲ定ム。

第四章　蘭人經濟の擁護

玆に言ふ迄もなく、蘭領印度は和蘭の植民地とす。蘭領に在る和蘭人の數は二十萬餘、之が此地に其の生計を維持しつゝある處なるのみならず、蘭印の富が實に蘭印の富其のものが和蘭經濟に重大なる寄與をなしつゝあるものなる事に想念せば、蘭印政府が和蘭人諸經濟施設並に和蘭人經濟擁護に多大なる努力を致しつゝある所以のものを明白に理解することを得べし。

蘭印の經濟界は一九二九年を契機として爾後一途不況に赴けること既に述べたるが如し。

今參考のために、蘭印主要會社の株式價並に配當率を表示するに

		一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
和蘭貿易會社（五〇、〇三〇）	配當	一〇	一〇	六	—	—	—	—
	株價（最低	一六五	一六三	一三二	六九½	五〇½	四二	二四
	最高）	二〇〇	一八八	一七六	一四九½	九一	七二	四九
エスコムプト會社（二一〇、〇〇〇）	配當	五	五	五	—	—	—	—
	株價（最低	八二½	八四	六七	三八½	四〇	三二	一八
	最高）	九四½	九二½	九〇½	七四	四六½	四五½	二七½
ハンデルス銀行（一〇〇、〇〇〇）	配當	一〇	一〇	八	—	—	—	—
	株價（最低	一五六	一五二½	一一三½	五四	四五	四二	四九
	最高）	一八九	一七三	一六一	一三六	七七	七〇½	六九½
ロッテルダム銀行組合（一〇〇、〇〇〇）	配當	五	五	五	—	—	—	—
	株價（最低	—	—	—	—	—	—	—
	最高）	—	—	—	—	—	—	—
バダンセメント會社（一〇、〇三〇）	配當	六	七	四	—	—	—	—
	株價（最低	一〇一	九九½	八〇½	—	—	—	—
	最高）	一一七½	一〇九	八七	—	—	—	—
インターナショ（五〇、〇〇〇）	配當	一七	一六	一四	五	四	—	—
	株價（最低	二六五	二六〇	一八六	一〇一½	八六	八〇	七五
	最高）	三二四½	三〇八	二七一	二二八	一四一½	一四〇	一〇七
蘭印ガス會社（三〇、〇〇〇）	配當	一二½	一二½	一二½	一二½	一〇	一〇	八
	株價（最低	二二二	二二五	二〇八	一四八	一六〇	一七五	一六三½
	最高）	二八八½	三〇〇	二四〇	一二七½	一九五	二一二½	一八二½
リンデテーヴス會社（二二五、〇五〇）	配當	一一	一一	七½	四	—	—	—
	株價（最低	一五二	一四五	九一	五〇½	四九	五四½	五一½
	最高）	一八五	一七二½	一五四	一〇九½	八二½	七八	六九
アムステルダム商事組合（八〇、〇〇〇）	配當	三〇	三〇	一五	五	五	五	四
	株價（最低	六二二	五五五	三一三½	一六〇	一三二½	一三七½	一三九
	最高）	八二五	六九〇	五八一½	三九七½	三〇二½	二四八	一九四
爪哇栽培會社（一〇、〇〇〇）	配當	四二	三六	一二	—	—	—	—
	株價（最低	—	—	—	—	—	—	—
	最高）	—	—	—	—	—	—	—

	關西印刷㈱		王子製紙㈱		爪哇支那日本線㈱		ダラッカン石油㈱		關西人造絹糸聯合會	
	株價	配當	株價	配當	株價	配當	株價	配當	株價	配當
一九二八年	最高 四〇		最高 七五		最高 二五		最高 二〇		最高 二八	
	最低 三〇		最低 五〇		最低 〇〇		最低 〇〇		最低 〇〇	
一九二九年	最高 二二	一七	最高 二五三	一四	最高 一四八	一三〇	最高 四三六	三六		一九
	最低 二一		最低 二二		最低 九四		最低 四〇			
一九三〇年	最高 二六七		最高 二九五	一四	最高 一九五		最高 四四〇	三二		一九
	最低 二二一	五	最低 二二〇		最低 一六一		最低 三五〇			
一九三一年	最高 二四七	九	最高 二五二		最高 一〇七		最高 三六五		最高 二三〇	
	最低 二二三		最低 二二五		最低 一六一		最低 二八〇		最低 二三〇	
一九三二年	最高 一六七		最高 一六七		最高 七四		最高 三〇七		最高 一〇三	六〇
	最低 一五七		最低 一〇二		最低 二六		最低 二〇七		最低 六〇	
一九三三年	最高 一四七		最高 一二四		最高 四二		最高 一九五		最高 一二五	
	最低 一二六		最低 一二七		最低 二二		最低 一九五		最低 一〇三	
一九三四年	最高 一二六		最高 一一		最高 三〇		最高 二二〇		最高 一〇三	
	最低 一一〇		最低 一六七		最低 二七		最低 二〇八		最低 六〇	
一九三五年	最高 一一〇		最高 九六二		最高 三〇二		最高 二二一			
	最低 一〇六		最低 九〇		最低 二六		最低 一九五			

各括弧内に示せるは資本金（単位千圓）とす。

不況深刻化の一班は右により、明らかなるも、之に伴ひて破産の内容も漸次悪化しつゝあり。

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
七月一日より翌年六月末日に至る一年間に於ける定期決算会社数	七四三	七四三	七〇一	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇
完了せるもの 件数	八七六四	八七四	八四三	八四三	八四三	八四三	八四三	八四三
完了せるもの 資産（千圓）	四、三六一	四、三六一	四、三六一	四、三六一	四、三六一	四、三六一	四、三六一	四、三六一
完了せるもの 負債（千圓）	四三四、七五八	四三四、七五八	四三四、七五八	四三四、七五八	四三四、七五八	四三四、七五八	四三四、七五八	四三四、七五八
完了せるもの 支拂（千圓）	二、二一五八	二、二一五八	二、二一五八	二、二一五八	二、二一五八	二、二一五八	二、二一五八	二、二一五八

共他不況化漸進の一面として交通遞信關係方面等に於ける情勢を瞥下するに左に挙ぐるが如し。

		一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
電報料収入		二、〇八四、〇六九	一、六四六、〇九九	一、五四〇、〇四四	一、四三〇、〇三〇	一、四一五、〇〇〇
郵便料収入		二、〇七五、〇六〇	一、九六六、四七〇	一、八九二、〇五〇	一、八一四、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
〃	貨物取扱収入（千圓）	五七、五六〇	四六、六八九	三四、八六一	三〇、六三五	二四、八三七
〃	旅客収入（千圓）	二二、〇八四	一六、四三七	一三、五四九	一一、七六三	一〇、二四八
汽車、電車、國鐵、私鐵旅客収入（千圓）		二二、〇八四	一六、四三七	一三、五四九	一一、七六三	一〇、二四八

尚、参考資料として鑛業の狀態を見るにこれに於ても漸次其の數を減じ且平均一件の資上金も亦著しく低下せり。

	鑛業數	鑛業資上金（千圓）	平均一件の鑛上金（圓）
一九三一年	一六、七二二	一九、三五三	一一、五七
一九三二年	一四、九二三	一五、〇三三	一〇、〇七
一九三三年	一三、二三五	一二、三三五	九、三五
一九三四年	一二、七六九	八、九五二	七、〇一
一九三五年	一二、〇四四	八、六九	七、四五
一九三六年	一一、九〇〇	八、一七〇	七、一七
一九三七年	一一、四五五	八、一七七	七、一七
一九三八年	一一、四五五	八、一七七	七、一七
一九三九年	一一、四三六	九七七	六、三四
一九四〇年	一一、〇九二	九、〇一	八、一五
一九四一年	一一、〇七二	九、〇一	八、一五
一九四二年	一一、〇七二	九、〇一	八、一五
一九四三年	一一、〇七二	九、〇一	八、一五
一九四四年	一一、〇七二	九、〇一	八、一五
一九四五年	一一、〇七二	九、〇一	八、一五

電話料收入（〃）	一一、四七一（一〇〇）	九、八九七（八六）	八、五〇八（七四）	七、七二三（六七）	七、二七三（六三）
阿片消費高（〃）	二五、三一二（一〇〇）	一七、三四六（六九）	一二、六六一（五〇）	一一、一四六（四四）	九、五二八（三八）
石油消費高（千立）	三三一、三八六（一〇〇）	三一六、二五一（九九）	二九六、五〇八（九二）	三二〇、九四三（一〇〇）	三一二、三二三（九七）
ガソリン消費高（〃）	二三九、三二八（一〇〇）	二一二、九八〇（八九）	一六六、二六二（七〇）	一六九、五六二（七一）	一四八、八九七（六二）
燐寸消費高（千グロス打）	三、六五四（一〇〇）	二、二六七（六二）	一、四九六（四一）	一、二〇一（三三）	一、〇一一（二八）

備考　左側括弧内は一九三一年を一〇〇とする指數を示す。

次に、蘭印政府の調査（政府の課税基礎）にかゝる蘭領印度住民の收入評價を見るに次の如くなるが、これによりて如何に個人收入が減少しつゝあるかを明白にし得べし。之れ卽ち或は官廳會社等に於ける減俸によりて或は之等の解雇解職によりて或は各種營業の不振によりて逐次收入を減少せるものにして、以て不況の一面を知るべきなり。

（單位人）

年收額	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
三百盾以下	二、六三七、二四〇（六五・〇）	二、五七六、六七三（六六・二）	二、五八二、六八八（七二・二）	二、二一三、五〇七（七七・六）
六百盾以下	九七〇、七〇二（二三・九）	九二四、三九三（二三・八）	六九三、五九二（一九・四）	四一四、二四〇（一四・五）
千二百盾以下	二七六、六三五（六・八）	二二一、九五九（五・七）	一五七、五六一（四・四）	一〇六、六七三（三・七）
三千盾以下	九三、三八五（二・三）	八八、七〇三（二・三）	七七、四四一（二・二）	六七、三〇四（二・四）
六千盾以下	四三、五九一（一・一）	四二、三六一（一・一）	三八、〇二五（一・一）	三三、六七二（一・二）
一萬二千盾以下	二六、三〇四（〇・六）	二四、九〇〇（〇・六）	一九、六五八（〇・五）	一五、〇五一（〇・五）
一萬二千盾以上	一〇、三四七（〇・三）	八、五五一（〇・二）	五、三八八（〇・二）	三、四五六（〇・一）
人員計	四、〇五七、六九八	三、八八七、五二〇	三、五七四、三五三	二、八四八、九〇三
評價總額計（千盾）	一、九〇七、〇一一	一、七四三、六九七	一、四四六、五〇二	一、一一二、九五一

（備考）括孤內は總人員に對する夫々の百分率とす。

尙特に歐洲人について右收入狀況を見るに左の如し。

年收額	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
三百盾以下	一、五七六	一、五四三	一、八一九	一、三二九
六百盾以下	三、八五四	三、九七八	四、八〇七	六、九四八
千二百盾以下	九、四四二	九、四三三	一〇、二九九	一一、五五五
三千盾以下	二二、六九四	二二、〇〇三	二二、二五二	二三、六九四
六千盾以下	二六、七九七	二六、六八五	二五、七〇一	二四、八二七
一萬二千盾以下	二一、五四一	二〇、七〇一	一六、七七八	一三、一四一
一萬二千盾以上	八、七八〇	七、一五〇	四、四四七	二、八八四
人員計	九四、六八四	九一、四九三	八六、一〇三	八四、三七八
評價總額計（千盾）	五四三、一九四	四八五、四三一	三九〇、五五九	三二八、五六二
平均一人當り收入額（盾）	五、七三五	五、三〇五	四、五三六	三、八九四

一九三四年以降は今尙未詳なるも、右各年に於てする人員の減少、評價額總計の減少著しきものあり。而して平均一人當り收入額を算出するに左の如くにして一九三三年に於ては一九三〇年の七割にも達せざる狀態なり。

云ふ迄もなく右に於ける歐洲人の大部分は之れ和蘭人とす。從つて右に於ける收入減は卽ち和蘭人の生活低下と見て然るべきものなり。

然るにも不拘、邦人並に邦品の本格的進出は一九二九年以降の事實に屬し（註）、從つて和蘭人經濟が蘭印經濟界の大勢に竿さして低下しつゝあるに抗して進出せる處とも云ひ得べく、之れ卽ち蘭人の不況は一面邦人並本邦品の進出にも多少の影響を蒙りたるものとも稱せらるゝ所以なり。

（註）之に關して參考指數を示すに次の如し。

	爪哇銀行紙幣流通高	輸入總額	日本品輸入額	輸出總額	輸入總量	日本品輸入量
一九二八年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九二九年	九七	一〇九	一一二	九一	一一九	一一三
一九三〇年	八六	八六	一〇三	七六	一〇〇	一一一
一九三一年	七七	五七	九九	五一	七八	一二〇
一九三二年	七〇	四一	八四	三七	六一	一一一
一九三三年	六三	三三	一〇三	三一	五九	一四六
一九三四年	五九	三〇	九九	三三	五六	一一三
一九三五年	五六	二九	八八	三〇	五八	一一二

これを以て輸入制限に於ても邦人の割當數は原則的に低率に定められ（巷間の噂によれば最高二割五分なりともいふ）其の絶體過半率は蘭商に之を附與して輸入權の蘭商絶體制を確立し、以て配給權並に價格決定權を其の手中に收めんことを期しつゝあり。卽ち最近に於ける本邦商品の進出は本邦商社による處亦尠からず、從つて市場價格の決定に重大なる勢力を有する處なるが、邦商の爲す所概ね薄利廉價主義なり。然るにこの薄利主義は蘭人經濟に致命的打擊を與へたる所なり。而も邦商の薄利主義たるこれ一因は輸入卸其他各配給部門に涉る邦商の無統制にも基くものにして、邦商と雖も之がために獲たる處は割合に尠しと見るも過言に非るべし。況んやこれが波及せる蘭商の營業に於てをや。

卽ち、蘭商に於てもこれに應じ亦廉價ならしめざるを得ず、これがために營業利益を漸減し、延いて減俸整理縮少等（註）に到らざるを得ず。之れ上述の蘭人收入の減少せる一因をなせるものにして、自ら生活程度を低下せざるべからざるに至れる處とす。

（註）勿論和蘭人の收入減は、主として蘭印經濟界の不況に基くものにして、整理減俸の如きは農園關係に於て最も多し。然れども銀行其他各種營業に涉り加之官廳に於ても亦尠からず。

今、歐洲人の求職求人數を見るに次の如し。（單位人）

		一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
（一）求人者	男	一、三四九	九一八	一、二〇五	一、三〇九	？
	女	八三〇	七二三	八〇九	七五八	
	計	二、一七九	一、六四一	二、〇一四	二、〇六七	？
（二）求職者	男	五、七九八	七、三二七	七、七九三	六、六二八	？
	女	一、七三五	一、八八七	二、〇七四	一、九六九	？
	計	七、五三三	九、二一四	九、八六七	八、五九七	九、五七八

（備考）求職者は其の年に於ける新規申込人員。

右に伴ひて、失業救濟資金も年と共に增加せり。今失職者救濟委員會の救濟金支出額を見るに次の如し。（單位盾）

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
歐洲人	一九三一、八九六	九五三、九一三	七三一、二一〇、九六二
土人	一	一	二一四、六四六

其他	一	五一、一八八	九七、五二八
外領	一	五四、二四六	一
計		九五八、二九一	一、二六六、〇八七

四〇八、九八九

而して右交附者の人員は、一九三二年一月調査七三一名、同年末二、一六六名、一九三三年末七、四六九名、一九三四年末七、二八一名とす。尙一九三三年は外領の內譯不明なるも、大部分は歐洲人と推定さる。

斯くの如くなるが故に現在に於ける蘭印政府の蘭人經濟に對する策は一に不況前の狀態に之を回復すること最少限度としても經濟現勢の維持に在るものにして、各種の非常時條例全く之に基くものとす。卽ち貿易保護に於ける別項の各種條例、產業奬勵に關する各種條例皆之にして、其他營業制限條例（註一）、外國人勤勞條例（註二）、商取引取締條例（註三）、其他にも之と見らるゝもの頗る多し（註四）。

（註一）一九三四年營業制限條例は、一九三四年十月廿三日法令公報第五九五號を以て公布。其の主要條文次の如し。

第二條　蘭領印度ノ全部若クハ一部ニ於テ本條例ヲ適用スベキ營業部門ハ別ニ政府令ヲ以テ之ヲ定ム。

第三條　前條規定ノ政府令施行ノ時現存スル其ノ營業ヲ繼續セントスルモノハ、經濟省長官ノ免許ヲ受クルヲ要ス。其ノ營業ガ他ノ法令ニヨリテ許可サレタルモノト雖モ亦同ジ。

當該政府令施行後三月以內ニ善意ヲ以テ前項ノ免許ヲ申請シタルトキハ之ヲ拒絕スルコトナシ

第四條　當該政府令施行ノ時未ダ存在セザリシ當該營業ヲ設立セントスルモノハ長官ノ許可ヲ受クルヲ要ス。

第三條第一項ノ營業並ニ本條前項ノ營業ニシテ之ガ左ノ各號ノ何レカニ該當スル場合ニハ長官ノ許可ヲ受クルヲ要ス。

a　長官ガ營業ノ擴張又ハ規模若クハ性質ヲ異ニスル營業方法ニ變更スルモノト認メタルトキ

b　長官ガ休止營業ノ再開ト認ムルトキ

設立セントスル營業又ハ營業ノ擴張若クハ營業方法ノ變更又ハ再開セントスル營業ガ國家ノ經濟的利益ヲ損フモノト認ムルコトキハ本條ノ許可ハ拒絕スルコトアルベシ

（註二）外國人勤勞條例とは一九三五年八月廿三日法令公報第四二六號を以て公布、一九三五年非常時外國人勤勞條例と稱せらるゝものとす。本條例は俗に入國制限令と稱せらるゝ處、本條例に基いて本邦人の入國は極度に困難化したるものなり。主要條文次の如し。

第一條　本條例ニ於ケル用語ノ意義ヲ次ノ如クニ定ム。

イ、勤勞トハ

（一）他人ノ爲メニスル勞務ヲ謂ヒ、其ノ種類ノ如何、賃銀若クハ其他ノ金錢又ハ物品ニヨル報酬ノ有無ハ之ヲ問ハズ。

（二）請負フテ他人ノ業務ノ一部ニ從事シ若クハ之ヲ補助スル勞務モ勤勞ト見做ス

ロ、雇傭主トハ、勤勞ヲ爲サシムルモノヲ謂ヒ、之ガ自然人、法人又ハ公共團體ノ何レタルヲ問ハズ。外國ニ住所ヲ有スル雇傭主ノ代理人又ハ代表者ハ之ヲ雇傭主ト見做ス。

本條例ハ歐洲人ニ關スル規定ヲ適用スル外國人ニ限リ之ヲ適用ス。但シ蘭領印度政廳ノ爲メノ勤勞ニ就イテハ之ヲ適用セズ。

第二條　本條例實施ノ後ニ於テハ勤勞ノタメニ入國セントスルモノ、入國令ニ依ル初メテノ入國者タルトキ若ハ外國ニ在ルコト引キ續キ一年ヲ超エタルモノナルトキハ、其ノ入國ニ付キ司法部長官ノ許可書ヲ要ス

許可ニハ條件ヲ附スルコトアルベシ。許可ノ有效期間ハ許可書ニ之ヲ定ム。必要ト認ムル場合ニハ有效期間ハ之ヲ延長スルコトアルベシ。

命ジタル條件ヲ履行セザルトキハ許可ヲ取消スルコトヲ得。

許可又ハ其ノ延長ヲ申請シ、之ヲ拒絕シタルトキハ、申請者ハ其ノ通知ヲ受ケテヨリ一ケ月以內ニ限リ之ガ再審ヲ總督ニ訴願スルコトヲ得。

（註三）商取引取締條例ハ一九三五年八月廿四日法令公報第四二八號を以て公布。其の主要條文次の如し。

第二條　蘭領印度ノ全部又ハ一部ニ於テ住民ノ生活必需品タル一グループ以上ノ商品或ハ其種ノ商品ノ構成又ハ製造ニ要スル原料品ニ屬スルモノト總督ノ認ムル商品ノ價格ガ總體的ニ騰貴セル場合ニハ總督ハ之等商品ノ商取引ヲ取締マルタメニ委員會ヲ設定スルコトヲ得。委員會ノ委員數ハ五名以下トス。

第四條　總督ガ委員會ニ諮問シ、(イ)蘭領印度ノ全部若クハ一部ニ於テ住民ノ生活必需品タル一グループ以上ノ商品ノ價格騰貴ノタメニ其ノ商品ノ配給ニ著シキ支障ヲ招來シ又ハ招來スルノ虞レアルト認メタルトキ、又ハ(ロ)蘭領印度ニ於テ當該商品在庫品ノ販賣ヲ拒ミタルタメ若クハ不當ナル高値ニ非レバ販賣セザルガタメ、價格ノ騰貴ヲ招來シ又ハ促進シ若クハ促進スルノ恐レアリト認メタル場合ニハ總督ハ委員會ニ左ノ權限ヲ附與スルコトヲ得。

一、販賣ヲ拒ミ又ハ不當ナル高値ニ非レバ販賣セザルモノト委員會ガ認メタル在庫品ノ所有權者ニ對シテ、其ノ在庫品ノ全部若クハ一部ヲ直チニ普通價格ヲ以テ販賣スベコトヲ命ジ又ハ命ゼシムルコト。

二、委員會又ハ其ノ命令執行者ガ前項ノ命令ヲ履行セザルトキ又ハ履行ガ不完全ナルトキ若クハ直チニ履行セザルモノト認メタル場合ニハ、其ノ在庫品ノ全部若クハ其ノ一部ヲ差押ヘ所有權者ノ負擔ヲ以テ販賣又ハ配給スルコト。

(註四)　其他の條例とは例へば次の如し。夫々主要條文を示す。

○一九三四年統計條例　(一九三四年八月十四日公布法令公報第五〇八號)

第一條　總督ハ本條例ノ定ムル所ニヨリ中央統計局ニ對シ業務關係ノ經濟問題ヲ指定シ、之ニ關スル材料ノ蒐集調査ヲ命ズルコトヲ得。

前項ノ問題指定ト同時ニ蒐集調査スベキ事項ノ項目ヲ擧グルモノトス。

○一九三五年通信及運輸業務檢閲條例　(一九三五年四月二日公布法令公報第一二一號)

第一條　總督ハ緊急時ニ於テ公共ノ安寧秩序維特ノタメ必要ト認ムルトキハ其ノ必要トスル範圍內ニ於テ評議院ニ諮問シ、運輸、郵便、電信及電話ノ特別檢閲ヲ實施スルコトヲ得。

總督ハ時態ガ特別檢閲ノ存續ヲ心要トセザルニ至レルモノト認ムルトキハ之ヲ廢止ス。

○包裝條例　(一九三五年五月十七日法令公報第一六一號)……本條例に基き一九三六年六月十二日人造バタ包裝令公布されて、人造バタには MARGAR NE なる語を明記することに定められたり。

第一條　政府令ヲ以テ、特定ノ商品ニ付キ其ノ品名、包裝、販賣ノ場所其ノ推薦廣告ノ記載事項又ハ其ノ原産地、性質組成、品質或ハ數量ニ關スル表示又ハ標識ニ付キ特別ノ規定ヲ定ムルコトヲ得。

前項ノ政府令ヲ以テ其ノ商品若クハ其ノ包裝又ハ販賣ノ爲メニスル陳列場所若クハ推薦廣告ニ揭グル其ノ商品ノ表示又ハ標識ノ記載方法ニ關シテモ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得。

第一項ノ政府令ヲ以テ左ノ規定ヲ定ムルコトヲ得。

イ、政府令ヲ以テ特定ノ商品ニツキ其ノ性質又ハ組成ヲ明ラカニ表示スル品名ヲ附スベク規定シタルトキ、其ノ商品ノ品名ノ性質又ハ組成ヲ明ラカニ表示セザルモノナルモコレガ一般ニ熟知通用スル名稱タル場合ニハ、總督ノ許可ヲ得テ特定ノ條件ニヨク其ノ品名ヲ使用スルコトヲ得ルコト。

ロ、本條規定ノ政府令ヲ以テ定メタル規定ハ特定ノ場合ヲ除キ輸出向商品ニ之ヲ適用セザルコト。

而して營業制限條例に基いて許可制度とされたる營業は、現在搾乳業（一九三五年三月二十日公布、法令公報第一〇六號、一九三五年十月廿二日法令公報第五〇七號改正）(註一)、倉庫業（一九三五年三月二十日公布法令公報第一〇七號、第二次制限令同年七月十二日法令公報第三一三號）、印刷業（一九三五年四月五日公布法令公報第一二七號）紙巻煙草製造業（一九三五年八月三十日公布法令公報第四二七號）、金屬鑄造業（一九三五年九月二十日公布法令公報第四五九號）、織物業（一九三五年十一月十九日公布、法令公報第五三八號）(註二)、製氷業（一九三五年十二月三日公布法令公報第五六八號）の七類に過ぎざるも、將來更に續出さるべき趨勢に在り。

(註一)　搾乳業は爪哇バンドン州に限り適用。他は全て全蘭領印度に適用。

(註二)　織物業制限令による制限織物業とは政府令第一條によるに次の如し。

第一條　本令ニ於ケル用語ノ意義ヲ次ノ如クニ定ム。

a　織物業トハ一臺以上ノ力織機又ハ其他ノ織機ニヨリ專業又ハ副業トシテ規則的ニ織物ヲ製織スル目的ヲ以テ設立サレタル營業ヲ謂フ。但シ力織機以外ノ織機ヲ使用スルモノニアリテハ其ノ設備臺數十五臺以上ノモノニ限ル。

b　織物トハ染糸ト未染糸トヲ規則的又ハ不規則的ニ配置シテ製織シタルモノノ義ニシテ之ヲ次ノ四類ニ分ツ。

(一)　經糸ニ撚リ合セ糸ヲ用ヒタル全部人造絹糸製ノサロン並ニカインパンジヤン。

(二) 絹糸ニ撚リ合セ糸ヲ用ヒタル綿糸人造絹糸交織ノサロン並ニカインパンジヤン。
(三) 絹糸ニ撚リ合セ糸ヲ用ヒタル全部若クハ一部絹糸ノサロン並ニカインパンジヤン。
(四) 絹糸ニ撚リ合セ糸ヲ用ヒタル上記以外ノサロン並ニカインパンジヤン。但シ全部綿糸ヨリ成ルモノヲ除ク。

c サロン並ニカインパンジヤンノ範圍ハ經濟省長官ノ定ムルトコロニヨル。

d 營業ノ規模ハ其ノ織物業ガ一ケ月間ニ製造シ得ベキサロン又ハカインパンジヤンノ量ニヨリテ之ヲ定メ、之ヲ上述類別ニ分ツモノトス。

政府の蘭人經濟保護專念に伴ひ、民間に於ても蘭人經濟擁護に彌々努力を加へらるゝに至れり。卽ち從來は動もすれば個々の業種が夫々單一的に其の事業興隆に努めたる模樣なきにしも非りしも、最近は各業者が夫々密接なる連繫の下に一致以て不況打開に邁進するの傾向著しく顯著となれり。例へば貿易業に於て見るに、貿易業、船舶業、倉庫業、金融業等の大同連結の如き之なり。政府對策としての輸入制限に於ける船舶指定强制積込（註）の如きも之に對應するものとす。

（註）輸入制限令（全ての輸入制限令並輸入許可令何れも同樣なり）第八條中に曰く。

蘭領印度ト外國間ニ於ケル和蘭海運業ノ重大ナル利益ガ外國側ノ或ル策動ニ依リテ特ニ甚ダシク脅威ヲ受クル場合ニハ、經濟省長官ハ總督ノ許可ヲ得テ當該國ヲ原產地トスル若クハ當該國ヨリ積出サルル前記ノ商品ニ對シ必ズ和蘭船舶ニ積込マザルベカラザル特定ノ比率ヲ定ムルコトヲ得。

と。而して右は最近特殊商品に於ては邦人商社にも實施され居るもの如し。尙之が華商方面に施行されつゝありしは旣に今日の問題に非るやに仄聞す。

中編 蘭領印度經濟主要統計

第一章 財政

第一節 概觀

蘭領印度政府經常費に於て赤字を示したるは一九三〇年（總經費に於ては一九二八年）にして、兩來この情勢を繼續して今日に至れり。（單位千盾）

	經常費		臨時費		總計	
	歲出	歲入	歲出	歲入	歲入	差引（不足）
一九二八年決算	七八四、八四八	八二六、一五八	六〇、九一七	九、七五九	八三五、六一七	九、八四八
一九二九年〃	八三三、五四八	八四〇、九〇四	七三、〇四五	七、六二五	八四八、五二九	五六、〇六四
一九三〇年〃	八三五、三八八	七四〇、三九三	六八、一五三	一五、一五九	八九三、五四〇	一七、九八八
一九三一年〃	七三六、二八五	六三四、三六九	三〇、七七七	一七、六四〇	七六七、〇六二	一一五、〇五三
一九三二年〃	六〇六、七八九	四六五、三六一	二四、一五一	三五、五六八	六三〇、九四〇	三〇〇、九二九
一九三三年〃	五二八、一〇〇	四〇五、四〇四	二六、四五三	五五、五六三	四六〇、九六六	一三〇、〇一一
一九三四年概算	四八七、〇九三	四〇三、九九〇	一九、六三三	四七、五〇六	四五一、四九九	五五、二三〇
一九三五年見込	四七一、六二一	四一九、〇八四	二一、八二六	四八三、四四七	四四〇、五五四	四三、八九三

一九三六年豫算	四三、七五三	四九、七五四	三一、三六〇	三一、〇六五	四六四、〇一三	四四〇、八六八	三三、一六五

經常費收入の內譯は次の如し。（單位千盾）

	各省事業收入	官業專賣收入	稅收入	雜收入	計
一九三一年	二二〇、二八八	一九五、八五二	二八四、〇〇二	三四、二二七	六三四、三六九
一九三二年	一〇七、〇四一	一〇九、三八一	二二八、三一九	二〇、六二〇	四六五、三六一
一九三三年	八九、一六六	八三、八六七	二〇七、七一二	二四、六五九	四〇五、四〇四
一九三四年概算	八四、四九九	六九、四八八	二二一、九九二	二八、〇一一	四〇三、九九〇
一九三五年豫算	一〇一、八四一	六九、〇八三	二二四、〇八二	二七、五八九	四二二、五九五
一九三六年〃	九七、九六八	六七、五一〇	二二二、二七八	二七、〇〇七	四一四、七六三

右の如く收入の大宗をなすは諸稅にして收入總額の半ばを超ゆ。今稅收入の內譯を見るに（單位千盾）

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
ロッテリー稅	一、〇八五	九九九	一、二六〇	八〇五	六八五	七五〇
所得稅	六五、二三九	五四、八九九	四〇、四一九	四〇、三〇七	二六、〇〇〇	二一、〇〇〇
給料稅	—	—	—	—	一七、〇〇〇	一八、〇〇〇
財產稅	—	一、一二〇	一、一三三	一、〇七一	一、〇〇〇	九〇〇
會社稅	二七、〇三七	一一、五八一	九、五三六	八、〇六四	八、〇〇〇	八、五〇〇
クーポン稅	—	—	—	六六七	二六〇	二七五
地租	一九、六六一	一三、〇一六	九、〇一四	七、一七一	六、三五〇	六、三〇〇
家屋動產稅	六、八二三	五、〇五三	三、九〇七	三、三三三	二、八一〇	二、八〇〇
モーター車稅	—	五五三	四、二五四	三、九二七	六〇〇	四九一
印紙稅	九、一八一	七、六九八	六、七八八	七、一七三	七、〇〇〇	六、八〇〇
名義書換稅	二、二八六	二、〇六六	一、五五八	一、七七二	一、五〇〇	一、五〇〇
相續稅	四〇五	四〇三	三三六	二〇〇	五〇〇	三五〇
屠殺稅	六、二四八	五、六六四	五、二一五	四、九八三	四、五二〇	五、〇〇〇
特別稅	四三八	三二九	三〇八	二七四	一六五	一五八
土地收入	三九、一〇八	三二、一九六	二八、九二二	二四、六〇三	二五、〇〇四	二四、八〇〇
輸入稅	五七、七九七	四七、三九七	四七、三一九	五二、三六八	四八、五〇〇	五〇、〇〇〇
輸出稅	四、一四二	二、四七一	二、二五三	三、一六五	二、一〇〇	二、〇〇〇
土人護謨輸出稅	—	—	—	一一、五四一	二四、〇〇〇	一五、〇〇〇
農園ゴム輸出稅	—	—	—	—	—	三、七〇〇
統計稅	三、三四一	二、三〇四	一、九八八	一、九四九	一、八〇〇	二、〇〇〇
消費稅	三七、七二二	三七、五二一	四一、二七二	四六、八三三	四八、一五〇	五〇、三二〇
輸出入稅關係收入	二二四	一八九	二二五	二四六	二〇〇	二五〇
賃貸料、ライセンス料	一八一	一八三	一六七	一九〇	一七五	一八四
競賣稅	二、九三三	二、六四七	一、八六一	一、三三〇	一、二〇〇	一、二〇〇
畜稅	一四六	三	支出 三三	一三三	—	—
計	二八四、〇〇二	二二八、三一九	二〇七、七一二	二二一、九九二	二二七、五一九	二二二、二七八

備考　一九三四年一九三五年は暫定數字、一九三六年は豫算額とす。

官營事業の收入（純收入に非ずして總收入）左の如し。（單位千盾）

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
阿片及鹽專賣	四〇、一九一	三三、五〇三	二九、二七四	二七、九七一
阿片工場	三、〇七五	二、五四八	二、四七七	二、一四八
官營質屋	二〇、六六五	一六、一一八	一二、一九六	一〇、五四二
規那及茶	六九八	六五三	七六〇	七五九

護謨	二、三四二	一、三三六	一、七六一	二、七三三
林産物	一四、七八四	七、九三九	六、七六四	六、三八三
金銀	五八三	—	—	—
バンカ錫	一九、五一四	一〇、一二六	二四、二九五	二三、九六〇
石炭	一〇、九〇一	五、九三〇	五、六三八	五、〇八五
印刷工場	一、四六四	一、一七五	一、〇八一	一、〇〇一
港灣事業	一三、六八七	一二、三八三	一一、五八二	一一、三四五
浚渫事業	三、三〇三	二、七一四	二、二二〇	二、〇〇六
電氣事業	三、〇六三	三、〇一二	二、九二三	二、八四六
遞信事業	二八、七七一	二六、〇六七	二三、二八四	二一、八一三
鐵道軌道事業	五七、二四八	四五、〇三五	三四、七〇三	三〇、九〇七
地圖課	五二五	三七五	三三一	三二三

備考　一九三四年は暫定數字とす。

次に經常費歳出を見るに左の如し。（單位千盾）

	一般會計	特別會計	事業缺損補塡	計
一九三一年	六〇一、八八四	一三四、四〇一	—	七三六、二八五
一九三二年	五三一、九一九	六九、七五五	五、一一五	六〇六、七八九
一九三三年	四六八、五六五	五三、四三一	六、一〇五	五二八、一〇一
一九三四年	四三四、二一六	四四、五二四	八、三五三	四八七、〇九三
一九三五年	四一八、三五〇	四六、七六一	八、一四四	四七三、二五五
一九三六年	四〇四、〇七七	四三、八八七	七、三八八	四五五、三五二

備考　一九三四年は見積額、一九三五年一九三六年は豫算額とす。

而して一般會計の支出概要を表示するに左の如し。（單位千盾）

款項目	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
中央政廳及大學	四、三九四	三、九九三	三、八二四	三、二一九	二、八二三	二、六三三
司法部	二三、三四〇	二〇、一八五	一八、二五四	一四、六九二	一五、三四〇	一五、〇〇七
裁判所	七、五二六	七、三九九	七、〇四六	五、五八九	五、一四七	五、二三六
刑務所	一〇、六五四	八、〇九一	六、八八九	五、八六八	六、七八八	六、〇九七
財務部	一四一、四八一	一三二、九五七	九九、二九一	九三、八〇〇	八五、八八九	八七、五四三
稅務署	六、六八〇	六、三六一	五、六〇八	四、七一〇	四、四九九	四、二六一
王領地稅務署	四、二五七	四、〇五五	三、六三一	三、一九〇	二、九七一	二、五八二
稅關	五、四九一	五、五一〇	五、七九三	四、七六二	四、六四八	四、五二〇
旅費（領內）	一一、二五六	八、八一八	七、七七九	七、六一〇	七、〇一三	六、四一五
〃（本國間）	五、九三六	四、三三八	三、七五一	四、三九〇	四、〇〇〇	三、七五〇
恩給	七〇、五一一	七六、三五八	六一、七一七	五八、二九六	五二、七五六	五五、九〇一
國債	八五、二三七	八九、九〇六	一〇〇、七八九	八八、一二〇	七五、〇三五	六八、三八一
內務部	一〇〇、七九〇	八五、四〇〇	七九、九三三	七九、二三二	七九、〇一七	七四、三〇二
歐人行政費	一二、六二六	一一、四九七	一一、二六一	九、一六八	一〇、四八一	一〇、四六四
土人行政費	一〇、八六七	一四、一〇八	一三、六七八	一一、三六二	八、六七八	八、二一〇
警察費	二四、三四九	二四、一〇五	二一、九一三	一八、三六六	一八、〇三八	一七、二五一
地方費	二八、六五七	一九、五九三	二〇、三〇六	一七、四五五	一五、四二七	一四、一五五
王領地行政費	九、一八六	七、五九〇	六、一二三	五、九五四	六、〇九三	五、五一六
土人ゴム制限費	—	—	—	一一、五四一	一五、〇〇〇	一二、九六二
文教費	六三、八五四	五七、〇七五	五一、三九四	四一、六三一	三五、八九二	三三、四四七

年月次	租税	專賣收入	官營物產	官業收入	雜收入	計
九三二年	二一九、六一	四八、五二八	二六、六三	九〇、二八八	三三五、〇七一	四二〇、一九〇
九三三年	二一九、二六四	四〇、七〇九	三三、四九六	六九、八五二	三〇、一五〇	三四、九三四
四年	二一五、九三四	三八、四五〇	三三、六一七	六三、八五五	三一、九七九	三三、八九六
四月	一三、〇一〇	三、三五九	一、四二六	五、七一四	一、六七九	二六、九四四
五月	一六、四三〇	三、四九〇	二、九四五	四、九八六	二、六七九	三四、七九六
六月	二一、三九五	三、五〇四	一、四二二	五、七二〇	一、六七九	三四、九三四
七月	一六、八四二	三、一四四	二、一六四	五、三三〇	一、六七九	三三、八九六
八月	一七、八一一	三、一四四	二、一六四	五、三三〇	一、六七九	三三、八九六
九月	一七、八一一	三、一四四	二、一六四	五、三三〇	一、六七九	三三、八九六
十月	一七、八一一	三、一四四	二、一六四	五、三三〇	一、六七九	三三、八九六
十一月	一七、八一一	三、一四四	二、一六四	五、三三〇	一、六七九	三三、八九六
十二月	一七、八一一	三、一四四	二、一六四	五、三三〇	一、六七九	三三、八九六
一九三四年	二一、九一一	四二、〇一九	二六、六三三	九〇、二八八	三三五、〇七一	四二〇、一九〇
一九三五年	二一、九一一	四二、〇一九	二六、六三三	九〇、二八八	三三五、〇七一	四二〇、一九〇

一九三四年及五年にかける各月の國庫收入概況左の如し。（單位千·盾）

第二節　國庫收入概況

備考　一九三二年以前は決算額、一九三三年一九三四年は暫定決算額、一九三五年一九三六年は豫算額とす。

十二月	一八、九三五	二、五五八	三、五二四	六、二四九	二、九三九	三四、二〇五
一九三五年	二〇八、一五八	三六、四二五	三六、四三七	六六、五八四	三一、〇〇九	三七八、六一三
一月	一六、三九二	三、一七〇	一、三〇二	八、三二七	二、八三五	三二、〇二六
二月	一三、三九九	二、八〇一	三、二三九	四、七六五	二、二〇一	二六、四〇五
三月	一五、九六四	三、一一四	二、〇六一	四、八五七	一、八〇四	二七、八〇〇
四月	一五、九七三	三、〇三四	二、一一八	四、七九九	一、八四九	二七、七七三
五月	一九、六一六	三、二五二	二、六二〇	五、一四六	二、四三一	三三、〇六五
六月	一九、〇二一	三、〇八三	二、三二二	五、二一九	二、七三一	三二、四七六
七月	二〇、六〇七	三、五二八	二、五八五	七、〇三四	二、六九一	三六、四四五
八月	一七、三八三	二、八一八	二、五八五	四、九五七	二、〇八七	二九、八三〇
九月	一七、三九四	三、二六七	二、九三三	五、三二七	三、五五一	三二、四七二
十月	一八、〇三五	三、〇〇七	三、五五八	五、一八四	二、一一一	三一、八九五
十一月	一七、四三二	二、八四九	三、七七五	四、八一五	二、九二九	三一、八〇〇
十二月	一六、九四二	二、五〇二	七、三三九	六、一五四	三、七八九	三六、七二六

四して各月末國庫在高は次の如し。（單位千盾）

	在高	指數
一九二八年	三二、九一五	一〇〇
一九二九年	三三、八七四	一〇三
一九三〇年	四〇、二二九	一二二
一九三一年	四七、五〇四	一四四
一九三二年	六五、二四一	一九八
一九三三年	六六、〇二六	二〇〇
一九三四年	六三、八〇〇	一九四
一九三五年	五三、六七八	一六三

一月	（一九三四年）七三、〇一八	二二二	（一九三五年）五三、七九三	一六四
二月	七三、一六〇	二二二	五二、七九九	一六一
三月	七一、八九四	二一八	五一、三八九	一五七
四月	六九、六三六	二一二	五一、八九四	一五七
五月	六九、一二一	二一〇	五二、一九二	一五九
六月	六六、〇五〇	二〇一	五三、三七六	一六二
七月	六四、七九五	一九七	五三、九〇〇	一六三
八月	六〇、二四四	一八三	五四、二七一	一六五
九月	五七、三一五	一七四	五四、九一二	一六七
十月	五六、四〇一	一七一	五五、五二一	一六九
十一月	五二、八一九	一六〇	五五、一二六	一六七
十二月	五一、一五二	一五五	五一、九二八	一五七

備考　各年在高とは各月末の平均高とす。

第三節　國　債

蘭領印度國債は從來主として大戰當時並に其後の戰後經營にかゝるものにして一九二八年迄は漸減の趨勢に在りしが、世界不況以來經濟界の不振に伴ひ再び增加となり今日に及べり。今一九三四年末に於ける國債總額を見るに十五億二千萬盾に達し、この主なるは固定國債とす。而して一九三五年に於ても前年に引き續き其の低利借換を行ひ以て財政

内容の改善に努力する處ありたるも、未だ漸減の時機に至らずして、非常時對策の進行と共に益々增加を見んとす。

今國債の內容並に債券を一覽するに左の如し。(單位千盾)

	國債總額 一時借入金	國債總額 固定國債	國債總額 計	利子額	銷却額
一九二八年	(貸出) 六、九三六	一、〇一〇、六九八	一、〇〇三、七六二	五六、九五七	四一、八七五
一九二九年	四二、九二六	九八〇、二一一	一、〇二三、一三七	五四、八四一	三一、一七六
一九三〇年	一〇一、一六七	一、〇六三、九六四	一、一六五、一三一	五五、四〇〇	三四、二九四
一九三一年	一八六、七三九	一、一四〇、二四一	一、三二六、九八〇	六一、四六三	二三、五三八
一九三二年	二四〇、八二〇	一、一八八、〇四六	一、四二八、八八四	六一、九二三	三六、三三二
一九三三年	二六一、三五七	一、二六一、〇八二	一、五二二、四三九	六二、三〇九	四一、七九六
一九三四年	一三九、三九〇	一、三六九、一九九	一、五〇八、五八九	六一、六五九	二八、一八〇
一九三五年	一五五、〇〇〇	一、三六三、五三〇	一、五一八、五三〇	五九、六四四	二〇、八〇六

備考　一九三五年は暫定數字とす。

一時借入金は主として財務長官勘定とす。而して固定國債は左の如し。

國債名	償還期限 (年)	利率 (%)	發行額面額 (千盾)	一九三五年末殘高 (千盾)	一九三六年償還額 (千盾)	一九三六年利子支拂額 (千盾)
一八八三年	—	三	四四、〇〇〇	一九、六六七	九八二	五九〇
一九二二年B / 一九二一年C	四〇	三・五	九九、五四八	九九、五四八	三、四三三	三、二四四
一九三〇年	四〇	四・五	七七、二〇〇	六七、五五〇	一、九三〇	三、〇四〇
一九三一年	四〇	四・五	一〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	二、五〇〇	三、九九四
一九三三年	四〇	四	一一五、〇〇〇	一一二、五三一	一、三〇九	四、四七五
一九三四年	四〇	四	三〇六、〇〇〇	三〇二、七七五	三、三五〇	一二、〇四四
一九三四年A	四〇	四	四八五、〇〇〇	四七九、九〇〇	五、三〇〇	一九、一九六
一九三四年	四〇	四	一五〇、〇〇〇	一四八、四二五	一、六五〇	五、九三七
一九三五年	三五	三・五	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	七五〇	一、七三七
計			一、四二六、七四八	一、三六三、五三〇	二一、二〇四	五四、二五六

第四節　鑄貨狀況

鑄貨も經濟界の萎縮により最近漸減の趨勢により一九三四年には僅かに十六萬五千盾に過ぎず、然れども貨幣の國庫囘歸額の率は年々增加し、從つて國庫在庫額は一路增加を辿りつゝあり。(單位千盾)

	造幣局鑄造額	國庫囘歸額	國庫在庫額
一九二八年	九、三四六	一、六四〇	三二、九一五
一九二九年	四二、三九七	三四、五〇〇	三三、八七四
一九三〇年	三〇、〇五〇	二六、一一〇	四〇、二二九
一九三一年	一四、〇〇〇	二三、八八〇	四七、五〇四
一九三二年	一六、〇三九	二一、九二〇	六五、二四一
一九三三年	一、五八六	一八、二五〇	七三、七四五
一九三四年	一六五	一九、七六〇	七五、三四四

第二章　金融市場

第一節　爪哇銀行

發行銀行たる爪哇銀行の紙幣流通高は漸次收縮されたり。今一九三五年に於ける狀況を既往に比較して見るに次の如し。

	三月末流通額(千盾)	指數
一九二八年	三一六、二八二	一〇〇
一九二九年	三一〇、九〇四	九八
一九三〇年	二八〇、四四四	八九
一九三一年	二五一、四七六	七九
一九三二年	二三四、四二八	七四
一九三三年	二一七、〇九五	六九
一九三四年	一九八、六七四	六三
一九三五年	一八〇、三四二	五七
一九三四年一月	一九〇、五一七	六〇
二月	一九〇、七六七	六一
三月	一九二、一四九	六一
四月	一九〇、〇六四	六〇
五月	一八七、七七三	五九
六月	一八六、六九一	五九
七月	一八六、三三七	五九
八月	一八三、八四七	五八
九月	一八五、八一八	五九
十月	一八五、八五〇	五九
十一月	一八二、七七九	五八
十二月	一八〇、三〇五	五七
一九三五年一月	一七八、七三六	五七
二月	一七六、〇九八	五六
三月	一七五、七四〇	五五
四月	一七四、六四八	五五
五月	一七三、六三七	五五
六月	一七四、四六五	五五
七月	一七〇、六〇五	五四
八月	一六七、一一三	五三
九月	一六五、九四六	五二
十月	一六三、七六七	五二
十一月	一六〇、六〇五	五一
十二月	一五八、三六〇	五〇

而して一九三五年三月末に於ける流通紙幣額を見るに、百盾紙幣の額最も多くして總額の二割一分を占め、次いで十盾紙幣(一八・四%)、二五盾紙幣(一四・七%)、五盾紙幣(一五・五%)とす。之を既往に比較するに二百盾以上の紙幣漸減し、小額のものに於て增加の傾向を見らる(註)。

（註）紙幣の種類は、千盾、五百盾、三百盾、二百盾、百盾、五十盾、四十盾、三十盾、二十五盾、二十盾、十盾、五盾の十二種とす。

流通紙幣額に對する準備金の保有狀況は次の如し。（單位千盾）

三月末	金並金貨保有高	銀並銀貨保有高	紙幣發行額に對する金の%
一九二八年	一七三、二九二	一八、六七三	五五
一九二九年	一六七、三三七	一八、二三九	五四
一九三〇年	一三九、二四五	三一、一八〇	五〇
一九三一年	一一八、六九七	四七、二七三	四七
一九三二年	一〇六、五三三	四五、五六八	四四
一九三三年	一一二、〇三七	四六、六〇八	五二
一九三四年	一一三、三六二	三一、六一五	五七
一九三五年	一一七、四七九	二七、五八九	六〇

爪哇銀行に於ける手形交換高左の如し。（單位千盾）

三月末締切	交換額	指數
一九二八年	四、一八三、七七二	一〇〇
一九二九年	三、八一一、四三四	九一
一九三〇年	三、六七三、七八〇	八八
一九三一年	二、七七一、四七二	六六
一九三二年	二、三七四、三〇五	五七
一九三三年	一、七六〇、四一一	四二
一九三四年	一、五六九、六四二	三八
一九三五年	一、四九四、六六一	三五
一九三四年一月	一四五、四六六	四二
二月	一〇九、九八〇	三二
三月	一一五、六七九	三三
四月	一〇九、六二三	三二
五月	一三〇、二四〇	三七
六月	一二九、七三一	三七
七月	一三六、七四二	三九
八月	一一七、三七一	三四
九月	一〇八、一六六	三一
十月	一二五、七三九	三六
十一月	一二〇、八二二	三五
十二月	一四八、一一四	四三
一九三五年一月	一四八、一二九	四三
二月	一〇六、一〇〇	三〇
三月	一一三、八八三	三三
四月	一三二、二一八	三八
五月	一三一、一九〇	三八
六月	一〇五、七八九	三〇
七月	一二九、六〇九	三七
八月	一一七、五六〇	三三
九月	一一六、四八三	三三
十月	一二六、七八七	三六

十一月	一一九、〇〇六	三四
十二月	一一一、四四三	三一

次に爪哇銀行の領内投資額を見るに左の如し。但し左には政府買上金を含まず。（單位千盾）

	投資額	指數
一九二八年	八五、二六一	一〇〇
一九二九年	一〇二、四九二	一二〇
一九三〇年	五五、四三五	六五
一九三一年	五四、〇二〇	六三
一九三二年	四八、八二〇	五七
一九三三年	四二、六三〇	五〇
一九三四年	三六、六九四	四三
一九三五年	四〇、七六五	四八
一九三四年一月	三八、〇六五	四五
二月	三四、六〇五	四一
三月	三四、八九六	四一
四月	三四、九二六	四〇
五月	三四、四四五	四二
六月	三五、四六九	四五
七月	三八、〇八六	四三
八月	三六、九四五	四五
九月	三八、三〇二	四五
十月	三八、二八八	四五
一九三五年一月	三五、三五七	四一
二月	三四、一七一	四〇
三月	三五、一六七	四一
四月	三六、四一三	四三
五月	四〇、三二二	四七
六月	四三、七八四	五一
七月	四四、五四三	五二
八月	四五、二〇〇	五三
九月	四六、一八一	五四
十月	四四、二三五	五二

十一月	三七、四一一	四四
十二月	三八、八九三	四六

貸付擔保物件並に其の利率及手形割引率は左の如し。

翌年三月に終る一年度	貸付擔保物件（千盾）	貸付利率（%）	手形割引率（%）
一九二八年	一四四、八七六	四・五	四・五
一九二九年	一六一、三三二	五・五五	五・五五
一九三〇年	一一九、七五七	四・五六	四・五六
一九三一年	九八、八七四	四・五	四・五
一九三二年	八六、三四九	四・五	四・五
一九三三年	七三、七〇〇	四・五六	四・五六
一九三四年	七四、五四八	四・一七	四・一七
一九三五年		三・九六	三・九六
一九三四年一月		四・五	四・五
二月		四・五	四・五
三月		四・五	四・五
四月		四・五	四・五
五月		四・五	四・五
六月		四・〇	四・〇
七月		四・五	四・五
八月		四・五	四・五
九月		四・〇	四・〇
十月		四・〇	四・〇
十一月	四一、六〇四	四・九	
十二月	四二、三〇〇	五・〇	

十一月	三・五	三・五	
十二月	三・五	三・五	
一九三五年一月	三・五	三・五	
二月	三・五	三・五	
三月	三・五	三・五	
四月	三・五	三・五	
五月	三・五	三・五	
六月	四・五	四・五	
七月	四・〇	四・〇	
八月	四・〇	四・〇	
九月	四・〇	四・〇	
十月	四・〇	四・〇	
十一月	四・〇	四・〇	
十二月	四・〇	四・〇	

而して右擔保物件中、外國爲替手形を見るに次の如くにして以つて貿易不振の一面を察知し得べく、尙其他の擔保物件等をも掲ぐること次の如し。（單位千盾）

年度	外國爲替手形	商業手形	政府競賣手形	投資資金
一九二八年	三〇、五一五	九、〇一三	二、一四一	一七、九四五
一九二九年	三一、八六五	七、二二三	二、〇九四	一七、六五八
一九三〇年	三三、四〇三	八、〇三六	一、三八一	一六、九九五
一九三一年	一六、八五〇	八、〇一六	一、一四二	一六、三九六
一九三二年	二〇、一五〇	八、六六七	六六一	一一、〇六〇
一九三三年	四、一五六	八、七一六	四八九	九、五四五

一九三四年　九〇一　九、四六九　三四六　九、〇六四

（備考）　右年度は其年の四月より翌年の三月に至る一年とす。

第二節　其他の金融機關

先づ領內に於ける郵便貯金の狀況を見るに次の如し。尙貯金利率は二分四厘とす。（單位千盾）

十二月末現在の狀況	預入額	拂出額	預入人數（千人）	中止人（千人）
一九二八年	一五、一〇九	一四、三二五	三二〇	二一四
一九二九年	一五、七五五	一五、四五五	三三九	二二八
一九三〇年	一七、二四二	一六、一四三	三六三	二四六
一九三一年	一九、九一八	一七、四九〇	三八二	二六〇
一九三二年	二〇、二九八	一八、六〇〇	三九六	二六七
一九三三年	二〇、〇五二	一八、四七七	四二〇	二八一
一九三四年	二二、七一八	二〇、五〇一	四四三	二九五
一九三五年	二二、三一四	二二、一〇七		
一九三四年一月	二、一五七	一、七八六		
二月	一、八五一	一、一六三		
三月	二、一〇四	一、六五二		
四月	一、七八五	一、五〇六		
五月	二、〇一七	一、七九七		
六月	一、七九九	一、七二〇		
七月	一、八七五	一、九一五		

八月	一、八三〇	一、六六五	
九月	一、七六四	一、六四九	
十月	一、八五三	一、七四八	
十一月	一、七三八	一、七九三	
十二月	一、七五四	一、九八四	
一九三五年一月	二、〇五一	一、八五三	
二月	一、九六五	一、五四八	
三月	二、二一八	一、六七八	
四月	一、八九九	一、八四〇	
五月	一、九六二	一、八五三	
六月	一、六八三	一、九〇三	
七月	一、九四三	二、二〇七	
八月	一、八五〇	一、九四七	
九月	一、七三五	一、七三六	
十月	一、七八一	一、七五七	
十一月	一、六六五	一、九三〇	
十二月	一、五六二	一、八五六	

貯蓄銀行に於ける狀況次の如し。（單位千盾）

六月末現在	行數	預金額	當該年度新規預金	〃拂出額	當該年度末貸出總額
一九二八年	九	二〇、九七三	七、六〇五	八、〇一一	一五、九三七
一九二九年	九	二一、九九七	七、六六四	七、九九三	一六、一六七

一九三〇年	九	二一、三七九	六、九四五	七、一一七	一六、五六四
一九三一年	九	二一、四〇五	六、五二七	七、五二二	一五、三九〇
一九三二年	九	二〇、七〇三	九、〇六七	一〇、一〇六	一四、七三一
一九三三年	九	一九、六六八	八、九二二	九、七七六	一四、二二一
一九三四年	八	一九、一三五	八、八〇九	九、二五三	一四、一〇五

官營質屋に於ける貸出狀況等を一覽するに

	店數	質物數（千個）	貸出額（千盾）	質受額（千盾）	貸出殘額（千盾）（質物評價）
一九二八年	六二六	五三、〇五八	一八八、二三〇	一六七、〇七六	四、九〇六
一九二九年	六二〇	六〇、四七六	二一五、六一七	一八三、八四〇	四、九九二
一九三〇年	六三三	五六、一四三	二〇一、八八七	一八〇、八七六	五、〇二九
一九三一年	六三一	四八、一七七	一六一、一二五	一四四、五一〇	五、〇五五
一九三二年	六二八	三九、七二七	一一六、五一九	一〇九、六八八	四、九四九
一九三三年	六一八	三一、一〇一	八二、六五三	八一、五二六	五、〇一七
一九三四年	五九四	三二、二八八	七四、一四四	六八、七三八	四、八二九
一九三五年			六七、七五三	六九、九九三	
一九三四年一月			六、六〇四	七、一六四	
二月			六、一一八	五、七三〇	
三月			五、九五八	六、〇九六	
四月			五、〇五六	五、五九八	
五月			五、五八〇	六、三四六	
六月			五、二四七	六、〇五三	
七月			五、六九七	六、一五〇	

概況左の如し。（單位千圓）

一九二八年

行數	總資產	貸付高	回收高	貸出殘高（滯納額）
八九	一五、五二六	五七、五九九	六、〇七七	四、三七二
八九	一五、五二六	五七、五九九	六、〇七七	四、三七二

アフデーリング銀行は不動產抵當に低利金の土人貸付を目的とするものにして、土人民信用銀行とも稱せらる。この

一九三五年一月 | 一九三五年十二月 | 一九三六年一月 | 一九三六年二月 | 一九三六年三月 | 一九三六年四月 | 一九三六年五月 | 一九三六年六月 | 一九三六年七月 | 一九三六年八月 | 一九三六年九月 | 一九三六年十月 | 一九三六年十一月 | 一九三六年十二月

十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月
五五、四六七	五五、四五六	五五、三九一	五五、八六九	五四、八八五	五五、四〇七	五五、一三六	五五、九六二	六、〇七〇	六、二二六	七、一三一	六、七五五	六、〇二二	五五、七三一
六、〇七七	五五、四七〇	五五、六二九	六、三九四	六、一七四	五五、五九八	五五、六五〇	五五、二五四	五五、八七二	五五、八六二	六、一三一	五五、八七二	五五、九七九	五五、六七三
四、三七二	四、三七一	四、三六三	四、三八一	四、三五九	四、七四一	四、六七四	四、七五四	四、六三五	四、七四一	四、六三四	四、六一四	四、七三三	四、七一六

一九二九年 | 一九三〇年 | 一九三一年 | 一九三二年 | 一九三三年 | 一九三四年 | 一九三五年一月 | 一九三五年二月 | 一九三五年三月 | 一九三五年四月 | 一九三五年五月 | 一九三五年六月 | 一九三五年七月 | 一九三五年八月 | 一九三五年九月

八九	九一	九二	？	？	七、〇五三	一一、八四七	一一、九〇一	一六、二五七	？	？	六三、二八六	五二、一〇二	三八、六四三	三三、二一一
一一、九二九	一一、九三〇	一一、九三一	一一、九三二	一一、九三三	一一、九三四	一一、九三五	一一、九三五	一一、九三五	一一、九三五	一一、九三五	一一、九三五	一一、九三五	一一、九三五	一一、九三五
一一、七四三	一一、六九二	一一、六五九	一一、六二二	一一、五八五	一一、五四八	一一、五一一	一一、四七四	一一、四三七	一一、四〇〇	一一、三六三	一一、三二六	一一、二八九	一一、二五二	一一、二一五
一一、七三六	一一、六九九	一一、六六二	一一、六二五	一一、五八八	一一、五五一	一一、五一四	一一、四七七	一一、四四〇	一一、四〇三	一一、三六六	一一、三二九	一一、二九二	一一、二五五	一一、二一八
一一、七二九	一一、六九二	一一、六五五	一一、六一八	一一、五八一	一一、五四四	一一、五〇七	一一、四七〇	一一、四三三	一一、三九六	一一、三五九	一一、三二二	一一、二八五	一一、二四八	一一、二一一

十月	一、七七三	一、八二八	八、五三四		
十一月	一、九一〇	一、六七三	八、二五四		
十二月	一、九四六	一、五六四	七、九七一		

備考　一九三四年は八月以降の月別數字未詳。

デツサ（村落）銀行は小額資金の短期貸付を目的とするものとす。其の概況左の如し。（單位千盾）

	行數	貸付高	貸付口數（千口）	平均一人當貸付高（盾）	回收高	未回收高
一九二八年	五、九五三	四五、九八八	一、一一三	四一・三		九、〇六四
一九二九年	六、二七三	四九、六四二	一、二〇四	四一・二		九、七三七
一九三〇年	六、六一〇	四四、三九二	一、二二〇	三六・〇		八、八八八
一九三一年	六、六二五	三四、一一九	一、一七〇	二九・〇		五、九一五
一九三二年	六、七一一	二一、七一九	一、〇二七	二一・〇		三、八三九
一九三三年	六、七二二	一七、四九二	一、〇一一	一七・〇		三、四九八
一九三四年	六、七四一	一六、四五三	九九三	一七・〇		三、一八四
一九三五年	？	（爪） 一三、七三三	？	？	（爪）	二、五〇二
一九三四年一月	（爪）	一、一四八	（爪）	一、〇九二	（爪）	二六九
二月	（〃）	一、二〇九	（〃）	一、三二八	（〃）	二八三
三月	（〃）	一、二九二	（〃）	一、三八六	（〃）	二八五
四月	（〃）	一、二二五	（〃）	一、三〇五	（〃）	二八二
五月	（〃）	一、三三五	（〃）	一、四〇〇	（〃）	二七三
六月	（〃）	一、二九七	（〃）	一、二八四	（〃）	二六九
七月	（〃）	一、三一三	（〃）	一、三二二	（〃）	二五八
八月	（〃）	一、三五五	（〃）	一、三六五	（〃）	二五六
九月	（〃）	一、二七二	（〃）	一、二七八	（〃）	二六〇
十月	（〃）	一、三五〇	（〃）	一、三七九	（〃）	二三八
十一月	（〃）	一、二八五	（〃）	一、二九七	（〃）	二四六
十二月	（〃）	一、三四二	（〃）	一、二九〇	（〃）	二三五
一九三五年一月	（〃）	一、〇一七	（〃）	一、〇五二	（〃）	二五〇
二月	（〃）	一、〇九六	（〃）	一、一九三	（〃）	二五九
三月	（〃）	一、一六七	（〃）	一、二〇一	（〃）	二五九
四月	（〃）	一、一一九	（〃）	一、一九六	（〃）	二三〇
五月	（〃）	一、一九三	（〃）	一、二二九	（〃）	二一四
六月	（〃）	一、一三〇	（〃）	一、一〇四	（〃）	二〇二
七月	（〃）	一、二四六	（〃）	一、二三二	（〃）	一九四
八月	（〃）	一、二三四	（〃）	一、二二一	（〃）	一八六
九月	（〃）	一、一四八	（〃）	一、一五六	（〃）	一八二
十月	（〃）	一、二〇八	（〃）	一、二三三	（〃）	一七八
十一月	（〃）	一、一六六	（〃）	一、一六八	（〃）	一七六
十二月	（〃）	九九九	（〃）	九二〇	（〃）	一七二

米穀銀行は米穀引當の土人金融機關とす。其の爪哇に於ける概況左の如し。

	行數	資金 籾（十萬瓩）	資金 現金（千盾）	未決濟の籾抵當數量（十萬瓩）	未決濟口數	一口當り籾（瓩）
一九二八年	五、九五九	二、一二四	九、〇一一	一、七二二	一、〇八八	一五八
一九二九年	五、八七四	二、一二二	九、三八六	一、七二八	一、〇八一	一六〇

一九三〇年	五、七六一	二、一三六	九、九三三	一、七四三	一、一九三	一四六	
一九三一年	五、六八二	一、三〇七	一〇、二二六	一、〇五二	一、〇八九	九七	
一九三二年	五、五八二	一、三一二	九、四三九	一、〇六三	一、〇八七	九八	
一九三三年	五、五四五	一、三〇八	九、三〇九	一、〇六一	一、一一五	一〇〇	
一九三四年	五、五五一	一、三一二	九、四一六	一、〇六九	一、一一五	一〇〇	

第三章　證券市場

國債は前年に比し若干・持直したり。指數（額面額に對する相場額の比率）左の如し。

	指數				
一九二八年	一〇〇				
一九二九年	九九・四				
一九三〇年	九九・七				
一九三一年	九五・七				
一九三二年	九一・四				
一九三三年	九四・三				
一九三四年	九九・二				
一九三五年	九六・八				
一九三五年一月	一〇一 1/2	二月	一〇一 8/8	三月	一〇〇 15/16
四月	九七 15/16	五月	九六 7/8	六月	九五 15/16
七月	九六 1/8	八月	九二	九月	九〇 15/16
十月	九四 5/8	十一月	九六 5/16	十二月	九七

株式會社に於ける株式相場を見るに平均指數（額面額に對する相場額の比率）は次の如く、一九三五年に於ては總じて持直したる狀態に在り。卽ち前年に比すれば若干好況に向ひたるものと見て然るべしと雖も、根本的に景況回復したるものには非ざるべし。

	ゴム會社	製糖會社	茶會社	煙草會社	拓殖銀行	普通銀行	商事會社	鐵道會社	船舶會社	平均
一九二八年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九二九年	九二・三	八五・三	九一・七	八七・〇	九〇・八	九八・二	一〇二・七	一〇八・九	九九・二	九三・九
一九三〇年	四六・二	六三・四	七〇・七	六五・二	六八・八	八七・八	八一・三	七七・一	七四・六	七〇・五
一九三一年	二三・六	三六・四	四五・三	五〇・二	四一・六	六四・一	六〇・九	五三・四	五一・〇	四七・三
一九三二年	一三・九	一九・四	二九・二	二五・六	二三・六	三九・五	四五・五	二六・六	三一・八	二八・三
一九三三年	二一・一	一八・八	三六・〇	二五・五	二三・六	三六・九	五一・三	一九・二	二九・八	二九・二
一九三四年	三一・四	一四・一	四四・三	二三・八	一七・二	二七・六	五四・一	一五・五	二二・〇	二七・七
一期	二七・三	一六・三	四三・三	二四・三	一九・七	二八・七	五三・三	一八・〇	二五・七	二八・三
二期	三一・三	一四・七	四五・三	二五・〇	一八・七	二七・〇	五四・七	一七・七	二二・七	二八・三
三期	三六・〇	一四・七	四五・七	二四・七	一七・〇	二九・〇	五五・四	一五・〇	二〇・三	二九・〇
四期	三一・三	一〇・七	四三・三	二三・三	一三・七	二六・三	五三・四	一一・三	一九・七	二五・七
一九三五年	二三・〇	一六・五	四一・八	二五・八	一六・九	三〇・〇	五八・六	一五・三	二三・八	二八・八
一月	二四	一三	四四	二五	一五	二八	五五	一三	一九	二七
二月	二三	一四	四三	二五	一六	二七	五七	一四	二一	二八
三月	三〇	一六	三八	二四	一七	二八	五九	一四	二〇	二八
四月	三二	一六	三九	二三	一七	三〇	五八	一四	二〇	二八
五月	三三	一七	四一	二二	一七	三三	五八	一四	二一	二八
六月	三六	一七	四二	二二	一六	三一	六二	一五	二一	二九
七月	三五	一六	四一	二四	一六	三一	六一	一五	二二	二九
八月	三四	一六	四一	二二	一五	三〇	五八	一四	二二	二九
九月	三二	一五	四二	二二	一六	三〇	五七	一四	二三	二九
十月	三三	一八	四五	二二	一八	三二	五七	一六	二四	二九
十一月	三三	二二	四四	二二	一八	三二	五八	一六	二七	二九
十二月	三二	二二	四二	二二	一九	三二	五九	一六	二六	三一

第四章　爲替

第一節　對日爲替

一九三五年に於ける盾の對外價値は引き續き強氣を持續し、特に日本關係に於て然るを見たり。今對日爲替相場を見るに、日本金百圓に對する盾建値次の如し。

	最高(盾)	最低(盾)
一九二八年	一一九、七五	一一二、五〇
一九二九年	一一三、〇〇	一一〇、五〇
一九三〇年	一二四、〇〇	一一二、五〇
一九三一年	一一四、七五	一〇二、〇〇
一九三二年	一〇二、〇〇	五〇、五〇
一九三三年	五五、二五	四五、二五
一九三四年	四九、〇〇	四二、一二五
一九三五年	四四、二五	四一、一二五
一月	四二、五〇	四二、一二五
二月	四二、三七五	四一、八七五
三月	四二、〇〇	四一、一二五
四月	四二、七五	四一、八七五
五月	四三、二五	四二、二五

六月	四二、六二五	四三、二五	
七月	四二、五〇	四四、二五	
八月	四三、一二五	四四、二五	
九月	四二、八七五	四三、三七五	
十月	四二、三七五	四二、八七五	
十一月	四二、二五	四二、五〇	
十二月	四二、三七五	四二、五〇	

第二節　其他諸國

對日爲替以外の主なるものは次の如し。（單位盾）

對アムステルダム（百盾につき）

	最低	最高
一九二八年	九九$\frac{5}{8}$	九九$\frac{7}{8}$
一九二九年	一〇〇$\frac{1}{4}$	一〇〇$\frac{3}{8}$
一九三〇年	一〇〇$\frac{1}{8}$	一〇〇$\frac{3}{8}$
一九三一年	一〇〇$\frac{1}{8}$	一〇〇$\frac{3}{4}$
一九三二年	一〇〇	一〇〇$\frac{3}{4}$
一九三三年	九九$\frac{7}{8}$	一〇〇$\frac{1}{4}$
一九三四年	九九$\frac{7}{8}$	一〇〇$\frac{1}{8}$
一九三五年	九九・七五	一〇〇

對倫敦（一磅につき）

	最低	最高
一九二八年	一二・〇七$\frac{1}{2}$	一二・一五
一九二九年	一二・一〇	一二・一六$\frac{1}{4}$
一九三〇年	一二・〇六$\frac{1}{4}$	一二・一六$\frac{1}{4}$
一九三一年	八・四七$\frac{1}{2}$	一二・一五
一九三二年	八・〇〇	九・七〇
一九三三年	七・七二$\frac{1}{2}$	九・〇〇
一九三四年	七・一八$\frac{3}{4}$	八・一二$\frac{1}{2}$
一九三五年	六・九七	七・五〇

對紐育（百弗に付）

	最低	最高
一九二八年	二四七$\frac{1}{4}$	二五〇
一九二九年	二四九	二五〇$\frac{1}{8}$
一九三〇年	二四八$\frac{1}{2}$	二五〇
一九三一年	二四八$\frac{1}{2}$	二五二
一九三二年	二四七$\frac{3}{4}$	二五二
一九三三年	一五三$\frac{1}{2}$	二四九$\frac{3}{4}$
一九三四年	一四五$\frac{1}{4}$	一五九
一九三五年	一四六	一五〇

第五章　物價及生活費

第一節　物　價

先づ卸賣物價を見るにバタビヤ、スラバヤ、スマランの三市場平均物價指數左の如し。但し左記は輸入物產は七二種、輸出物は二〇種の平均指數にして基數は一九一三年とす。

	輸入商品	輸出商品	輸出入商品計
一九二八年	一五二	一二五	一四六
一九二九年	一五一	一二三	一四五
一九三〇年	一四二	八八	一三〇
一九三一年	一一二	六六	一〇二
一九三二年	九〇	五二	八二
一九三三年	七八	四四	七一
一九三四年	七四	四三	六七
一九三五年	七二	四二	六五
一月	七二	四七	六七
二月	七二	四四	六六
三月	七二	四二	六五
四月	七二	四三	六五

五月	七二	四二	六六			
六月	七二	四〇	六五			
七月	七一	三九	六四			
八月	七一	四〇	六四			
九月	七一	四一	六五			
十月	七二	四四	六六			
十一月	七二	四三	六六			
十二月	七二	四三	六五			

右輸入商品を商品別に分ちて變動の狀況を見るに左の如し。（基數一九一三年）

	食料品（十二種）	紡織品（二十種）	金屬製品（十二種）	化學製品（十五種）	雜（十三種）
一九二八年	一四九	一七二	一四一	一四四	一四〇
一九二九年	一四九	一七二	一四二	一四三	一四〇
一九三〇年	一三八	一六〇	一三三	一三六	一三三
一九三一年	一〇七	一一七	九七	一〇八	一二七
一九三二年	九六	八八	七五	八七	一〇九
一九三三年	八五	七七	六六	六九	九八
一九三四年	七七	七七	六四	六一	九三
一九三五年	七四	七七	六一	五八	九一
一月	七五	七六	六一	五八	九二
二月	七四	七七	六一	五九	九二
三月	七四	七七	六一	五九	九一

四月	七四	七七	六一	五八	九一
五月	七五	七七	六二	五九	九二
六月	七四	七六	六〇	五八	九二
七月	七四	七六	六一	五七	九一
八月	七四	七四	六一	五八	九〇
九月	七四	七六	六一	五七	九一
十月	七五	七八	六一	五八	九一
十一月	七四	七八	六二	五八	九一
十二月	七四	七八	六三	五八	九〇

小賣相場の指數を見るに次の如く何れも低落しつゝあるも、輸入商品に比して國產商品の低落は特に著しきものあり。但し左表はバタビヤ小賣相場にして基數は一九一三年調査品目數は各々二十種とす。

	國產商品	輸入商品	總平均
一九二八年	一六〇	一四八	一五四
一九二九年	一六二	一四五	一五三
一九三〇年	一五六	一四三	一五〇
一九三一年	一三四	一三三	一三四
一九三二年	一〇七	一一六	一一二
一九三三年	九三	一〇五	九九
一九三四年	八五	九五	九〇
一九三五年	八二	九一	八七
一月	八三	九二	八八

二月	八三	九二
三月	八四	九二
四月	八四	九二
五月	八三	九二
六月	八二	九二
七月	八一	九一
八月	八一	九一
九月	八一	九一
十月	八一	九一
十一月	八三	九一
十二月	八二	九〇

		八八
		八八
		八八
		八七
		八六
		八六
		八六
		八六
		八七
		八六

第二節　生活費

經濟界の不況に伴ひ、物價は一途に低落し生活費亦自ら低下されつゝあり。今政府調査による歐洲人一家庭（但し年收四八〇〇盾のもの）の一ヶ月當り生活費を見るに次の如くにして、一九三二年に於てすら一九二九年に比し著しく低下せり。其の後に於ける數字の發表は未だしも一九三五年に於ける生活費は相當低下せるものと想像さる。

	調査家庭數	一ヶ月當り生活費(盾)	指數
一九二九年	三七五	三一二、〇〇	一〇〇
一九三〇年	三〇一	三〇六、六〇	九七
一九三一年	三三一	二九九、三〇	九六
一九三二年	二六二	二七〇、〇〇	八七
一九三三年	？	？	？
一九三四年	？	？	？
一九三五年	？	？	？

尙、歐人家庭食料品（二十四種）の物價指數（基數一九一三年）並に歐洲人住宅の家賃指數（基數一九二九年、各年共一月の調査）を見るに次の如し。

	食料品指數	家賃指數
一九二八年	一六六・九	
一九二九年	一六六・四	一〇〇
一九三〇年	一六二・七	九八・七
一九三一年	一四六・〇	九四・六
一九三二年	一二二・九	八六・七
一九三三年	一〇五・一	七六・二
一九三四年	九二・六	六四・四
一八三五年	八七	五六・九
一月	八八	
二月	八七	
三月	八八	
四月	八八	
五月	八八	
六月	八七	

七月	八六	
八月	八六	
九月	八六	
十月	八七	
十一月	九〇	
十二月	八九	

而して右調査によれば一九三五年十二月に於ける歐洲人一家庭食料費は一ケ月當り五十八盾六十七仙五厘にして、之を既往に對照するに、一九三四年十二月五十八盾七十仙五厘一九三三年十二月六十五盾三十八仙にして、一九三五年は殆んど前年同期に大差なし。

次に土人生活費を見るに、其の食料品（十二種）の物價指數次の如し。（基數一九一三年）

	指數	土人千人の一日當り平均食料費（單位盾）
一九二八年	一四八	
一九二九年	一五七	
一九三〇年	一五二	
一九三一年	一〇二	
一九三二年	七六	
一九三三年	六二	
一九三四年	六一	三五・六八五
一九三五年	六五	三七・一〇
一月	六七	
二月	六九	三八・〇九五
三月	六九	三七・八五
四月	六六	三六・一四
五月	六四	三五・二一
六月	六三	三四・五一五
七月	六一	三三・八二五
八月	六一	三三・九一
九月	六二	三四・一七
十月	六四	三五・四六
十一月	六五	三六・〇一
十二月	六五	三五・九三

備考　右數字は爪哇のみに關する調査とす。

右の如く土人食料費も一路低下を辿り、一九三五年に至つては若干上向きたるも、尙之を一九二九年（最高額を示したる）に比すれば僅かに四割一分に過ぎずして、土人一人一日當り食料費は實に三仙六厘に達せざる所なり。之によつて見るも土人窮乏は相當に甚だしきを想像し得べく、從つて購買力の激減の如き思ふべく、土人相手の商賣の不振なる蓋し當然なりとすべし。

第六章　産　業

蘭領印度の現下各種産業何れも不振に在ること既に述べたる處なり。今對內對外の經濟關係に主要なる類につき生産概要を見ん。

第一節　農　業

一、輸出向農産物生産狀況

輸出向農産物とは專ら農園（エステート）に於て專ら輸出向として栽培さるゝ農産物の謂とす。この主要なるものにつき生産の概況を見んとす。

砂　糖　蘭領印度輸出農産物を代表する砂糖の不振は最も甚だし。其の生産は專ら爪哇にかゝる處、生産狀況左の如し。

	甘蔗收穫面積（ヘクタール）	甘蔗生産高（千噸）	砂糖生産高（噸）	砂糖生産高指數
一九二八年	一九五、四〇八	二五、四六八	二、九二三、五五〇	一〇〇
一九二九年	一九六、七五四	二四、五五四	二、八七〇、九七八	九八
一九三〇年	一九八、〇〇七	二五、七八五	二、九一五、八六六	一〇〇
一九三一年	二〇〇、八三一	二六、三六九	二、七七二、四四三	九五
一九三二年	一六六、一三八	二二、三六九	二、五六〇、一八二	八八
一九三三年	八四、三四三	一一、五一二	一、七三二、五八五	四七
一九三四年	三四、二一一	五、一三三	六三六、一〇四	二二
一九三五年	？	？	五一三、五五四	一八

製糖用に供せられたる甘蔗は右の外に若干の土人甘蔗あり。但し其の數は極めて僅少なり。

ヘヴエア護謨　農園栽培ヘヴエア護謨の生産は其の五五%內外はスマトラにして其他は爪哇にかゝる處なり。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	生産高（噸）	生産高指數
*一九二九年	一、〇九六	三六〇、四七三	一五四、一五四	一〇〇
一九三〇年	一、一二九	三七九、五七三	一五七、八四八	一〇二
一九三一年	一、〇八七	三九三、〇八三	一六九、九三七	一一〇
一九三二年	一、〇八六	四〇七、六四五	一五五、三三八	一〇一
一九三三年	一、一五八	四四五、四五五	一七八、四九四	一一六
一九三四年	一、二〇〇	五一〇、八七二	一九九、四七六	一二九
*一九三五年	？	？	一五三、〇九二	九九

備考　*印は民間農園のみとす。

珈　琲　珈琲は其の八割餘は爪哇の生産にかかり、爾余は殆んど全てスマトラとなす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	生産高（噸）	生産高指數
*一九二九年	四一九	九三、二六六	五五、二八〇	一〇〇
一九三〇年	四三二	一〇〇、七六六	四〇、三三三	七三
一九三一年	四一五	一〇二、七一一	四八、八七〇	八八
一九三二年	四三〇	一〇九、六三〇	六二、八二三	一一四

茶

茶にても總生産の八割餘は爪哇が占め、殘部はスマトラ島の生産にかゝる。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	生産高（噸）	生産高指數
* 一九二九年	三一六	九七、七一〇	七五、五八三	一〇〇
一九三〇年	三二五	一〇四、一八八	七二、〇三六	九五
一九三一年	三二八	一一二、〇七三	八一、四六五	一〇八
一九三二年	三二六	一一二、一四四	八二、二五一	一〇九
一九三三年	三三五	一一八、五五一	七五、六七九	一〇〇
一九三四年	三三七	一一、九六八	七一、六七五	九五
* 一九三五年	二一九	？	五九、六二一	七九

備考　*印は政府農園を含まず。一九三六年は未調査分を含まず。

煙草

煙草生産は爪哇に多くして總高の略六割五分を占め、爾余はスマトラの生産とす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	生産高（噸）	生産高指數
一九二九年	一一六	四八、七〇一	五八、一九八	一〇〇
一九三〇年	一一七	五二、六九九	六〇、五七五	一〇四
一九三一年	一一五	五四、三三一	六三、九七六	一一〇
一九三二年	一〇三	四四、四八七	四五、一〇六	七八
一九三三年	九四	三八、五四九	三八、五七七	六六

備考　*印は政府農園を含まず。

規那

規那の略八割は爪哇の生産にかゝり、殘餘はスマトラとす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	生産高（噸）	生産高指數
* 一九二九年	一三一	一五、三四七	一一、八八四	一〇〇
一九三〇年	一二六	一六、四一〇	一二、六四八	一一六
一九三一年	一二五	一六、六四七	一一、三七八	九六
一九三二年	一二四	一六、五四七	一〇、七三三	九〇
一九三三年	一二一	一七、一七七	八、〇八五	六八
一九三四年	一一七	一六、四八一	八、五九一	七二
* 一九三五年	七〇	？	七、一五九	六〇

備考　*印は政府農園を不含。一九三五年は未調査分を含まず。

カカヲ

カカヲは其の殆んど全部を爪哇産とす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	生産高（噸）	生産高指數
一九二九年	二一二	四二、二九二	一、一五四	一〇〇
一九三〇年	二一二	四三、九二七	一、二〇二	一〇四
一九三一年	二一二	四四、二八一	一、三〇一	一一二
一九三二年	二一二	四四、五五四	一、四四九	一二六
一九三三年	二一七	四四、七二二	一、六八〇	一四六
一九三四年	一三二	四五、五七二	一、六〇〇	一四六
一九三五年	一三一	？	一、六〇〇	？

古々椰子　古々椰子は外領（ボルネヲ、スマトラ）に於て栽培最も盛大なり。但しコプラはセレベスに於ける生産最も多し。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）
*一九二九年	六五五	二六、八八五
一九三〇年	七〇〇	二九、五二三
一九三一年	六九七	三〇、五六八
一九三二年	六八六	三一、六九〇
一九三三年	六八七	三三、四六〇
一九三四年	六八五	三五、五二二
一九三五年	？	？

	果實收穫高（千個）	コプラ生產高（噸）	コプラ生產高指數
*一九二九年	八、五二〇	二四、八八七	一〇〇
一九三〇年	八、六二九	二六、三七六	一〇六
一九三一年	九、二三七	二三、五六二	九五
一九三二年	一二、五七二	二六、九五一	一〇八
一九三三年	一二、〇九三	二七、六二九	一一一
一九三四年	一二、一四四	二七、九五七	一一二
一九三五年	？	？	？

備考　*印は政府農園を含まず。

油椰子　油椰子の栽培はスマトラ島に於て最も盛大にして生産品は殆んど全て之にかゝるものとす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	果實收穫高（噸）	椰子油生產高（噸）	椰子油生產高指數
*一九二九年	四八	二四、四七三	七、〇六五	三五、九七一	一〇〇
一九三〇年	四九	三〇、〇一七	九、八二一	四九、七五二	一三八
一九三一年	四九	三六、三二二	一二、八〇五	六四、四五七	一七九
一九三二年	五一	四五、八二九	一八、五八四	九〇、九二五	二五三
一九三三年	五一	五二、三〇五	二三、三五一	一一四、八〇〇	三一九
一九三四年	五一	五八、一一一	二五、二三一	一三二、一八六	三六八
*一九三五年	二七	？	一八、六六七	九二、〇三〇	二五六

備考　*印は政府農園を含まず。

肉荳蔻　本類は外領の生產多くして略七割内外を占め、爾餘を爪哇となす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	果實生產高（噸）	內皮（mace）生產高（噸）	果實生產高指數
一九二九年	二五	一、六五七	五〇四	九〇	一〇〇
一九三〇年	二六	一、七二五	四九五	九〇	九八
一九三一年	二六	一、四九〇	五六二	八八	一一一
一九三二年	二六	一、六一八	四五四	七二	九〇
一九三三年	二七	一、五六二	四六五	五七	九二
一九三四年	二六	一、六五一	三六六	六〇	七三
一九三五年	？	？	？	？	？

カポツク　カポツクは殆んど全部爪哇の產となす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	實生產高（千ケ）	實綿生產高（噸）	繰綿生產高（噸）
*一九二九年	一一九	七、一一七	一六、一七三	四一九	一、七一五
一九三〇年	一四二	七、四一五	二一、二七九	五二七	一、五八七
一九三一年	一六一	八、五七五	二五、六三四	一、一〇二	一、五二六
一九三二年	一六〇	一〇、五六四	二八、五八四	五六七	一、五二七
一九三三年	一七九	一一、四〇一	三二、三一七	六二〇	一、五四九
一九三四年	一九四	一二、五二八	三三、二一一	九九一	一、九二三
一九三五年	？	？	？	？	？

備考　*印は政府農園を含まず。

繊維類（カンタラ、サイザル、マニラ麻）　マニラ麻を除き他は殆んど爪哇の産とす。

	收穫面積（ヘクタール）	生産高（噸） 計（其他共）	カンタラ	サイザル	マニラ
一九二九年	一一、三六九	一一六、〇五八	三、四一〇	二、四一六	二三四
一九三〇年	一四、七四六	一一六、四〇六	四、一一六	二、〇五四	二三五
一九三一年	一五、四三一	一一九、二五七	四、七一三	一、四一五	二三九
一九三二年	一一、八五六	二一、九九六	三、一四一	一、六六二	二三〇
一九三三年	四、〇六七	二一、九九四	四、五七四	一、〇	二一〇
一九三四年	？	？	？	？	？

備考　右表にはスマトラ島日・ヴ・A會社農園を含まず。該農園のマニラ麻は推定栽培面積一萬ヘクタール、年産一萬五千噸と見らる。

胡椒　本類も大部分爪哇の生産とす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	生産高（噸）	生産高指數
一九二九年	二三三	一九六六	一五八	一〇〇
一九三〇年	二八	二、一五八	二四七	一五六
一九三一年	三四	九八六	一三〇	八二
一九三二年	三〇	一九七六	一一九	七五
一九三三年	三五	一九九九	一四八	九四
一九三四年	四二	二、一五五	九八	六二
一九三五年	？	？	？	？

ガムビル　殆んど全部スマトラの産出とす。

コカ　殆んど全部爪哇の生産とす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	生産高（噸）	生産高指數
一九二九年	一一五	二、三三一	四、三四二	一〇〇
一九三〇年	一一五	二、六七四	四、四八一	一〇三
一九三一年	一一四	二、五三〇	三、二七二	七四
一九三二年	一一三	二、五三一	三、二六八	七五
一九三三年	一一二	二、六五三	三、三六八	七七
一九三四年	一一	二、五七七	三、二九六	七六
一九三五年	？	？	？	？

セレ草根　セレ草根を乾燥してシトロネラ油を採取す。生産地は殆んど全部爪哇とす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）	シトロネラ油生産高（噸）	生産高指數
一九二九年	一〇三	九、二三三	四三〇	一〇〇
一九三〇年	九九	八、九三三	四四七	一〇四
一九三一年	八六	七、五三七	三八	九七
一九三二年	七四	六、八三一	三四一	九五
一九三三年	六五	六、一三〇	三〇一	八四
一九三四年	六〇	五、九三〇	二九四	八二
一九三五年	？	？	？	？

一九三二年	九八	七、四九六
一九三三年	一一五	八、六九一
一九三四年	一二一	七、八八八
一九三五年	？	？

カツサバ　カツサバ根よりタピオカ澱粉を採取す。生産地は殆んど全部爪哇とす。

	農園數	收穫面積（ヘクタール）		
一九二九年	一三	三、八九〇		
一九三〇年	八	三、三五一		
一九三一年	一〇	二、六四四		
一九三二年	一〇	四、二七七		
一九三三年	一二	三、三三〇		
一九三四年	？	？		

	生産高（噸）		
	タピオカ粉	タピオカ粒	タピオカ片
一九二九年	三四、九一二	一、五五四	五八二
一九三〇年	一二八、四五五	六九四	二二二
一九三一年	四七、二六九	一、五〇六	五七六
一九三二年	四二、九二〇	九三〇	三八〇
一九三三年	三七、三八八	六八三	二〇九
一九三四年	？	？	？

二、土人農業の概況

土人農業とは農園農業に對するものにして後者が專ら輸出向農産物なると異なり、主として其の生活必需農産物を主とするものなり。勿論輸出向農産物の生産も不尠と雖も、こは輸出界の景況如何により年により生産高に相當の變動を見る。今爪哇に於ける（外領は不明）土人農業物産の主要なるものについて概況を見んとす。

米　米は土人經濟に於て最も重要なるものとなす。之に水稻と陸稻との別あり。概況左の如し。

	收穫面積（千ヘクタール）			收穫高（千噸）			收穫高指數
	水稻	陸稻	計	水稻	陸稻	計	
一九二九年	三、〇二一〇	四〇三	三、四二三	六、二七六	四八五	六、七六一	一〇〇
一九三〇年	三、一二三	四三六	三、五五九	六、七二六	五八〇	七、三〇六	一〇八
一九三一年	三、〇七三	四四〇	三、五一三	六、四八三	五三一	七、〇一五	一〇四
一八三二年	三、二六三	四二七	三、六九〇	六、八八四	五四三	七、四二八	一一〇
一九三三年	三、三二四	四五四	三、七七八	七、〇〇七	五二五	七、五三三	一一一
一九三四年	三、三三八	三九二	三、七三〇	六、六二四	四六二	七、〇八六	一〇五
一九三五年	三、三九八	三八六	三、七八四	？	？	？	？

玉蜀黍　玉蜀黍は其の幾割を食料に供せらるゝも、輸出さるゝ量亦尠からず。其の栽培は東部爪哇最も盛にして西するに從ひ次第に尠し。生産狀況左の如し。收穫高は乾燥實として擧げらる。

	收穫面積（千ヘクタール）	收穫高（千噸）	收穫高指數
一九二九年	一、七二七	一、五七六	一〇〇
一九三〇年	二、〇二五	二、〇〇三	一二七
一九三一年	一、九六二	一、九一一	一二一
一九三二年	二、〇〇二	一、九〇二	一二一
一九三三年	二、二一〇四	二、二一七	一三五
一九三四年	一、八四八	一、七二〇	一〇九
一九三五年	二、〇八四	？	？

カツサバ　カツサバ根よりタピオの粉を採取すること既に述べたり。東部並に中部の生産最も多く生産高の九割を占む。この生産狀況次の如し。

	收穫面積（千ヘクタール）	カツサバ根生産高（千噸）	カサバ生産高指數
一九二九年	七一五	五、一二九	一〇〇
一九三〇年	六五三	五、一一六	一〇二

一九三一年	六九九	五、九一一
一九三二年	七一七	六、二二二
一九三三年	七〇一	五、八三一
一九三四年	七六四	五、七九四
一九三五年	七八八	？

甘藷　東部爪哇に最も盛にして、收穫高の半ばを占め、中部爪哇之に次ぎ、西部最も尠し。

	收穫面積（千ヘクタール）	收穫高（千噸）	收穫高指數
一九二九年	一三二	九二四	一〇〇
一九三〇年	一六〇	一、一〇〇	一一九
一九三一年	一四三	九六三	一〇四
一九三二年	一四五	九五八	一〇四
一九三三年	一六〇	一、一四二	一二四
一九三四年	一六三	一、〇六九	一一六
一九三五年	二〇五	？	？

馬鈴薯　爪哇各地に產するも、中部爪哇の產は稍少し。

	收穫面積（千ヘクタール）	收穫高（千瓦）	收穫高指數
一九二九年	二〇	一〇二	一〇〇
一九三〇年	一七	七八	七六
一九三一年	一八	八〇	七八
一九三二年	二四	一一六	一一四
一九三三年	一七	七九	七七

一九三四年	一七	？
一九三五年	一五	？

落花生　東部爪哇最も盛にして總量の半を占め、中部西部之に次ぐ。

	收穫面積（千ヘクタール）	收穫高（千噸）	收穫高指數
一九二九年	二一四	一五六	一〇〇
一九三〇年	二一五	一六六	一〇六
一九三一年	一九三	一四二	九一
一九三二年	二一四	一六一	一〇三
一九三三年	二一八	一六一	一〇三
一九三四年	二〇八	一四九	九六
一九三五年	一九五	？	？

大豆　大豆に於ても東部爪哇最も盛にして、中部之に次ぐ。西部爪哇は極めて僅少に過ぎず。

	收穫面積（千ヘクタール）	收穫高（千噸）	收穫高指數
一九二九年	一八六	一〇七	一〇〇
一九三〇年	二〇八	一二八	一二〇
一九三一年	一九四	一二九	一二一
一九三二年	二三八	一四九	一三九
一九三三年	二八〇	一八二	一七〇
一九三四年	二七一	一七六	一六四
一九三五年	三〇七	？	？

其他主なるものの栽培狀況左の如し。（收穫面積單位千ヘクタール）

カポック

	印度生産高の%〃	印度輸出高〃	世界生産高〃	印度輸出高〃	世界輸出高〃
	九四	八九〇	一一、六九七	一一、六二九	一九二九年
	九三	八八四	一一、七一六	一一、七二一	一九三〇年
	九二	八四七	一〇、六三八	一一、六二八	一九三一年
	九〇	七九二	一〇、一二五六	一一、一七二	一九三二年
	八九	七五六	八、四八〇	一一、一六八	一九三三年
	八九	七一二	八、一八〇三	一一、一四二	一九三四年

規那

次に蘭領印度主要農産物につきて其の世界的位置を見るに左の如し。

三、蘭印物産の世界的地位

	蘭印の%	蘭印輸出高（〃）	世界輸出高（千瓲）	
備考				
未記入の項未詳	六九	一一、九二一	一七、四二九	一九二九年
	七五	一一、五〇二	一五、二四〇	一九三〇年
	六九	一一、〇二六	一五、九〇六	一九三一年
	七六	一一、五八五	一五、四五五	一九三二年
	七五	一一、四八〇	一五、三九九	一九三三年
	六九	一一、一四二	一六、四二九	一九三四年

胡椒

	蘭印の%	蘭印輸出高（〃）	世界輸出高（瓲）	
	七三	一七、四二九	二三、七二一	一九二九年
	七九	二〇、七三二	二六、二四三	一九三〇年
	七九	二〇、六〇二	二五、七三六	一九三一年
	八一	一八、四九六	二三、七七九	一九三二年
	八二	二三、四三二	二七、四八三	一九三三年
	八〇	二六、〇〇五	三二、五〇〇	一九三四年

護謨

	蘭印の%	蘭印輸出高（〃）	世界輸出高（千瓲）	
	三〇	二六二	八八五	一九二九年
	二九	二四六	八三九	一九三〇年
	三二	二六一	八一三	一九三一年
	三〇	二二五	七二二	一九三二年
	二七	二〇七	七四二	一九三三年
	二四	一八七	七六五	一九三四年

椰子製品（コプラに見積りて）

	蘭印の%	蘭印輸出高（〃）	世界輸出高（千瓲）	
	二九	五〇九	一、七四二	一九二九年
	二七	四〇〇	一、五〇九	一九三〇年
	二五	三六八	一、四九九	一九三一年
	三五	五〇八	一、四五九	一九三二年
	二九	五〇二	一、七三三	一九三三年
	二四	四二二	一、七六八	一九三四年

アガヴ纖維

	蘭印の%	蘭印輸出高（〃）	世界輸出高（千瓲）	
	?	?	?	一九二九年
	?	?	?	一九三〇年
	?	?	?	一九三一年
	?	?	?	一九三二年
	?	?	?	一九三三年
	?	?	?	一九三四年

麻　麻花　菜椒　葱薑　野蕃王　甘煙　大豆以外の豆類

胡黍　莚棉　藍

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
世界輸出高(千瓲)	二六六	二二六	二四一	三三四	三二一	三〇二
蘭印輸出高(〃)	五九	六六	七〇	九一	九五	六九
蘭印の%	二二	二九	二九	二七	三〇	二三

茶

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
世界輸出高(千瓲)	四三八	四〇七	四〇九	四二三	三八六	三八八
蘭印輸出高(〃)	七二	七二	七九	七九	七二	六四
蘭印の%	一七	一八	一九	一九	一九	一六

砂糖

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
世界生産高(千瓲)	二七、五五〇	二七、三二三	二八、四七七	二六、七九九	二四、四七六	二五、五二一
蘭印生産高(〃)	二、九三五	二、九七一	二、八三九	二、六一一	一、四〇一	六四四
蘭印の%	一一	一一	一〇	一〇	六	三

油椰子（コブラ見積り以外のもの）

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
世界輸出高(千瓲)	七八六	八二六	七七四	九一三	八九八	九四二
蘭印輸出高(〃)	四三	五八	七四	一〇三	一三九	一四六
蘭印の%	五	七	一〇	一一	一五	一五

珈琲

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
世界輸出高(千瓲)	一、四三三	一、五四六	一、六七五	一、三五六	一、五八一	一、五九九
蘭印輸出高(〃)	八一	六一	六八	一一三	七一	八一
蘭印の%	六	四	四	八	五	五

カカヲ

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
世界輸出高(瓲)	五四一、四三〇	四八八、七九五	五五七、八九一	五七四、〇九七	五七九、七三六	五九二、二九三
蘭印輸出高(〃)	一、二九一	一、四六三	一、四〇六	一、五五一	一、四六七	二、〇九三
蘭印の%	〇・二	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・四

四、農産物輸出狀況

今蘭領印度農産物の輸出狀況を農園農産物と土人農産物とに分ちて見るに添付第一表の如く、之によりて夫々の生産分野を略察知することを得。（單位瓲、千盾）

備考　風とあるは其の重量が風袋込みなるを示し、正とあるは、正味重量なるを示す。

第二節　鑛　業（上篇第二章第三節參照）

鑛産物の生産狀況には特に大なる變化を見ざるも生産價額よりすれば漸次不振に在り。主要鑛産物の生産狀況は左の如し。

石油　ボルネヲ東部、並にスマトラ南部を主要生産地とす。

	勞働者數	生産高(噸)	生産高指數
一九二九年	三一、九四五	五、一三八、五四三	一〇〇
一九三〇年	二八、九六〇	五、五三一、四八〇	一〇六
一九三一年	一七、八七八	四、六九八、〇五〇	九〇
一九三二年	一五、八三六	五、〇九三、一六四	九七
一九三三年	一五、六三五	五、五二七、三一五	一〇五
一九三四年	一二、三七一	六、〇四二、二〇〇	一一五
一九三五年	？	六、〇八九、六〇五	一一六

錫　專らバンカ、ビリトンの諸島に産出する處。

	勞働者數	生産高(噸)	産出高指數
一九二九年	四二、六六八	三一、二一三	一〇〇
一九三〇年	三七、二一二	三三、五七九	一〇七
一九三一年	二九、五〇〇	二七、八一四	八九
一九三二年	一五、八〇五	一七、〇五八	五五
一九三三年	一〇、六四一	一二、八一一	四一
一九三四年	九、六七一	一九、七四五	六三
一九三五年	？	二〇、四二五	六六

備考　右生産高の過半數は政府經營鑛山にかゝるものとす。

金、銀、金剛石　金銀はスマトラ島を主とし、金剛石はボルネヲの産出にかゝる。

第一表（一二三頁參照）

品名		一九三一年 農園農業	一九三一年 土人農業	一九三一年 計	一九三二年 農園農業	一九三二年 土人農業	一九三二年 計	一九三三年 農園農業	一九三三年 土人農業	一九三三年 計	一九三四年 農園農業	一九三四年 土人農業	一九三四年 計
馬鈴薯	風	— / —	三、六三九 / 五五〇	三、六三九 / 五五〇	— / —	四、九五四 / 五五六	四、九五四 / 五五六	— / —	三、二八一 / 二六五	三、二八一 / 二六五	— / —	二、〇一九 / 一四六	二、〇一九 / 一四六
揮發性油	正	三五〇 / 八六五	七一四 / 一、五四〇	一、〇六四 / 二、四〇五	四三三 / 八一三	七五一 / 一、六一五	一、一七四 / 二、四二八	六九二 / 一、一二六	一、〇九四 / 一、九九八	一、七八六 / 三、一二四	八四四 / 八三一	一、二七三 / 一、四八四	二、一一七 / 二、三〇五
落花生	〃	— / —	一三、四六五 / 一、五四〇	一三、四六五 / 一、五四〇	— / —	一五、三三四 / 一、八九八	一五、三三四 / 一、八九八	— / —	一九、六二七 / 一、七〇五	一九、六二七 / 一、七〇五	— / —	一〇、三三〇 / 七四五	一〇、三三〇 / 七四五
落花生油	〃	— / —	二、一七八 / 七五九	二、一七八 / 七五九	— / —	四、二九四 / 一、一二六	四、二九四 / 一、一二六	— / —	五、二七三 / 一、〇四八	五、二七三 / 一、〇四八	— / —	四、五一五 / 七一一	四、五一五 / 七一一
アガヴ纖維	〃	六九、九七四 / 一三、四三一	— / —	六九、九七四 / 一三、四三一	九〇、五八八 / 八、一六一	— / —	九〇、五八八 / 八、一六一	九四、八九八 / 八、五五七	— / —	九四、八九八 / 八、五五七	六九、六七三 / 五、八二一	— / —	六九、六七三 / 五、八二一
ベンゾウ	〃	?	?	?	?	?	?	?	?	?	— / —	一、九四七 / 六五五	一、九四七 / 六五五
カカオ	〃	一、三〇〇 / 一、二四四	一〇六 / 七〇	一、四〇六 / 一、三一四	一、四四九 / 九四九	一〇二 / 四九	一、五五一 / 九九八	一、四三三 / 七三六	三五 / 四	一、四六七 / 七四〇	一、六〇〇 / 三六三	四九三 / 一〇八	二、〇九三 / 四七〇
護謨	〃	一六八、六八三 / 六三、五四六	九〇、一九二 / 一六、二九七	二五八、八七五 / 七九、八四三	一四九、七七〇 / 二七、七四六	六一、四四七 / 四、八〇一	二一一、二一七 / 三二、五四七	一六五、八九七 / 二五、三六三	一一五、五七六 / 一〇、八七一	二八一、四七三 / 三六、二三四	一九四、一九〇 / 五六、三八三	一八五、八八七 / 三〇、五五五	三八〇、〇七七 / 八六、九三七
ラテックス	〃	一〇、五七八 / 一、四四八	— / —	一〇、五七八 / 一、四四八	九、八〇〇 / 六二一	— / —	九、八〇〇 / 六二一	一四、九八一 / 七九七	— / —	一四、九八一 / 七九七	五、四一五 / 一、二七七	— / —	五、四一五 / 一、二七七
フイカス護謨	〃	— / —	— / —	— / —	— / —	一五 / 一	一五 / 一	— / —	一三 / 一	一三 / 一	— / —	五 / 一	五 / 一
コカ葉	〃	二八七 / 一三九	— / —	二八七 / 一三九	二〇九 / 九四	— / —	二〇九 / 九四	一六一 / 七三	— / —	一六一 / 七三	一〇五 / 四七	— / —	一〇五 / 四七
蓽澄果	〃	— / —	九 / 七五	九 / 七五	— / —	九七 / 七一	九七 / 七一	— / —	一三六 / 九二	一三六 / 九二	— / —	六〇 / 四二	六〇 / 四二
タピオカ産物 ガプレク	〃	— / —	一九、二四四 / 四八三	一九、二四四 / 四八三	— / —	四〇、二八五 / 六二八	四〇、二八五 / 六二八	— / —	二九、六六四 / 四六二	二九、六六四 / 四六二	— / —	二五、三五三 / 三八八	二五、三五三 / 三八八
タピオカ産物 ガプレク粉	〃	— / —	五三、二七〇 / 一、四七一	五三、二七〇 / 一、四七一	— / —	八一、二三五 / 一、四八四	八一、二三五 / 一、四八四	— / —	一七、八六〇 / 三〇六	一七、八六〇 / 三〇六	— / —	六、九七五 / 一一〇	六、九七五 / 一一〇
タピオカ産物 タピオカ粉	〃	二四、〇四四 / 一、八六五	七六、五三三 / 五、九三五	一〇〇、五七六 / 七、八〇〇	三一、三五四 / 一、九七一	五五、七二七 / 三、三九七	八八、〇八一 / 五、三六八	二五、四六九 / 一、五三三	八一、四七三 / 四、八七〇	一〇六、九四二 / 六、三九三	二一、〇三七 / 一、一四九	七一、九三五 / 三、九三〇	九二、九七三 / 五、〇七九
タピオカ産物 タピオカ片	〃	— / —	五、一一四 / 六一七	五、一一四 / 六一七	一三〇 / 二一	五、一二五 / 四四三	五、二五五 / 四五四	— / —	六、七四一 / 五四三	六、七四一 / 五四三	五、六九六 / 四三八	二九四 / 二三	五、九九〇 / 四六〇
タピオカ産物 〃眞珠	〃	— / —	一四、六三三 / 一、六七六	一四、六三三 / 一、六七六	一四四 / 三	一〇、九八〇 / 九四一	一一、一二四 / 九五三	— / —	一〇、四九八 / 八五三	一〇、四九八 / 八五三	七、三四四 / 六〇〇	六、一四一 / 四九七	一三、四八四 / 一、〇九七
タピオカ産物 タピオカ滓	風	— / —	一、二五七 / 三一	一、二五七 / 三一	— / —	五八六 / 九	五八六 / 九	— / —	四二一 / 六	四二一 / 六	— / —	六三三 / 七	六三三 / 七
古々椰子物産 コプラ滓	正	— / —	五三、一一九 / 二、八九二	五三、一一九 / 二、八九二	— / —	五八、六九七 / 二、四七五	五八、六九七 / 二、四七五	— / —	六六、二七二 / 二、三二八	六六、二七二 / 二、三二八	— / —	七三、二七〇 / 一、四一九	七三、二七〇 / 一、四一九
古々椰子物産 コプラ	〃	二〇、五八二 / 二、七七四	三三九、五八九 / 四五、七七六	三六〇、一七一 / 四八、五五〇	二七、三四一 / 二、四〇七	四五二、六三九 / 三九、八九二	四七九、九五〇 / 四二、二九九	二九、六五〇 / 二、三三八	四五八、三一四 / 三六、一五六	四八七、九六四 / 三八、四九四	二七、三五三 / 一、一〇九	三九〇、一一一 / 一五、七五一	四一七、四六四 / 一六、八六〇
古々椰子物産 椰子油	〃	— / —	四、三七二 / 一、二八四	四、三七二 / 一、二八四	— / —	一六、三〇四 / 二、九七七	一六、三〇四 / 二、九七七	— / —	八、五二八 / 一、三九三	八、五二八 / 一、三九三	— / —	二、五九三 / 二五四	二、五九三 / 二五四
古々椰子物産 ココ椰子	〃	— / —	四三三 / 五三	四三三 / 五三	— / —	四三三 / 五九	四三三 / 五九	— / —	二 / 一	二 / 一	— / —	一三 / 一	一三 / 一
トバ根	風	?	?	?	?	?	?	?	?	?	— / —	一三四 / 二八	一三四 / 二八
蓖麻子	正	— / —	五、四〇四 / 六〇六	五、四〇四 / 六〇六	— / —	五、九八九 / 五九九	五、九八九 / 五九九	— / —	七、六一五 / 五四四	七、六一五 / 五四四	— / —	五、九八一 / 三三三	五、九八一 / 三三三
蓖麻子油	〃	— / —	二 / 一	二 / 一	— / —	一 / 一	一 / 一	— / —	一 / 一	一 / 一	— / —	一三 / 七	一三 / 七
ガムビル	風	三、二三六 / 八一〇	二、五七一 / 六四六	五、七九七 / 一、四五六	三、二七三 / 九六〇	一、九五一 / 五七三	五、二三三 / 一、五三三	三、三六八 / 七五三	二、一三八 / 四七八	五、五〇六 / 一、二三〇	三、二九六 / 六五三	二、六六四 / 五二八	五、九六〇 / 一、一八〇
グタペルチャ	正	一〇〇 / 五七七	— / —	一〇〇 / 五七七	九〇 / 四八七	— / —	九〇 / 四八七	三五 / 一五〇	— / —	三五 / 一五〇	九四 / 二三三	— / —	九四 / 二三三
ゲムッ纖維	〃	— / —	一九 / 四一	一九 / 四一	— / —	一五八 / 四五	一五八 / 四五	— / —	一五一 / 三八	一五一 / 三八	— / —	二五七 / 六四	二五七 / 六四
蔬菜	風	— / —	六、〇八六 / 六二〇	六、〇八六 / 六二〇	— / —	三、四七六 / 三四九	三、四七六 / 三四九	— / —	五、八七七 / 四七四	五、八七七 / 四七四	— / —	六、二〇四 / 五四四	六、二〇四 / 五四四
荳蔻	〃	?	?	?	?	?	?	?	?	?	— / —	五五〇 / 七一	五五〇 / 七一
肉桂	〃	— / —	二、五八五 / 五五〇	二、五八五 / 五五〇	— / —	三、〇三四 / 五三二	三、〇三四 / 五三二	— / —	三、三八六 / 五九七	三、三八六 / 五九七	— / —	三、七三八 / 六六一	三、七三八 / 六六一
カポック棉 棉花	風	一、九四八 / 九五三	一九、〇七七 / 九、一六八	二一、〇二五 / 一〇、一二一	一、七六三 / 七九一	一七、三三〇 / 七、四二四	一九、〇九三 / 八、二一五	一、七七五 / 五八六	二〇、八六八 / 六、八六五	二二、六四三 / 七、四五一	二、三六二 / 六九三	一八、六六八 / 五、三三八	二一、〇三〇 / 六、〇三一
カポック棉 種子	正	三、六四一 / 一三八	一二、三二〇 / 四三一	一五、九六一 / 五五九	三、三〇七 / 一〇八	一三、六六五 / 四三八	一六、九七二 / 五四六	三、三一八 / 九〇	一四、四五九 / 三八五	一七、七七七 / 四七五	四、二八三 / 七一	二一、八〇五 / 三六二	二六、〇八八 / 四三三
カポック棉 種子油	〃	— / —	二、五七七 / 四九八	二、五七七 / 四九八	— / —	二、一六七 / 二九六	二、一六七 / 二九六	— / —	二、四二三 / 三一〇	二、四二三 / 三一〇	— / —	二、七五七 / 二二〇	二、七五七 / 二二〇
カポック棉 油滓	〃	— / —	三、四八九 / 六七五	三、四八九 / 六七五	— / —	二、九九九 / 三六〇	二、九九九 / 三六〇	— / —	一六、四四七 / 三七三	一六、四四七 / 三七三	— / —	一〇、四九〇 / 一九六	一〇、四九〇 / 一九六
棉花	〃	— / —	一、六八〇 / 四四七	一、六八〇 / 四四七	— / —	一、二三一 / 二三〇	一、二三一 / 二三〇	— / —	一、八六六 / 三四五	一、八六六 / 三四五	— / —	一、五〇五 / 二九六	一、五〇五 / 二九六
ケミル實	風	?	?	?	?	?	?	?	?	?	— / —	一六三 / 一三	一六三 / 一三
規那皮	正	六、〇三六 / 五、七七八	— / —	六、〇三六 / 五、七七八	六、九〇五 / 六、六〇一	— / —	六、九〇五 / 六、六〇一	六、三八六 / 四、八八〇	— / —	六、三八六 / 四、八八〇	六、四一八 / 五、〇六一	— / —	六、四一八 / 五、〇六一
規那（キニーネ）	〃	五四 / 一、四三一	— / —	五四 / 一、四三一	四二 / 一、三一七	— / —	四二 / 一、三一七	五八 / 一、四九八	— / —	五八 / 一、四九八	三七 / 一、三九九	— / —	三七 / 一、三九九
珈琲	〃	二九、三六三 / 一一、二八一	三八、六二八 / 一三、二四四	六七、九九〇 / 二三、五三五	四三、〇四八 / 一三、八六四	六八、三二三 / 一九、四七四	一一一、三六〇 / 三三、三三八	二二、三三八 / 八、四三三	四八、六八一 / 一七、二〇〇	七一、〇一九 / 二五、六三三	三四、六九〇 / 九、四二五	四六、三五九 / 一三、六八一	八一、〇四九 / 二三、一〇六
クラトック豆	風	— / —	四、九三六 / 二三九	四、九三六 / 二三九	— / —	五、二四一 / 一九二	五、二四一 / 一九二	— / —	五、二〇五 / 一三九	五、二〇五 / 一三九	— / —	二、一七〇 / 六四	二、一七〇 / 六四
丁香	〃	— / —	二四三 / 二四五	二四三 / 二四五	— / —	九四 / 六八	九四 / 六八	— / —	二五三 / 一四七	二五三 / 一四七	— / —	二八三 / 一四二	二八三 / 一四二

品目													
トパ根	風	?	?	?	?	?	?	?	?	?	—	一三四 三八	一三四 三八
蓖麻子	正	—	五、四〇四 六〇六	五、四〇四 六〇六	—	五、九八九 五九九	五、九八九 五九九	—	七、六一五 五四四	七、六一五 五四四	—	五、九八一 三三三	五、九八一 三三三
蓖麻子油	〃	—	二 一	二 一	—	一 一	一 一	—	一 一	一 一	—	一三 七	一三 七
ガムビル	風	三、三二六 八二〇	二、五七一 六四六	五、七九七 一、四五六	三、二七三 九六〇	一、九五一 五七三	五、二二三 一、三三三	三、三六八 七五三	二、一三八 四七八	五、五〇六 一、二三〇	三、二九六 六五三	二、六六四 五二八	五、九六〇 一、一八〇
グタペルチャ	正	一〇〇 五七七	—	一〇〇 五七七	九〇 四八七	—	九〇 四八七	三五 一五〇	—	三五 一五〇	九四 二三三	—	九四 二三三
ゲムツ纖維	〃	—	一一九 四一	一一九 四一	—	一五八 四五	一五八 四五	—	一五一 三八	一五一 三八	—	二五七 六四	二五七 六四
蔬菜	風	—	六、〇八六 六二〇	六、〇八六 六二〇	—	三、四七六 三四九	三、四七六 三四九	—	五、八七七 四七四	五、八七七 四七四	—	六、二〇四 五四四	六、二〇四 五四四
蒟蒻	〃	?	?	?	?	?	?	?	?	?	—	五五〇 七一	五五〇 七一
肉桂	〃	—	二、五八五 五五〇	二、五八五 五五〇	—	三、〇二四 五五三	三、〇二四 五五三	—	三、三八六 五九七	三、三八六 五九七	—	三、七三八 六六一	三、七三八 六六一
カポツク 棉花	風	一、九四八 九五三	一九、〇七七 九、一六八	二一、〇二五 一〇、一二一	一、七六三 七九一	一七、三三〇 七、四二四	一九、〇九三 八、二一五	一、七七五 五八六	二〇、八六八 六、八六五	二二、六四三 七、四五一	二、三六二 六九三	一八、六六八 五、三三八	二一、〇三〇 六、〇三一
カポツク 種子	正	三、六四一 一二八	一二、三二〇 四三一	一五、九六一 五五九	三、三〇七 一〇八	一三、六六五 四三八	一六、九七二 五四六	三、三一八 九〇	一四、四五九 三八五	一七、七七七 四七五	四、二八三 七一	二一、八〇五 三六二	二六、〇八八 四三三
カポツク 種子油	〃	—	二、五七七 四九八	二、五七七 四九八	—	二、一六七 二九六	二、一六七 二九六	—	二、四二三 三一〇	二、四二三 三一〇	—	二、七五七 二二〇	二、七五七 二二〇
棉 油粕	〃	—	三、四八九 六七五	三、四八九 六七五	—	二一、九九九 三六〇	二一、九九九 三六〇	—	一六、四四七 三七三	一六、四四七 三七三	—	一〇、四九〇 一九六	一〇、四九〇 一九六
棉花	〃	—	一、六八〇 四四七	一、六八〇 四四七	—	一、三三一 二三〇	一、三三一 二三〇	—	一、八六六 三四五	一、八六六 三四五	—	一、五〇五 二九六	一、五〇五 二九六
ケミル實	風	?	?	?	?	?	?	?	?	?	—	一六三 一三	一六三 一三
規那皮	正	六、〇三六 五、七七八	—	六、〇三六 五、七七八	六、九〇五 六、六〇一	—	六、九〇五 六、六〇一	六、三八六 四、八八〇	—	六、三八六 四、八八〇	六、四一八 五、〇六一	—	六、四一八 五、〇六一
規那(キニーネ)	〃	一、四三一 五四	—	一、四三一 五四	一、三一七 四二	—	一、三一七 四二	一、四九八 五八	—	一、四九八 五八	一、三九九 五七	—	一、三九九 五七
珈琲	〃	二九、三六二 一一、二八一	三八、六二八 一三、二四四	六七、九九〇 二三、五二五	四三、〇四八 一三、八六四	六八、三二三 一九、四七四	一二一、三七一 三三、三三八	二二、三三八 八、四三三	四八、六八一 一七、二〇〇	七一、〇一九 二五、六三三	三四、六九〇 九、四二五	四六、三五九 一三、六八一	八一、〇四九 二三、一〇六
クラトック豆	風	—	四、九三六 二三九	四、九三六 二三九	—	五、二四一 一九二	五、二四一 一九二	—	五、二〇五 一三九	五、二〇五 一三九	—	二、一七〇 六四	二、一七〇 六四
丁香	〃	—	二二四 二四三	二二四 二四三	—	九四 六八	九四 六八	—	二五三 一四七	二五三 一四七	—	二八三 一四二	二八三 一四二
蕃椒	正	—	一、八八二 五六五	一、八八二 五六五	—	一、三三六 二五九	一、三三六 二五九	—	二、六五〇 四二五	二、六五〇 四二五	—	一、七六二 四四五	一、七六二 四四五
玉蜀黍	〃	—	一六六、五〇〇 六、二九九	一六六、五〇〇 六、二九九	—	一七三、九四三 五、五三六	一七三、九四三 五、五三六	—	一二〇、一七五 二、九六七	一二〇、一七五 二、九六七	—	四四、〇五二 八九〇	四四、〇五三 八九〇
肉荳蔲 花	風	一、五八九 七〇〇	二、八三一 一、一三九	四、四二〇 一、八三九	一、四六二 四九二	二、七〇四 八六二	四、一六六 一、三五四	一、四二一 三二二	二、八一七 五九六	四、二三八 九一八	八一六 一九二	三、二一三 七二六	四、〇二九 九一八
肉荳蔲 外皮	正	二四七 三六七	四二一 五四三	六六八 九一〇	一八六 一七〇	四七〇 三八八	六五六 五五八	二一七 一六一	四三九 三〇〇	六五六 四六一	一四三 一一五	五〇六 三六六	六四八 四八二
パチュリー葉(香料)	〃	—	六三八 一六〇	六三八 一六〇	—	四三五 一〇九	四三五 一〇九	—	一七五 四四	一七五 四四	—	一〇八 二〇四	一〇八 二〇四
胡椒	〃	一三九 八五	三一、八二四 一九、八三九	三一、九六三 一九、九二四	一一九 四六	三五、七三四 一六、二二一	三五、八五三 一六、二六七	一四五 四九	四四、一八二 一三、三九〇	四四、三二七 一三、四三九	九八 三〇	四八、三九七 一五、四一四	四八、四九五 一五、四四四
油椰子 パームオイル	〃	六一、三八七 一三、〇八四	—	六一、三八七 一三、〇八四	八四、九七三 一一、八四四	—	八四、九七三 一一、八四四	一二六、二六四 一〇、六九七	—	一二六、二六四 一〇、六九七	三一、二六二 八、七一七	—	三一、二六二 八、七一七
油椰子 パーム仁	〃	二、一八八 一、〇九二	—	二、一八八 一、〇九二	一七、八八七 一、一九二	—	一七、八八七 一、一九二	二三、一〇〇 一、一三九	—	二三、一〇〇 一、一三九	二五、〇六八 九六九	—	二五、〇六八 九六九
檳榔子	〃	—	三九、一八五 五、八三一	三九、一八五 五、八三一	—	三九、七六三 五、三三三	三九、七六三 五、三三三	—	四〇、〇四二 四、八三〇	四〇、〇四二 四、八三〇	—	四二、八四〇 四、二三四	四二、八四〇 四、二三四
米 籾及玄米	風	—	一六、三五二 一、九四五	一六、三五二 一、九四五	—	八、八七六 七六七	八、八七六 七六七	—	一四、〇三九 九七一	一四、〇三九 九七一	—	一三、〇七七 九一九	一三、〇七七 九一九
米 挽米	〃	—	二六四 三三	二六四 三三	—	四一五 一六	四一五 一六	—	六九 三	六九 三	—	三一 一	三一 一
米 粉	〃	—	二、八三八 三一五	二、八三八 三一五	—	一八、八〇二 三五二	一八、八〇二 三五二	—	三、一七〇 一五四	三、一七〇 一五四	—	一五、九九五 一八五	一五、九九五 一八五
其他穀物	〃	—	二〇二 三〇	二〇二 三〇	—	四二九 二五	四二九 二五	—	一九九 三〇	一九九 三〇	—	一一三 一二	一一三 一二
サゴ椰子	〃	—	四五、六九九 一、七九四	四五、六九九 一、七九四	—	五三、九三八 二、二四二	五三、九三八 二、二四二	—	三四、〇一六 一、六七〇	三四、〇一六 一、六七〇	—	三一、〇四一 一、〇四五	三一、〇四一 一、〇四五
胡麻	正	—	六、七三四 五一八	六、七三四 五一八	—	五、五五三 五一〇	五、五五三 五一〇	—	三、一四四 二七五	三、一四四 二七五	—	三、三四三 二三九	三、三四三 二三九
砂糖	〃	一、八一六、九九八 一三七、七六六	二五、一六一 一、五七四	一、八四二、一五九 一三九、三四〇	一、八五五、二九二 九八、六六一	三、〇五一 五九四	一、八六七、三四三 九九、二五五	一、三六一、五六九 六一、六九三	三、四七八 四三四	一、三七四、〇四七 六二、一二七	一、三七二、一二六 四五、三八三	二、八六一 七九	一、三七三、九八七 四五、四六二
煙草 葉	〃	三五、四七〇 四四、七三三	—	三五、四七〇 四四、七三三	三三、〇三三 三九、〇三三	—	三三、〇三三 三九、〇三三	二四、二八六 二七、四五三	—	二四、二八六 二七、四五三	二三、九四〇 三一、七八三	—	二三、九四〇 三一、七八三
煙草 クロソック	〃	九、八一八 一、二二九	三五、七〇八 四、四三五	四五、五二六 五、六六四	六、九〇九 一、二五三	三四、二七九 六、二五三	四一、一八八 七、五〇六	二、五五三 四四八	三三、三六五 三、九二五	三五、九一八 四、三七三	五、八〇九 一、三八四	一四、六七五 三、四九八	二〇、四八四 四、八八二
煙草 切	〃	—	五三九 六四〇	五三九 六四〇	—	二八九 二六五	二八九 二六五	—	二三一 一五八	二三一 一五八	—	二四〇 一五六	二四〇 一五六
テンカワン實	風	?	?	?	?	?	?	?	?	?	—	一三 一	一三 一
茶	正	六三、八三九 四八、七七二	一四、九〇三 一一、四〇八	七八、七四二 六〇、一八〇	六六、三三九 二七、四〇四	一三、四二四 五、一四四	七八、七六三 三三、五四八	六〇、〇七六 三三、〇四四	一一、七九八 四、三一九	七一、八七四 二六、三六三	五三、四六一 三六、六七一	一一、七七九 八、二二八	六四、二四〇 四四、八九九
植物纖維(別掲以外)	風	—	九五四 六二	九五四 六二	—	一六八 五	一六八 五	—	六六 八	六六 八	—	三一〇 八	三一〇 八
果物	正	?	?	?	?	?	?	?	?	?	—	七、四六五 四三三	七、四六五 四三三
バニラ	〃	?	?	?	?	?	?	?	?	?	三 七	二七 四三	三〇 五〇
計		二、三四一、八四六 三四二、〇八五	一、一三七、三〇七 一六四、五七八	三、五二九、一五三 五〇六、六六三	二、四三六、七九五 二四七、〇〇八	一、三四四、一三一 一三七、八七四	三、七八〇、九二六 三八四、八八二	一、九六〇、〇九二 一八一、〇〇七	一、二六五、二三九 一三五、二九七	三、二二五、三三一 三一六、三〇四	一、九八五、一八四 二一〇、七八六	一、一四八、三三三 一二五、二九二	三、一三三、五〇〇 三三六、〇八〇

第一表（一二三頁參照）

品名		一九三一年 農園農業	一九三一年 土人農業	一九三一年 計	一九三二年 農園農業	一九三二年 土人農業	一九三二年 計	一九三三年 農園農業	一九三三年 土人農業	一九三三年 計	一九三四年 農園農業	一九三四年 土人農業	一九三四年 計
馬鈴薯	風	— —	三、六三九 五五〇	三、六三九 五五〇	— —	四、九五四 五五六	四、九五四 五五六	— —	三、二八一 二六五	三、二八一 二六五	— —	二、〇一九 一四六	二、〇一九 一四六
揮發性油	正	三五〇 八六五	七一四 一、五四〇	一、〇六四 二、四〇五	四三三 八一三	七五一 一、六一五	一、一八四 二、四二八	六九二 一、一二六	一、〇九四 一、九九八	一、七八六 三、一二四	八四四 八二一	一、二七三 一、四八四	二、一一七 二、三〇五
落花生	〃	— —	一三、四六五 一、五四〇	一三、四六五 一、五四〇	— —	一五、三三四 一、八九八	一五、三三四 一、八九八	— —	一九、六三七 一、七〇五	一九、六三七 一、七〇五	— —	一〇、三三〇 七四五	一〇、三三〇 七四五
落花生油	〃	— —	二、一七八 七五九	二、一七八 七五九	— —	四、二九四 一、一二六	四、二九四 一、一二六	— —	五、二七三 一、〇四八	五、二七三 一、〇四八	— —	四、五一五 七二一	四、五一五 七二一
アガヴ纖維	〃	六九、九七四 一三、四三一	— —	六九、九七四 一三、四三一	九〇、五八八 八、一六一	— —	九〇、五八八 八、一六一	九四、八九八 八、五五七	— —	九四、八九八 八、五五七	六九、六七三 五、八二一	— —	六九、六七三 五、八二一
ベンゾウ	〃	?	?	?	?	?	?	?	?	?	— —	一、九四七 六五五	一、九四七 六五五
カカオ	〃	一、三〇〇 一、二四四	一〇六 七〇	一、四〇六 一、三一四	一、四四九 九四九	一〇二 四九	一、五五一 九九八	一、四三三 七三六	三五 四	一、四六八 七四〇	一、六〇〇 三六二	四九三 一〇八	二、〇九三 四七〇
護謨	〃	一六八、六八三 六三、五四六	九〇、一九二 一六、二九七	二五八、八七五 七九、八四三	一四九、七七〇 二七、七四六	六一、四四七 四、八〇一	二一一、二一七 三二、五四七	一六五、八九七 二五、三六三	一二五、五七六 一〇、八七一	二九一、四七三 三六、二三四	一九四、一九〇 五六、三八二	一八五、八八七 三〇、五五五	三八〇、〇七七 八六、九三七
ラテックス	〃	一〇、五七八 一、四四八	— —	一〇、五七八 一、四四八	九、八〇〇 六二一	— —	九、八〇〇 六二一	一四、九八一 七九七	— —	一四、九八一 七九七	五、四一五 一、二七七	— —	五、四一五 一、二七七
フイカス護謨	〃	— —	— —	— —	— —	五 一	五 一	— —	三 一	三 一	— —	五 一	五 一
コカ葉	〃	二八七 一三九	— —	二八七 一三九	二〇九 九四	— —	二〇九 九四	一六一 七三	— —	一六一 七三	一〇五 四七	— —	一〇五 四七
華澄果	〃	— —	九 七五	九 七五	— —	九七 七一	九七 七一	— —	一三六 九二	一三六 九二	— —	六〇 四三	六〇 四三
タピオカ產物　ガプレク	〃	— —	一九、二四四 四八三	一九、二四四 四八三	— —	四〇、二八五 六二八	四〇、二八五 六二八	— —	二九、六六四 四六二	二九、六六四 四六二	— —	二五、三五三 三八八	二五、三五三 三八八
ガプレク粉	〃	— —	五三、二七〇 一、四七一	五三、二七〇 一、四七一	— —	八一、二三五 一、四八四	八一、二三五 一、四八四	— —	一七、八六〇 三〇六	一七、八六〇 三〇六	— —	六、九七五 一一〇	六、九七五 一一〇
タピオカ粉	〃	二四、〇四四 一、八六五	七六、五三二 五、九三五	一〇〇、五七六 七、八〇〇	三二、三五四 一、九七一	五五、七二七 三、三九七	八八、〇八一 五、三六八	二五、四六九 一、五三三	八一、四七三 四、八七〇	一〇六、九四二 六、四〇三	二一、〇三七 一、一四九	七一、九三五 三、九三〇	九二、九七二 五、〇七九
タピオカ片	〃	— —	五、一一四 六一七	五、一一四 六一七	一三〇 一一	五、一二五 四四三	五、二五五 四五四	— —	六、七四一 五四三	六、七四一 五四三	五、六九六 四三八	二九四 二二	五、九九〇 四六〇
〃眞珠	〃	— —	一四、六六三 一、六七六	一四、六六三 一、六七六	一四四 一三	一〇、九八〇 九四〇	一一、一二四 九五三	— —	一〇、四九八 八五三	一〇、四九八 八五三	七、三四三 六〇〇	六、一四一 四九七	一三、四八四 一、〇九七
タピオカ滓	風	— —	一、二五七 三一	一、二五七 三一	— —	五八六 九	五八六 九	— —	四二一 六	四二一 六	— —	六三 七	六三 七
古々椰子物產　コプラ滓	正	— —	五三、一一九 二、八九二	五三、一一九 二、八九二	— —	五八、六九七 二、四七五	五八、六九七 二、四七五	— —	六六、二七三 二、三三八	六六、二七三 二、三三八	— —	七二、二七〇 一、四一九	七二、二七〇 一、四一九
コプラ	〃	二〇、五八二 二、七七四	三三九、五八九 四五、七七六	三六〇、一七一 四八、五五〇	二七、三二一 二、四〇七	四五二、六三九 三九、八九二	四七九、九六〇 四二、二九九	二九、六五〇 二、三三八	四五八、三一四 三六、一五六	四八七、九六四 三八、四九四	二七、三五三 一、一〇九	三九〇、一一一 一五、七五一	四一七、四六四 一六、八六〇
椰子油	〃	— —	四、三七二 一、二八四	四、三七二 一、二八四	— —	一六、三〇四 二、九七七	一六、三〇四 二、九七七	— —	八、五二八 一、三九三	八、五二八 一、三九三	— —	二、五九三 二五四	二、五九三 二五四
ココ椰子	〃	— —	四三 五二	四三 五二	— —	四二三 五九三	四二三 五九三	— —	二 一	二 一	— —	三 一	三 一
トバ根	風	?	?	?	?	?	?	?	?	?	— —	一三四 三八	一三四 三八
蓖麻子	正	— —	五、四〇四 六〇六	五、四〇四 六〇六	— —	五、九八九 五九九	五、九八九 五九九	— —	七、六一五 五四四	七、六一五 五四四	— —	五、九八一 三三三	五、九八一 三三三
蓖麻子油	〃	— —	二 一	二 一	— —	一 一	一 一	— —	一 一	一 一	— —	一三 七	一三 七
ガムビル	風	三、二二六 八一〇	二、五七一 六四六	五、七九七 一、四五六	三、二七三 九六〇	一、九五一 五七三	五、二二三 一、五三三	三、三六八 七五二	二、一三八 四七八	五、五〇六 一、二三〇	三、二九六 六五三	二、六六四 五二八	五、九六〇 一、一八〇
グタペルチャ	正	一〇〇 五七七	— —	一〇〇 五七七	九〇 四八七	— —	九〇 四八七	三五 一五〇	— —	三五 一五〇	九四 二三三	— —	九四 二三三
ゲムッ纖維	〃	— —	一一九 四一	一一九 四一	— —	一五八 四五	一五八 四五	— —	一五一 三八	一五一 三八	— —	二五七 六四	二五七 六四
蔬菜	風	— —	六、〇八六 六二〇	六、〇八六 六二〇	— —	三、四七六 三四九	三、四七六 三四九	— —	五、八七七 四七四	五、八七七 四七四	— —	六、二〇四 五四四	六、二〇四 五四四
蒟蒻	〃	?	?	?	?	?	?	?	?	?	— —	五五〇 七一	五五〇 七一
肉桂	〃	— —	二、五八五 五五〇	二、五八五 五五〇	— —	三、〇三四 五五二	三、〇三四 五五二	— —	三、三八六 五九七	三、三八六 五九七	— —	三、七三八 六六一	三、七三八 六六一
カポック　棉花	風	一、九四八 九五三	一九、〇七七 九、一六八	二一、〇二五 一〇、一二一	一、七六三 七九一	一七、四三〇 七、二二四	一九、一九三 八、〇一五	一、七七五 五八六	二〇、八六八 六、八六五	二二、六四三 七、四五一	二、三六二 六九三	一八、六六八 五、三三八	二一、〇三〇 六、〇三一
種子	正	三、六四一 一二八	一二、三二〇 四三一	一五、九六一 五五九	三、三〇七 一〇八	一三、六六五 四三八	一六、九七二 五四六	三、三一八 九〇	一四、四五九 三八五	一七、七七七 四七五	四、二八三 七一	二一、八〇五 三六二	二六、〇八八 四三三
種子油	〃	— —	二、五七七 四九八	二、五七七 四九八	— —	二、一六七 二九六	二、一六七 二九六	— —	二、四二三 三一〇	二、四二三 三一〇	— —	二、七五七 二三〇	二、七五七 二三〇
油滓	〃	— —	三、四八九 六七五	三、四八九 六七五	— —	二、九九九 三六〇	二、九九九 三六〇	— —	一六、四四七 三七三	一六、四四七 三七三	— —	一〇、四九〇 一九六	一〇、四九〇 一九六
棉花	〃	— —	一、六八〇 四四七	一、六八〇 四四七	— —	一、二三一 二二〇	一、二三一 二二〇	— —	一、八六六 三四五	一、八六六 三四五	— —	一、五〇五 二九六	一、五〇五 二九六
ケミル實	風	?	?	?	?	?	?	?	?	?	— —	一六三 一一	一六三 一一
規那皮	正	六、〇三六 五、七七八	— —	六、〇三六 五、七七八	六、九〇五 六、六〇一	— —	六、九〇五 六、六〇一	六、三八六 四、八八〇	— —	六、三八六 四、八八〇	六、四一八 五、〇六一	— —	六、四一八 五、〇六一
規那（キニーネ）	〃	一、四三一 五四	— —	一、四三一 五四	一、三一七 四二	— —	一、三一七 四二	一、四九八 五八	— —	一、四九八 五八	一、三九九 五七	— —	一、三九九 五七
珈琲	〃	二九、三六二 二一、二八一	三八、六二八 二、二四四	六七、九九〇 二三、五二五	四三、〇四八 一三、八六四	六八、三一三 一九、四七四	一一一、三六一 三三、三三八	二二、三三八 八、四三三	四八、六八一 一七、二〇〇	七一、〇一九 二五、六三三	三四、六九〇 九、四二五	四六、三五九 一三、六八一	八一、〇四九 二三、一〇六
クラトック豆	風	— —	四、九三六 二三九	四、九三六 二三九	— —	五、二四一 一九二	五、二四一 一九二	— —	五、二〇五 一三九	五、二〇五 一三九	— —	二、一七〇 六四	二、一七〇 六四
丁香	〃	— —	二四三 二四五	二四三 二四五	— —	九四 六八	九四 六八	— —	二五二 一四七	二五二 一四七	— —	二八三 一四二	二八三 一四二

	胡椒	油	ゲンマイ	ガム	寒天	麩
		パーム油	ソルビット	ペクチン	ゼラチン	膠
		オイル	繊維			粉末
	椒	仁	素	ル	油	子
	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	正	風	正	風	正	風
計	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ニ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ホ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ヘ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ト	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
チ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
リ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ヌ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ル	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ヲ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ワ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
カ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ヨ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
タ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
レ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ソ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ツ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ネ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ナ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ラ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ム	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ウ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ヰ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ノ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
オ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ク	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ヤ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
マ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ケ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
フ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
コ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
エ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
テ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ア	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
サ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
キ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ユ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
メ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ミ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
シ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ヱ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ヒ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
モ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
セ	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ス	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇
ン	二、三五〇	二、三六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇	三、四六〇

	金		銀		金剛石	
	産出高（瓩）	金額（千圓）	産出高（瓩）	金額（千圓）	産出高（カラット）	金額（圓）
一九二九年	三、四二二	五、六三八	六一、九三二	二、六五四	五六九	三六、七〇五
一九三〇年	三、四三五	五、六七九	六五、一四〇	二、〇一七	四四七	二〇、二三一
一九三一年	三、一一三	五、一二八	四五、八一六	一、〇六九	二八七	一八、九六一
一九三二年	二、四三二	四、〇四〇	二六、二〇一	五五七	二六七	一三、七六二
一九三三年	二、四五二	四、〇六八	二六、七六四	五五六	二六七	一六、六九一
一九三四年	二、二三二	三、六五七	二四、〇七五	五三九	一、〇四三	九、九六一

マンガン鑛、アスファルト、硫黄　マンガン鑛及硫黄は爪哇に産し、アスファルトはセレベス島とす。

	生産高（瓲）		
	マンガン	アスファルト	硫黄
一九二九年	二〇、九九七	二五、〇三〇	一、五六〇
一九三〇年	一六、一九七	一二、九〇〇	五、六〇五
一九三一年	一四、四四二	一二、三九四	一、七一七
一九三二年	八、二八七	八五〇	七、五七八
一九三三年	一〇、四〇二	六、七七四	一一、一一六
一九三四年	一一、六三五	六、三二一	一一、一四三

石炭　石炭もスマトラ並にボルネヲの二島に産出するのみとす。

	労働者數（人）			産出高（瓲）			産出量指數
	民營鑛山	官營鑛山	計	民營鑛山	官營鑛山	計	
一九二九年	五、五六〇	九、三九一	一四、九五一	七一七、三一五	一、一四四、四二六	一、八三一、七四一	一〇〇
						一二五	

一九三〇年	五、二九一	一一、八一七	一七、一〇八	六三五、四九九	一、二三五、三二六	一、八七〇、八二五	一〇二
一九三一年	三、九七五	八、四六二	一二、四三七	四九七、三一五	九〇七、〇八九	一、四〇四、四〇四	七七
一九三二年	三、四五〇	五、二五六	八、七〇六	四三四、七四〇	六一五、五六〇	一、〇五〇、三〇〇	五七
一九三三年	三、一一九	四、六七九	七、七九八	四〇九、四九六	六二五、七三五	一、〇三五、二三一	五七
一九三四年	二、七八七	四、三八四	七、一七一	四〇七、七六二	六二三、九七五	一、〇三一、七三七	五六
一九三五年	？	？	？	？	？	一、〇二四、九五九	五六

第三節　林　業　（上篇第二章第二節參照）

蘭領印度の林業は其の豐富なる資源を未だ十分に開發するに至らず。僅かに爪哇の大部と外領諸島の沿海諸地に於て之の開發利用を見るのみなり。

今蘭領印度の官營林地面積並に林產物を見るに左の如し。

一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年						
爪哇	チーク林（千ヘクタール）	七九一	八〇六	八〇一	八一八				
	其他の樹林（〃）	二、二三四	二、〇七五	二、〇九五	二、一九〇				
	伐採量 木材 チーク（千立方米）	二四三	一五九	一七八	一七八				
	伐採量 木材 其他樹（〃）	二六	二五	一七	二五				
	伐採量 木材 板材（〃）	一一三	七二	八六	九二				
	伐採量 薪 チーク（S・M）	八五六	五一八	四四二	四七八				
	伐採量 薪 其他樹（〃）	一五一	一六九	二一〇	二一三				
	伐採量 薪 細木（〃）	一三八	一〇五	一六三	二〇九				
外領	森林面積（千平方粁）	一、二一一	一、二一六	一、二一六	一、二一六				
	伐採量 木材（〃）	六九五	六九六	五三二	五五三				
	伐採量 木材（S・M）	八八二	五四一	三六九	三七四				
	伐採量 薪 炭（噸）	七、九九〇	四、五二六	八、四三八	一〇、六八九				
	伐採量 薪 皮（〃）	三一八	八四〇	三一五	三一三				
	伐採量 薪 竹	五、二九四	六五七	四、七七六	二、〇五三				
	伐採量 木材（千本）	一、二一一	一、二一六	一、二一六	一、二一六				
	伐採量 木 薪 炭（噸）	八八二	六九六	五三二	五五三				
	伐採量 木 薪 木材（S・M）	八〇、四六九	六〇、六五五	四二、二二九	四五、七二七				

備考　右は政府森林を含まず。・Mは Stacked Meter の略。

第四節　牧畜業及漁業　（上篇第二章第二節參照）

牧畜業　家畜の飼育は蘭領印度に廣く行はれ、農業用又は物資輸送の輓用とし土人生活の厚生上重要なる位置を占む。今其の數を見るに左の如し。（單位千頭）

		一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
牛	爪哇	三、六四二	三、七五六	四、一二五	四、〇七九	三、九六五
	外領	九一二	九二六	九〇八	八八三	八六二
	計	四、五五五	四、六八一	五、〇三二	四、九六三	四、八二六
水牛	爪哇	二、一二六	二、二五八	二、一九六	二、一四四	二、一〇一
	外領	一、一五二	一、一三三	一、一五七	一、一四九	一、一一七
	計	三、二七八	三、三九一	三、三五三	三、二九三	三、二一八

馬	爪哇	二四九	二五〇	二四七	二三一	
	外領	四三二	四〇五	四三三	四〇七	
	計	六八一	六五五	六八一	六三八	
豚	爪哇	？	？	一一三	？	
	外領	？	？	八八一	？	
	計	？	？	九九五	？	
山羊	爪哇	？	？	三、四二二	？	
	外領	？	？	六四二	？	
	計	？	？	四、〇六四	？	
羊	爪哇	？	？	一、五八八	？	
	外領	？	？	二一六	？	
	計	？	？	一、八〇四	？	

土人の家畜を飼養するは、家畜は安全なる財産にして且必要に應じ直ちに現金に換へ得るが故にして、家畜の取引は土人生活と密接なる關係を有し其の取引は頗る盛なるものなり。其の取引數次の如し。（單位千頭）

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
馬	二五	二三	三〇
牛	一、八四九	一、九〇〇	二、一五三
水牛	三二四	三九一	四三八
豚	六二	五九	五二
羊及山羊	一、一八八	一、二一三	？
計	三、四四八	三、五八六	？

備考　一九三三年は爪哇ソロ州を含まず

尙參考のために蘭領印度に於ける屠殺數を見るに次の如し。（單位千頭）

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
馬	四	四	三	三	四
牛及水牛	八七六	八三三	七四九	七一四	七二八
豚	四九五	五二一	四六六	三九四	三六〇
計	一、三七六	一、三五九	一、二一九	一、一一一	一、〇九二

漁業　漁業は沿岸遠洋共に頗る未開の域に在り、概ねは、沿岸住民の副業たる域に留まる。專業としては本邦漁船（主に沖繩縣人）の領海外に於ける漁業を主なるものとなす。唯、漁業組合のみは爪哇沿海に數個ありその規模を參考のために一覽するに、

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
組合數	六	六	八	八
資產額（千盾）	二三二	一九八	一九二	一九八
支出（〃）	六五	七九	七一	六三
收入（〃）	六五	七九	七一	六三

第五節　工業（上篇第二章第四節參照）

蘭領印度の工業は、農園工業、歐人經營製造工業、土人工業の三類に大別さる。農園工業とは農產物加工又は精製を目的とせるものにして、製糖工業を其の最たるものとし、製茶工業、護謨工業、規那工業等を主なるものとなすも最近何れも不振に在ること既に述べたる如し。歐人經營製造工業としては、スマトラ島パダンに於けるセメント工業

爪哇バンドン近郊パダララン製紙工業、バタビヤの染塗料工業、ドラム工業、バタビヤ並にスラバヤに於けるビール工業、製菓工業、バタビヤの自動車組立工業、ボイテンブルフのタイヤ工場、ガルー、スラバヤ、チエリボン等に於ける織物工業、其他各地に於ける石鹸工業、鞣皮工業、機械修繕並鐵工業、造船業、製氷工業、清涼飲料工業、ガス工業等あるも、特殊のものを除けば概ね尚小規模のものに過ぎず。然れども近年政府の保護奬勵によりて漸次勃興の機運に在り、特に一九三四年より一九三五年の間に於ける進境は著しきものを見たり。

今蘭領印度工場數を表示するに左の如し。(工場法適用の工場並職場)

工業別	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
機械製作工場	五四	五八	五九	五六	五三	五七
機械修繕工場	一三二	一四五	一六〇	一四七	一四四	一四〇
鐵道會社工場	三五	四一	五一	五三	五五	五三
活動寫眞館、宴會場	二六〇	二八三	二九四	三〇四	三一一	二九六
印刷工場	一五七	一八〇	一九九	二一五	二一八	二二八
窯業工場	一六	一九	一九	二一	二〇	二二
計	二、〇四九	二、二二五	一、九三二	一、九五五	一、九七七	二、二四五
製糖工場	一八八	一八八	一八六	一八五	一八四	一七三
精米工場	六五六	六九四	五一四	五二四	五四〇	八一九
製茶工場	二四一	二五〇	二五五	二六五	二六八	二七〇
珈琲工場	一一四	一二八	一一八	一二四	一二六	一二七
珈琲ゴム工場	二四六	二五六	二五四	二五五	二五四	二五六
ゴム工場	三七五	三七六	三六五	三六五	三六五	三六五
タピオカ工場	一四四	一四九	一二六	一一八	一一八	一一八
纖維工場	二八	二九	二七	二五	二四	二三

其他	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
金剛石研磨工場	五七	五五	八七	九二	九七	九三
發電所變電所	七	八	八	七	七	七
製材工場	二三三	二八五	二七八	二九〇	三〇一	二九九
カポック繰綿工場	一九五	一六九	一六三	一六八	一二二	一六三
珈琲焙工場	五五	五七	五四	六二	六三	七二
清涼飲料工場	九三	一〇一	九五	一〇四	一〇三	九七
油脂工場	一二〇	一三二	一三七	一四六	一五一	一三八
コプラ、落花生、カポック實油	八五	八四	七九	八七	九一	一〇一
パチユリー油、シトロネラ油	一四五	一四六	一三三	一三四	一二八	一二八
製紙工場	二	二	二	二	二	三
排水、揚水等工場	三四七	三七二	四〇〇	四一五	四二七	四一四
煙草工場	三	三	三	三	三	三
紙巻煙草工場	一四	一九	三〇	三一	二五	二六
製氷工場	一六五	一七一	一六一	一六八	一七〇	一六〇
酸素工場	四	四	四	四	三	三
花火工場	三五	三一	三四	三〇	三〇	二九
其他	八三〇	九五〇	一、三五六	一、四三四	一、五二七	一、二〇三
計	五、〇〇〇	五、三八五	五、六五一	五、八三六	五、九三一	五、八八七

土人工業として著名なるは、爪哇に於ける更紗工業を其の最たるものとす。一九三五年に於ても前年に引き續き晒綿布並三巾金巾等の輸入制限並に土人經濟の窮乏により著しく不振を呈したるも尚土人工業の王座を失はず。更紗工業の外、織物工業、製帽業、金銀細工業、角細工業等の土人工業あり。この中特に織物工業は政府の奬勵により一九三四年來著しく勃興の機運に至れり。但し其の生産狀況等は今尚極めて微々たるものに過ぎず。

第六節　動　力

蘭領印度工業不振の重大因子は動力工業即ち電力の普及未だしきと其の價格の不廉なるに在ることを擧げらる。蘭領印度の發電總水力は六千六百萬馬力と稱せらるゝも、其の大部分は尙未開發に屬し、現在の發電馬力は爪哇に於ける六十萬馬力を主とし外領に於ては殆んど見るに足らず。

今一九三四年に於ける發電狀況を見るに次の如くにして、この中爪哇に於ける first installation 九千馬力、final installation 三萬六千馬力は一九三四年に於ける增設とす。

政府の水力發電所數

	發電力（馬力）	
	first installation	final installation
爪哇	七一、三五〇	一一四、〇五〇
九	二、〇〇〇	五、〇〇〇
スマトラ 一	七三、三五〇	一一九、〇五〇
計 一〇		

而して蘭印に於ける電力消費量は次の如し。（單位千キロワット）

	爪哇	外領	計
一九三二年	一九九、二九九	三三、三二一	二三六、六二〇
一九三三年	二〇〇、三〇四	三三、二八四	二三三、五八八
一九三四年	一九五、六五七	三四、三四二	二二九、九九九

第七節　勞　働

勞働狀況を見るに當り、先づ蘭領印度に於ける各種產業從業者數を見るに左の如し。但し本表は一九三〇年蘭印國勢調査の示す所とす。

類別	土人	歐洲人	支那人	其他
	千人	人	人	人
農業	一四、一九三	一八、八〇〇	一四四、八八八	七、〇〇〇
土人農業	一一、九九七	？	三六、一六二	二、五二四
甘蔗園	五二九	四、八三二	一、九三〇	四一
其他栽培園	八二二	七、二二三	三三、六九四	一、六三八
牧畜	二八三	？	？	四七六
漁業	二五八	？	九、八一一	五二三
工業	二、一〇五	四、六七六	九三、九八八	五、〇五八
飮食品、煙草等	五四〇	？	二六、二六一	二、二三四
纖維工業	六七七	？	？	五六二
木竹材工業	四二五	？	二八、八一〇	？
衣服裁縫業	二〇九	？	一四、一九三	一、〇〇九
交通運輸業	二九一	？	一二、七五四	一、七一二
陸運	一五五	一〇、九八五	八、五九四	一、三五九
商業	一、〇九一	五、〇五七	一七一、九七九	一九、〇五四
卸業仲介業	？	一一、四一五	？	？
飮食品、煙草	七二四	四、四三九	三七、二七九	二、〇二二
店舖行商	一四七	？	九二、五八三	五、七八八
織物販賣	？	？	一九、八八二	八、五一八

自由業	一五〇	七、一六一	八四二
官吏	二七五	三、〇三九	四九五
其他	一、九五八	一、九九一	
計	二〇、二八〇	三六、一二六	一、九九一
	八五、三二一	四六九、九三五	三六、一五二

左の如くなるも今日に於ては、其の後の經濟界の大變遷により相當の變化ありたるを察するに難からず。

今蘭印度最大産業たる爪哇製糖業に於ける土人從業員の數を見るに次の如くにして、以て其の不況を知り得べく、又以て一般産業の勞働力需要減退の大勢を察知し得べし。（單位人）

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
土人從業者計	一三一、七〇〇	一三〇、一一四	一一九、四四七	九七、〇五八	五四、九〇九	二八、六三二
常傭人夫	三六、三二〇	三四、六六九	三〇、一二六	二一、七六三	二一、八五〇	七、六〇五
臨時人夫 男	八七、一六八	八七、三二八	八一、六九七	六八、七二二	三八、〇一七	一九、〇六三
臨時人夫 女	八、二一二	八、一一七	七、六二四	六、五七三	四、〇四二	一、九六四
合計數指數	一〇二	一〇〇	九二	七五	四二	二二

備考　指數の基數は一九二八年とす。

尙右に於ける人夫の平均給料を見るに、（單位仙）

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
常傭人夫	八五	八七	八二	八〇	七四
臨時人夫 男	四六	四五	三七	三一	二七
臨時人夫 女	三七	三六	三〇	二五	二二

外領に於ける苦力數も物産界の不振により激減しつゝあり。卽ち左表によりて察知すべし。（單位人）

	爪哇に於て契約せる苦力數	外領に於て再契約せる苦力數	外領移住の契約苦力數
一九二九年	七〇、六一二	一九四、一四六	二六、六七三
一九三〇年	三八、二六八	一九、九八〇	一九、九八〇
一九三一年	三、二〇七	一二三、二四〇	三、四一一
一九三二年	九一二	六六、五九〇	七七九
一九三三年	五、一〇三	二一、五五七	九五九
一九三四年	四、八二二	五、七八六	八六三

備考　右苦力中には土人の外に支那人をも含むものとす。

尙其の給料の大勢資料として、スマトラ東海岸州に於ける農園土人使用人の日給を見るに次の如し。（單位仙）

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
男	六五	六〇	五五	五四
女	五〇	四五	三九	三六

工場使用人の數は次の如し。

		一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
調査工場數		五、三八五	四、〇五二	四、一五九	四、一六六	？
使用人數	歐洲人	三、八八九	四、二三四	四、三二五	四、四二七	？
	土人	一四〇、五〇四	一四一、八六一	一三七、七五四	一四〇、四九八	？
	支那人	八、七三九	八、九二五	八、七三九	九、一一七	？
	計	一五三、一三二	一五五、〇二〇	一五三、一三二	一五四、〇四二	？

次に蘭領印度に於ける登錄求職人員數を見るに左の如し。但し左表は何れも其の前月末に於ける數とす。（單位人）

一九三一年一月—一九三五年一二月

一九三一年一月—一九三五年一二月

月	求職者數	求人者數	就職者數	求職者數指數	就職率(%)
一九三一年一月	四三、九七五	六、四〇一	五、四五〇	一四七	一二・四
二	四三、三六六	六、〇六〇	五、四〇四	一四六	一二・四
三	四三、九〇三	六、四〇五	五、四五四	一四七	一二・四
四	四二、五九一	六、九四〇	五、四五五	一四六	一二・四
五	四一、三二七	六、九〇二	五、四五四	一四五	一二・四
六	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
七	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
八	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
九	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十一	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
一九三二年一月	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
三	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
四	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
五	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
六	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
七	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
八	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
九	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十一	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
一九三三年一月	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
三	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
四	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
五	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
六	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
七	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
八	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
九	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十一	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
一九三四年一月	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
三	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
四	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
五	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
六	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
七	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
八	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
九	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十一	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
一九三五年一月	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
三	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
四	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
五	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
六	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
七	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
八	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
九	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十一	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四

一九三四年一月—一九三五年一二月

月	求職者數	求人者數	就職者數	求職者數指數	就職率(%)
一九三四年一月	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
三	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
四	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
五	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
六	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
七	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
八	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
九	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十一	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
一九三五年一月	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
三	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
四	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
五	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
六	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
七	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
八	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
九	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十一	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四
十二	四一、〇二一	六、八一一	五、四五四	一四五	一二・四

二月											
三月											
四月											
五月											
六月											
七月											
八月											
九月											
十月											
十一月											
十二月											

特に一九三四年の求職狀況の內譯を見るに

		男			女			計		
求職數	歐洲人	六、六二八	一五九	一三・八	一、九六九	四八〇	一三・九	八、五九七	一三九	一三・八
	土人	二五、八七九	一六一	一三・九	二、二七五	四九一	一三・九	二八、一五四	一三九	一三・九
	亞細亞人	二、二四五	一四一	一六・七	四三	五一五	一六・七	二、二八八	一四一	一六・七
求人數	歐洲人	一、三〇九	一七二	一四・四	七五八	五四三	一四・四	二、〇六七	一七二	一四・四
	土人	四、〇六五	一五二	一五・一	一、六〇四	五〇三	一五・一	五、六六九	一五二	一五・一
	亞細亞人	三〇五	一八九	一三・二	八	五四七	一三・二	三一三	一八九	一三・二
就職數	歐洲人	九七一	一八六	一二・四	五五八	五〇五	一二・四	一、五二九	一八六	一二・四
	土人	二、九五〇	一五三	一二・四	九五八	四一七	一二・四	三、九〇八	一五三	一二・四
	亞細亞人	二七二	一八五	一一・一	六	四五〇	一一・一	二七八	一八五	一一・一
			一七一	一三・六		五一一	一三・六		一七一	一三・六
			一二三	一七・八		四八〇	一七・八		一二三	一七・八

年末の失業者	歐洲人	三、一七六	六五三	三、八二九
	土人	一一、一七四	四九七	一一、六七一
	亞細亞人	一、一八四	二一	一、二〇五

勞働力需要の減退は上述せる處によりて明らかなり。而して之等失業者に對する救濟方面を見るに、失業救濟會の失業者交附金は次の如く年々增加の趨勢に在り。

一九三二年	四〇九、〇〇〇盾
一九三三年	九五八、〇〇〇
一九三四年	一、二六六、〇〇〇

第七章　貿易

（註）本章に於ける數量は特に斷りなき限り全て風袋込みとす。

第一節　概況

一、輸出入貿易

蘭領印度の對外貿易は、一九二八年以來漸減の情勢に在り、一九三五年に於ては其の金額に於て一九二八年の二八%に過ぎざるに至れり。就中輸入貿易に於ける減少特に甚だしく卽ち數量に於ても半ばに足らず金額に於ては最盛時たる一九二九年の二五%に過ぎず。輸出貿易に於ても數量の減は大ならざるも金額の減少は著しきものあり一九二八年の二九%に達せず。而して一九三五年の輸出入額を前年に比すれば、輸入額に於ては略々五%減、輸出に在りては六%の減とす。

今貿易狀況を表示するに次の如し。（單位千盾）

	輸入額	輸出額	總額	總額の指數
一九二八年	九八一、八六三	一、五七七、〇二五	二、五五八、八八八	一〇〇
一九二九年	一、〇八八、四〇三	一、四四三、四四七	二、五三一、八五〇	九九
一九三〇年	八六二、九九四	一、一五七、二一七	二、〇二〇、二一一	七九
一九三一年	五六五、一八五	七四七、一六一	一、三一二、三四六	五一
一九三二年	三六八、七五八	五四一、三七五	九一〇、一三三	三六
一九三三年	三一八、一四四	四六七、八九二	七七八、〇三六	三一
一九三四年	二八六、一六三	四八七、三二八	七七三、四九一	三〇
一九三五年	二七三、三七〇	四五〇、七七五	七二四、一四五	二八

備考　政府の輸出入額を含む。金銀並郵便小包を含まず。

斯くて貿易尻は一九三五年に於ても出超に在り、其の金額は前年には及ばざるも一九三三年に比すれば之を凌駕せり。（單位千盾）

	貿易總額	出超額	貿易總額に對する出超額%	出超額指數
一九二八年	二、五八八、八八八	五九五、一六二	二三・三	一〇〇
一九二九年	二、五三一、八五〇	三五五、〇四四	一四・〇	六〇
一九三〇年	二、〇二〇、二一一	二九四、二二三	一四・六	四九
一九三一年	一、三一二、三四六	一八一、九七六	一三・九	三一
一九三二年	九一〇、一三三	一七二、六一七	一八・九	二九
一九三三年	七八六、〇三六	一四九、七四八	一九・一	二五
一九三四年	七七三、四九一	二〇一、一六五	二四・九	三四
一九三五年	七二四、一四五	一七七、四〇五	二四・五	三〇

二、輸入貿易

各年に於ける輸入狀況は次の如し。

	數量（噸）	金額（千盾）
一九二八年	二、九二五、五八四	九八一、八六三
一九二九年	三、四六〇、七二七	一、〇八八、四〇三

輸入貿易に關する重要指數を見るに左の如し。

年月	輸入總量	輸入總額	纖維工業品輸入額 爪哇	纖維工業品輸入額 外領	機械類輸入額	備考
一九二八年	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇	政府輸入を含む。
一九二九年	一〇〇九	一〇八一	七七〇〇	六五〇〇	三四二〇	金銀及郵便小包によるものを除く。
一九三〇年	六七一	三三二	三六四	三三七	二一五	
一九三一年	五四六	二三〇	二四九	二三五	一一五	
一九三二年	四五九	二〇八	二四〇	二二六	一一八	
一九三三年	四五八	二二五	二五〇	二三六	一二一	
一九三四年	五三九	二三八	二六四	二四五	一二四	
一九三五年	六一〇	二五九	二八〇	二六五	一三五	

各年の輸出貿易狀況は左の如し。

三、輸出貿易

年月																								
一九三五年	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
	六一	五五	六二	五〇	五三	五一	五五	五五	七〇	七五	七七	六一	五五	六四	五三	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五四	五三	五二
	二九	二八	二七	二九	二八	二三	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八

月	日	曜	出	入
四	五	土	一二九	一二八
四	六	日	一二九	一二八
四	七	月	一二九	一二八
四	八	火	一二九	一二八
四	九	水	一二九	一二八
四	十	木	一二九	一二八
四	十一	金	一二九	一二八
四	十二	土	一二九	一二八
五	一	日	一二九	一二八
五	二	月	一二九	一二八
五	三	火	一二九	一二八
五	四	水	一二九	一二八
五	五	木	一二九	一二八
五	六	金	一二九	一二八
五	七	土	一二九	一二八
五	八	日	一二九	一二八
五	九	月	一二九	一二八
五	十	火	一二九	一二八
五	十一	水	一二九	一二八
五	十二	木	一二九	一二八
六	一	金	一二九	一二八
六	二	土	一二九	一二八
六	三	日	一二九	一二八
六	四	月	一二九	一二八
六	五	火	一二九	一二八
六	六	水	一二九	一二八
六	七	木	一二九	一二八
六	八	金	一二九	一二八
六	九	土	一二九	一二八
六	十	日	一二九	一二八
六	十一	月	一二九	一二八
六	十二	火	一二九	一二八

月	日	曜	出	入
六	十三	水	一二九	一二八
六	十四	木	一二九	一二八
六	十五	金	一二九	一二八
六	十六	土	一二九	一二八
六	十七	日	一二九	一二八
六	十八	月	一二九	一二八
六	十九	火	一二九	一二八
六	二十	水	一二九	一二八
六	二十一	木	一二九	一二八
六	二十二	金	一二九	一二八
六	二十三	土	一二九	一二八
六	二十四	日	一二九	一二八
六	二十五	月	一二九	一二八
六	二十六	火	一二九	一二八
六	二十七	水	一二九	一二八
六	二十八	木	一二九	一二八
六	二十九	金	一二九	一二八
六	三十	土	一二九	一二八
七	一	日	一二九	一二八
七	二	月	一二九	一二八
七	三	火	一二九	一二八
七	四	水	一二九	一二八
七	五	木	一二九	一二八
七	六	金	一二九	一二八
七	七	土	一二九	一二八
七	八	日	一二九	一二八
七	九	月	一二九	一二八
七	十	火	一二九	一二八
七	十一	水	一二九	一二八
七	十二	木	一二九	一二八
七	十三	金	一二九	一二八
七	十四	土	一二九	一二八
七	十五	日	一二九	一二八
七	十六	月	一二九	一二八
七	十七	火	一二九	一二八
七	十八	水	一二九	一二八
七	十九	木	一二九	一二八
七	二十	金	一二九	一二八
七	二十一	土	一二九	一二八
七	二十二	日	一二九	一二八
七	二十三	月	一二九	一二八
七	二十四	火	一二九	一二八
七	二十五	水	一二九	一二八
七	二十六	木	一二九	一二八
七	二十七	金	一二九	一二八
七	二十八	土	一二九	一二八
七	二十九	日	一二九	一二八
七	三十	月	一二九	一二八
七	三十一	火	一二九	一二八
八	一	水	一二九	一二八
八	二	木	一二九	一二八
八	三	金	一二九	一二八
八	四	土	一二九	一二八
八	五	日	一二九	一二八
八	六	月	一二九	一二八
八	七	火	一二九	一二八
八	八	水	一二九	一二八
八	九	木	一二九	一二八
八	十	金	一二九	一二八
八	十一	土	一二九	一二八
八	十二	日	一二九	一二八
八	十三	月	一二九	一二八
八	十四	火	一二九	一二八
八	十五	水	一二九	一二八
八	十六	木	一二九	一二八
八	十七	金	一二九	一二八
八	十八	土	一二九	一二八
八	十九	日	一二九	一二八
八	二十	月	一二九	一二八
八	二十一	火	一二九	一二八
八	二十二	水	一二九	一二八
八	二十三	木	一二九	一二八
八	二十四	金	一二九	一二八
八	二十五	土	一二九	一二八
八	二十六	日	一二九	一二八
八	二十七	月	一二九	一二八
八	二十八	火	一二九	一二八
八	二十九	水	一二九	一二八
八	三十	木	一二九	一二八
八	三十一	金	一二九	一二八
九	一	土	一二九	一二八
九	二	日	一二九	一二八
九	三	月	一二九	一二八
九	四	火	一二九	一二八
九	五	水	一二九	一二八
九	六	木	一二九	一二八
九	七	金	一二九	一二八
九	八	土	一二九	一二八
九	九	日	一二九	一二八
九	十	月	一二九	一二八
九	十一	火	一二九	一二八
九	十二	水	一二九	一二八
九	十三	木	一二九	一二八
九	十四	金	一二九	一二八
九	十五	土	一二九	一二八
九	十六	日	一二九	一二八
九	十七	月	一二九	一二八
九	十八	火	一二九	一二八
九	十九	水	一二九	一二八
九	二十	木	一二九	一二八
九	二十一	金	一二九	一二八
九	二十二	土	一二九	一二八
九	二十三	日	一二九	一二八
九	二十四	月	一二九	一二八
九	二十五	火	一二九	一二八
九	二十六	水	一二九	一二八
九	二十七	木	一二九	一二八
九	二十八	金	一二九	一二八
九	二十九	土	一二九	一二八
九	三十	日	一二九	一二八
九	三十一	月	一二九	一二八
十	一	火	一二九	一二八
十	二	水	一二九	一二八
十	三	木	一二九	一二八
十	四	金	一二九	一二八
十	五	土	一二九	一二八
十	六	日	一二九	一二八
十	七	月	一二九	一二八
十	八	火	一二九	一二八
十	九	水	一二九	一二八
十	十	木	一二九	一二八
十	十一	金	一二九	一二八
十	十二	土	一二九	一二八
十	十三	日	一二九	一二八
十	十四	月	一二九	一二八
十	十五	火	一二九	一二八
十	十六	水	一二九	一二八
十	十七	木	一二九	一二八
十	十八	金	一二九	一二八
十	十九	土	一二九	一二八
十	二十	日	一二九	一二八
十	二十一	月	一二九	一二八
十	二十二	火	一二九	一二八
十	二十三	水	一二九	一二八
十	二十四	木	一二九	一二八
十	二十五	金	一二九	一二八
十	二十六	土	一二九	一二八
十	二十七	日	一二九	一二八
十	二十八	月	一二九	一二八
十	二十九	火	一二九	一二八
十	三十	水	一二九	一二八
十	三十一	木	一二九	一二八
十一	一	金	一二九	一二八
十一	二	土	一二九	一二八
十一	三	日	一二九	一二八
十一	四	月	一二九	一二八
十一	五	火	一二九	一二八
十一	六	水	一二九	一二八
十一	七	木	一二九	一二八
十一	八	金	一二九	一二八
十一	九	土	一二九	一二八
十一	十	日	一二九	一二八
十一	十一	月	一二九	一二八
十一	十二	火	一二九	一二八
十一	十三	水	一二九	一二八
十一	十四	木	一二九	一二八
十一	十五	金	一二九	一二八
十一	十六	土	一二九	一二八
十一	十七	日	一二九	一二八
十一	十八	月	一二九	一二八
十一	十九	火	一二九	一二八
十一	二十	水	一二九	一二八
十一	二十一	木	一二九	一二八
十一	二十二	金	一二九	一二八
十一	二十三	土	一二九	一二八
十一	二十四	日	一二九	一二八
十一	二十五	月	一二九	一二八
十一	二十六	火	一二九	一二八
十一	二十七	水	一二九	一二八
十一	二十八	木	一二九	一二八
十一	二十九	金	一二九	一二八
十一	三十	土	一二九	一二八
十二	一	日	一二九	一二八
十二	二	月	一二九	一二八
十二	三	火	一二九	一二八
十二	四	水	一二九	一二八
十二	五	木	一二九	一二八
十二	六	金	一二九	一二八
十二	七	土	一二九	一二八
十二	八	日	一二九	一二八
十二	九	月	一二九	一二八
十二	十	火	一二九	一二八
十二	十一	水	一二九	一二八
十二	十二	木	一二九	一二八
十二	十三	金	一二九	一二八
十二	十四	土	一二九	一二八
十二	十五	日	一二九	一二八
十二	十六	月	一二九	一二八
十二	十七	火	一二九	一二八
十二	十八	水	一二九	一二八
十二	十九	木	一二九	一二八
十二	二十	金	一二九	一二八
十二	二十一	土	一二九	一二八
十二	二十二	日	一二九	一二八
十二	二十三	月	一二九	一二八
十二	二十四	火	一二九	一二八
十二	二十五	水	一二九	一二八
十二	二十六	木	一二九	一二八
十二	二十七	金	一二九	一二八
十二	二十八	土	一二九	一二八
十二	二十九	日	一二九	一二八
十二	三十	月	一二九	一二八
十二	三十一	火	一二九	一二八

金一朱銀（千両）

一文＝四枚，一〇一文＝一〇一枚

一分＝四朱，一〇一分＝一〇一朱

一朱＝四百文，一〇一朱＝一〇一〇〇文

一分銀＝四匁，一〇一分銀＝一〇一匁

一匁＝一〇銀，一〇一匁＝一〇一〇銀

一銀＝四十匁，一〇一銀＝一〇一〇匁

一両＝六十匁，一〇一両＝一〇一〇匁

銭（通）

一貫＝一〇〇〇文

一両＝六貫五〇〇文

一両＝四分

一分＝四朱

一朱＝四百文

一分銀＝四匁

一匁＝一〇銀

一銀＝四十匁

砂糖輸出量　㌔

一〇〇一

茶輸出量　㌔

一〇〇一

陶器輸出量

一〇〇一

輸出総額　砂糖

一〇〇一

輸出総額　重量

一〇〇一

輸出貿易に關する重要指數を擧ぐれば左の如し。

備考　政府輸入を含み，金銀，郵便小包，旅客具を不含。

一九三五年，五〇一

一九三四年，一〇〇五

一九三三年，九八四

一九三二年，九八〇

一九三一年，九三〇

一九三〇年，九一〇

一九二九年，一〇一八

一九二八年，一〇一二

類別	動植物性食料品	動植物製品	植物製品	動物製品	鑛産化學製品	木材木製品	硝子及同製品	窯業製品	皮革、皮革製品	纖維工業製品
一九三一年	一、〇四四、七四九	二、七四八、四〇三	一、一五九、五五五	三一四、七三四、九四〇	二二四、五〇九、〇八〇	四、六〇、六六三、九八	一、四〇五、七二〇、二八	四、七〇、七五、二八	一、四三七、四三〇、四三	一一、四二七、六三〇、九八
一九三二年	一、一七〇、五八七、〇五	二、六〇、七九、〇四〇	一、三五六、二〇八、三六	三一一、九〇、九六〇、〇二	二三五、四八、五三、〇一	三、三二、三九、五三、二一	一、三三、五五、三九、五五	三、三二、三九、五三、五五	一、三三、一四一、四一	一一、三二三、四一、七七
一九三三年	一、一七〇、五八七、〇五	二、六〇、七九、〇四〇	一、三五六、二〇八、三六	三一一、九〇、九六〇、〇二	二三五、四八、五三、〇一	三、三二、三九、五三、二一	一、三三、五五、三九、五五	三、三二、三九、五三、五五	一、三三、一四一、四一	一一、三二三、四一、七七
一九三四年	六、八九、四〇、二五、五六、五九	一、一二、二八、〇二、二三五、九五五	五、九、八、〇二、二八、二一	三一〇、九〇、九六〇、〇二	二三五、四八、五三、〇一	三、三二、三九、五三、二一	一、三三、五五、三九、五五	三、三二、三九、五三、五五	一、三三、一四一、四一	一一、三二三、四一、七七
一九三五年	一、一七〇、五八七、〇五	二、六〇、七九、〇四〇	一、三五六、二〇八、三六	三一一、九〇、九六〇、〇二	二三五、四八、五三、〇一	三、三二、三九、五三、二一	一、三三、五五、三九、五五	三、三二、三九、五三、五五	一、三三、一四一、四一	一一、三二三、四一、七七

單位千盾迄

一四六

第二節　輸入貿易

一、品種別輸入狀況

備考　一、一九三一年は政府輸入を含まず。一九三二年以降は之を含む。
二、旅客具、郵便小包によるもの含まず。

二、仕出國別輸入狀況

主要仕出國別に見たる狀況は次の如し。（單位同上）

英國	新嘉坡	和蘭領印度	日本	國別
一九三〇年	一、三〇〇、一一五、五五四、九	一、三六〇、二八三、三九二、五八	一、一三〇、六〇一、二八七、九二	計
一九三一年	三〇、九〇九、八五八、一五	一、一〇、九〇八、二七九、五二	一、一二〇、九六八、二七四、二一	計
一九三二年	三〇、七〇八、三四、二七九、五五	一、一三、五二八、四四、〇二四、九七	一、一三〇、六〇一、二八七、九二	計
一九三三年	一、一七、九六、三四、二七九、五二	一、一三、九六、三四、二七九、五二	一、一三、九六、三四、二七九、五二	計
一九三四年	一、一七、九六、三四、二七九、五二	一、一三、九六、三四、二七九、五二	一、一三、九六、三四、二七九、五二	計

類別	金屬及紙製品	車輛、船舶	機械器具	其他	計
一九三一年	一、一五九、五九、八七五九、六九	一一、六九、七九、三一、三七三四	三三、六六、六三、三〇三〇	一一、五四、五二、三〇九〇、三一	二、五一、四九五、〇二〇、〇六〇七八
一九三二年	一、一五八、二八、二七二四、〇四	一一、〇二、三五、九四、八四	三三、〇二、九九、八一	一、七、六二、八五、二五、九四、一四	一、三七、六二、八五、二五、九四、一四
一九三三年	一、一五、〇八、五二、〇一	一一、〇六、〇二、一五、九一	一二、八五、九一、四三	一、六、九二、八九、四四、七三	一、三六、九二、八九、四四、七三
一九三四年	一、一六四、〇四、〇四二七一	一一、〇〇、四六、四九	一三、〇二、〇三一、五四	一、四、八四、二八、三七三三	一、五、九八、四二、〇二九、〇六
一九三五年	一、一六、九二、六五三、六三二	二、〇〇、九二、〇七、八二、四三、三六	一三三、一五、七一、三三	一、三、七三、八九、二一、五〇	二、六、七三、三七、三四、七六、〇七

獨逸	三四三、九四〇	八六、〇二五	一六〇、九六七	五一、九五三	一七七、七〇一	二八、三七四	八四、六一七	二四、二六四	九九、五七一	二一、二五八	九二、一二四	二二、〇二四
米國	二三四、六一五	九〇、三六三	一八三、二七二	五一、三八〇	一〇八、一七二	二四、五五八	八九、九五二	一五、五五五	一〇八、二四五	一七、六七〇	八七、二六一	一八、八五九
英領印度	三三五、一〇一	六三、三〇六	二一八、九三四	三一、九六〇	一四三、四五八	一七、四〇九	一二八、二八四	一一、一九九	一〇〇、六〇二	七、八七九	一三三、七五五	一九、二八八
濠洲	一〇一、六三五	二五、三八二	一一四、五七六	一七、七七三	一一九、〇六七	一二、一二六	九六、九〇六	一〇、〇九八	一一八、九五三	九、五七四	一一〇、九五二	九、〇三四
白耳義	九九、五五六	一三、九八〇	五三、六七五	八、七三一	四七、〇〇二	五、七二八	四九、四六一	五、五〇二	三六、六二二	三、九五四	五八、四九二	五、九四八
支那	四二、九一二	一八、一九六	三〇、二五三	一四、一九一	一五、七二七	六、〇一〇	二一、四四三	六、六一五	二二、三九二	六、六七九	一七、九〇六	五、〇八八
彼南	六六、四四六	一四、二二二	五九、四一四	九、九三八	五七、〇七七	七、二三三	五〇、三三三	四、六八〇	五三、五一二	四、一九〇	四七、六五八	三、六九八
香港	一九、五六八	一〇、二二四	二一、七九〇	一〇、一七九	二〇、二四七	七、七六三	二一、二六〇	六、〇四三	一八、七四一	四、八六四	一三、九二五	三、三二七
佛領印度支那	一一七、〇〇三	一七、二三八	一〇四、四一六	一〇、二六八	六六、七八二	五、六七五	七三、二二二	三、六九五	三八、〇七七	一、四一九	七九、二四五	三、三一四
佛蘭西	一〇、三六五	九、〇九一	八、一六五	六、二九三	四、五六五	三、六七九	四、〇七三	三、二八四	三、三九六	二、六八四	八、二九四	三、一五二
シャム	七三、一九〇	一〇、六〇〇	一四〇、四五〇	一二、七六七	一〇一、七四六	八、〇四七	五七、七八八	三、一一八	四三、〇五三	一、六三六	五一、〇二七	二、〇二五
計(其他共)	二、八六五、九二三	八六二、九九四	二、二二一、五六九	五六五、一八五	一、七二五、二二二	三六八、七五八	一、六六九、七四二	三一八、一四四	一、五九〇、四七四	二八六、一六三	一、六四〇、〇〇一	二七四、三七三

備考　政府輸入を含み、金銀、小包郵便、旅客具を含まず。

右輸入に於ける主要國の%を見るに、

		一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
數量	日本	一〇・六	一三・五	一七・六	二二・〇	一九・三	一七・二
	和蘭	一〇・五	九・四	七・二	五・五	五・八	六・一
	新嘉坡	一二・九	一二・六	一四・九	一四・七	一六・九	一七・五
	英國	八・九	五・〇	六・〇	四・五	四・一	四・三
	獨逸	八・五	七・三	四・五	五・一	六・三	五・六
	米國	八・二	八・三	六・三	五・四	六・八	五・三
	英領印度	一一・七	九・九	八・三	七・七	六・三	八・二
	其他	二八・七	三四・〇	三五・三	三五・一	三四・五	三五・八
金額	日本	一一・六	一六・四	二一・二	三一・一	三二・五	二九・九
	和蘭	一八・九	一七・四	一五・七	一二・四	一三・三	一三・三
	新嘉坡	一〇・六	一〇・九	一二・五	一〇・八	一一・三	一一・〇
	英國	一〇・二	七・八	九・六	九・六	八・二	八・三
	獨逸	一〇・〇	九・二	七・七	七・六	七・八	八・〇
	米國	一〇・五	九・一	六・七	四・九	六・二	六・九
	英領印度	七・三	五・七	四・七	三・五	二・八	三・四
	其他	二〇・九	二三・五	二一・九	二〇・一	一七・九	一九・二

三、仕出地方別輸入概況

單位　千噸　千盾

	一九三〇年		一九三一年		一九三二年		一九三三年		一九三四年		一九三五年	
歐羅巴洲	九七九、一一九	三九三、九二六	五八七、七〇一	二三〇、六四五	三九〇、二一八	一四四、八三四	三三二、四七四	一一二、六七二	三二三、六四九	九七、〇七三	三六七、一五七	九八、四九八

亞米利加洲	二三八、七〇二 九四、一一三	一八五、八九八 五三、八一五	一一三、九五三 二五、六〇一	一七、九八三 一九、四二六	一一七、九八三 一九、四二六	九八、三五五 二一、〇一六	
亞細亞洲	一、四八〇、七三七 三四二、六一三	一、二七一、四七六 二五五、八六三	一、〇五七、一七四 一八二、八三九	一、一〇六、一三四 一七五、〇二五	一五五、六七一 一五六、一七四	九九〇、八一五 一四一、六〇四	
濠洲	一〇一、七四七 二五、三九〇	一一四、八五四 一七、七九五	一一九、二九六 一二、一四九	九七、三八七 一〇、一五五	一一九、一〇五 九、六〇〇	一一一、〇七六 九、〇五七	
阿弗利加洲	五四、五〇九 五、五六一	四二、〇七二 五、三七四	三〇、七八〇 二、二八〇	二五、一三八 二、二一一	二二、六四五 二、三八六	一八、九三六 一、九六八	
計（其他共）	二、八六五、九二三 八六二、九九四	二、二二一、五六九 五六五、一八五	一、七二五、二二二 三六八、七五八	一、六六九、七四二 三一八、一四四	一、五九〇、四七四 二八六、一六三	一、六四〇、〇〇一 二七四、三七三	

右表の%を見るに

		一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
數量	歐羅巴洲	三四・二	二六・五	二二・六	一九・九	二〇・四	二二・四
	亞米利加洲	八・三	八・四	六・六	五・九	七・四	六・〇
	亞細亞洲	五一・七	五七・二	六一・三	六六・三	六〇・一	六〇・四
	濠洲	三・四	五・二	六・九	五・八	七・五	六・八
	阿弗利加洲	一・九	一・九	一・八	一・五	一・四	一・一
金額	歐羅巴洲	四五・七	四〇・八	三九・三	三五・四	三三・九	三六・三
	亞米利加洲	一〇・九	九・五	六・九	五・五	六・八	七・七
	亞細亞洲	三九・七	四五・三	四九・六	五五・〇	五四・六	五一・六
	濠洲	二・九	三・二	三・三	三・二	三・四	三・三
	阿弗利加洲	〇・六	一・〇	〇・六	〇・七	〇・八	〇・七

四、國別品種別輸入統計表

一九三四年に於ける品種別國別輸入統計表を掲ぐるに第二表の如し。

備考　一九三五年度は尚未詳とす。左表單位は千盾にして金銀、旅客具、郵便小包は含まず。

五、港別輸入狀況　（單位千盾）

港名	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
スラバヤ	一三九、六四五 （三五・九）	八七、五九三 （三四・七）	七三、六〇六 （三三・八）	六二、四二二 （三三・〇）	五八、二一七 （三二・九）
パタビヤ	一三一、六八二 （三三・八）	八六、〇八〇 （三四・〇）	七七、三五三 （三五・六）	七〇、四五五 （三七・二）	七〇、〇二六 （三九・五）
スマラン	七七、七二四 （二〇・〇）	五〇、三五四 （一九・九）	四二、九〇三 （一九・七）	三六、七九三 （一九・四）	三一、九二二 （一八・〇）
チエリボン	二六、七九四 （六・九）	二二、〇九二 （八・七）	一九、四一六 （八・九）	一六、三〇二 （八・六）	一三、九一九 （七・九）
テガル	三、四五一 （〇・九）	一、五二九 （〇・六）	八八四 （〇・四）	六九七 （〇・四）	七三五 （〇・四）
プロボリンゴ	一、二五四 （〇・三）	四九五 （〇・二）	一四五 （〇・一）	三一 （一）	七二 （一）
チラチヤップ	四、三五四 （一・一）	二、四八二 （一・〇）	二、〇七八 （一・〇）	一、六七六 （〇・九）	一、四七一 （〇・八）
パスルアン	八四七 （〇・二）	四四一 （〇・二）	一九三 （〇・一）	一七五 （〇・一）	一三九 （〇・一）
パナルカン	一、二九一 （〇・三）	五〇一 （〇・二）	三一九 （〇・二）	五二一 （〇・三）	三六一 （〇・二）
ペカロンガン	二、三〇二 （〇・六）	一、一五九 （〇・五）	四八三 （〇・二）	二六九 （〇・一）	三〇二 （〇・二）

バニユワンギ	一四六（一）	三六（一）	四〇（一）	二七（一）	二二（一）
其他爪哇各港計	三（一）	一（一）	八（一）	一（一）	一（一）
爪哇計	三八九、四九三	二五二、七六二	二一七、四二八	一八九、三六九	一七七、一八七
ペラワン	四三、九四五（二五・〇）	二七、四四九（二三・七）	二三、六五四（二三・五）	二三、二四九（二四・〇）	二一、五六三（二二・四）
パレムバン	一九、七一五（一一・二）	一一、二三五（九・七）	九、五一四（九・四）	一二、八九九（一三・三）	一三、八七九（一四・四）
マカツサル	一七、二九四（九・八）	一二、三三六（一〇・六）	一二、二五九（一二・二）	一〇、七〇三（一一・一）	一一、四三四（一一・九）
ポンチアナ	六、四二六（三・七）	四、四二六（三・八）	三、八〇九（三・八）	三、三八八（三・五）	？
パダン	一二、九三一（七・四）	八、三七七（七・二）	七、三五三（七・三）	六、八六三（七・一）	六、四四一（六・七）
バンジヤルマシン	二、七九二（一・六）	二、〇五八（一・八）	一、九〇一（一・九）	一、八五七（一・九）	？
メナド	五、三三二（三・〇）	四、二一七（三・六）	三、六八二（三・六）	二、一五八（二・二）	三、〇六八（三・二）
其他外領各港計	六七、二五七（三八・三）	四五、八九八（三九・六）	三八、五四四（三八・三）	三五、六七七（三六・九）	？
外領計	一七五、六九二	一一五、九九六	一〇〇、七一六	九六、七九四	九六、一八三

備考　括孤内に示せるは夫々爪哇並に外領に於ける輸入額とす。

右に明らかなるが如く、輸入貿易に於てバタビヤが漸次重要性を加へ一九三三年以來スラバヤを凌駕し、一九三五年に於ては其の較差特に顯著となれり。注目さるべき一事とす。

第　一一　表

（一五〇頁參照）

品種別	日本（鮮魚含不）	和蘭	坡嘉新	國英	邊邊獨	國米	ユニ及洲濠ドンラージ	度印領英	支那	港香
綿織物（含サロン）	四、六三四	六、二六	二、七四四	二、六六一	二、七四七	九、六五三	四、八六一	三三	二、四三五	二、四七七
食料品	二、三五五	四、〇四四	四、六四二	四、四四	八、七七〇	九、六五三	四、八六一	三三	二、四三五	二、四七七
織物（綿織物以外）	一〇、四七五	一、一三三	一、一〇一	一、二四五	景四	六	景六四	三四	二四五	二、四七七
鐵鋼及同製品	一、一三五	五、〇六	八、六	二、三五〇	四、〇〇〇	景、三九五	景五四	五	二六	二四七
紙及同製品	一	一、五三五	六四二	六〇	一、〇五四	一、三五〇	九	景五三	二	二
煙草	二、三四	二、九六	二、六四四	一、六六〇	四、六四八	一、三五〇	一、三五〇	四、六四八	二、三四	二、三四
藥品及藥劑	一、三五四	九六	一、三七四	一、三五	二四	四四	一、三五	四四	一、三五	一、三五
糸及同製品	二、三五〇	一、三五	一、六六	一、六六	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
衣服及流行品	四、八四	六四	三四	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
石油及同製品	一、七四五	一、四三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
染料及塗料	一、四五〇	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
自動車及同部分品	二、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
化學製品	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
鐵及同製品	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
小麥粉	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
自動車用タイヤー	一、九六	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
肥料	三、三五	一、九六	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
陶磁器	一、九六	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
木材及同製品（除家具）	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
皮革及同製品	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
硝子及同製品	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
鋼及鉄同製品	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
石炭コークス	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
石炭ピッチ及部分品	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
瀝青	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
蒸溜酒	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
電球	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
樹脂（松脂及樅脂）	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
纖維石炭寸ス	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
玩具	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
メーキヤツスト	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
ミユーム及同製品	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
アルミニユーム及同製品	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
楽器	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
植物性油	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
脂器具	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
火具材料	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
花梨材	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
建築材	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
鐵道	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
其他	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
計	九二、八〇〇	三五、九四三	三二、六四四	八、三四	七、四三五	六、一七	三、三五	二、七四	六、六三	一、六六
%	三三、六六	三三、七三	三一、三三	八、三四	七、四三五	六、一七	三、三五	二、七四	二、三四	一、六六

| | | |

第三節　輸出貿易

一、品種別輸出貿易

單位千盾

	一九三一年	一九三二年
動植物製品	三五、六八〇 一〇、三六二	三五、三一五 一二、九七〇
膠　謨	三一二、七四六 八二、六三四	二五四、四六二 三四、〇一二
藥料、香料	九〇、四一四 三七、六四三	九五、七〇四 三二、八三八
珈　琲	七〇、〇五六 二四、一六八	一一五、七三四 三五、一九五
植物性油脂及原料	五〇二、六九三 六七、九〇〇	六六四、一七九 六三、三九九
砂　糖	一、八六四、八三五 一二九、三四〇	一、八八八、〇〇四 九九、二五四
煙　草	八三、二七〇 五一、〇六〇	七六、〇五二 四六、八三〇
タピオ製品	一九五、七一四 一二、〇七八	二二九、七九九 八、八九五
茶	八九、七八四 五九、九七二	八九、五〇〇 三二、五四九
植物纖維類	九五、五六八 二三、一四二	一一三、一〇五 一六、六四六
別揭以外の農產物	七七二、五六六 四三、五五九	七一三、六七四 三二、六七〇

	一九三三年	一九三四年	一九三五年
動植物製品	一九三、四八一 一三、二六五	二九、〇六一 九、六八三	二九、八三五 九、六五六
膠　謨	三五七、五七三 三七、八四九	四七〇、七八一 八八、八四三	三一〇、七三二 六九、九九八
藥料、香料	一〇五、一九二 二七、五二三	一一一、二六三 二九、〇三七	一二六、四三四 二五、八五〇
珈　琲	七二、二六三 二五、六三一	八三、二五一 二二、五〇三	八二、八八三 一八、六五三
植物性油脂及原料	七〇四、五二七 六、二二二	六二九、六八〇 二九、五四〇	七三一、六八四 四五、一二一
砂　糖	一、三八九、〇八八 六二、一二七	一、三八八、四六〇 四五、四六二	一、四一〇、二六五 三五、九八四
煙　草	五〇、一三二 三二、〇〇五	四五、六八七 三七、〇〇五	五〇、六七三 三五、七四三
タピオ製品	一七四、六二一 八、五六三	一四七、四〇二 七、一四一	一五九、七六四 六、九〇四
茶	八一、四九七 二六、三六三	七二、九〇五 四四、八八九	七四、四七五 三六、七〇八
植物纖維類	一二一、六三二 一六、三九九	九四、二五二 一二、二〇九	一二四、九八一 一四、二三九
別揭以外の農產物	六二三、六三九 二六、五三〇	六二七、一六一 二二、〇三九	七四九、一八四 二二、九二六

鑛油及同製品	三、八八八、八八〇	四、二二一、九四〇	一四七、〇九二	九八、四九一	
セメント及鑛産物	八一、四一三	九八、四九九	四〇、八九二	一、一四八	一〇六二
其他	四、七四三	五八、一四九	三、〇四一	二五、三八〇	
再輸出品	九、四五九	一、九六一	三、八六五	三、三二三	
計	八、〇九七、八二一	八、五七〇、七四七	七四六、七五五	五四一、三七五	

備考　政府輸出を含む。金銀及郵便小包旅客具を不含。

二、仕向國別輸出狀況

單位同前

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
和蘭	五八六、五四一	五四一、〇七四	一五一、五八八	五六〇、一七九	五六四、四〇五	
新嘉坡	一七七、八六五	一三〇、四三二	八六、七二三	一〇四、三二七	一〇五、八五二	
米國	二、七六三、五五六	二、〇六〇、〇三八	一、八三七、八二七	二、〇六九、四七二	二、〇七七、〇四八	
	二四六、〇一二	一四一、〇九〇	九〇、〇九一	八九、八一四	六六、七四六	
	三一六、〇八四	三七七、二五五	四一九、七七六	四四〇、六八一	四四〇、五九〇	
	一四一、五四五	八七、九二三	五五、五八七	五四、五一六	六三、五五一	
英國	三六五、三〇四	四五八、〇六九	七〇五、〇四二	五二一、八一二	五三〇、八二二	
	九六、三五六	六八、五四七	四八、三八〇	二五、九六七	三〇、五三九	
日本	六八五、四七三	六〇八、六三一	七六八、四三二	八四三、六二九	七九四、六三一	
	四六、二三三	三三、〇五一	二三、六二七〇	二二、七八〇	一九、四二七	
英領印度	一、三六六、六一五	八三七、五七六	六四九、二六五	五〇〇、一〇九	一、〇四七、〇二三	
	一三二、八四一	五八、一四六	三八、二四一	二四、二一〇	一四、一四八	
佛蘭西	一一九、一七二	一二九、五九四	二五、〇〇七	二五三、四四五	二五、三四七	
	三三、〇五七	二三、四五二	一九、六三〇	一七、二〇六	一四、四七二	

備考　政府輸出を含む。金銀及郵便小包旅客具を不含。

二、仕向國別輸出狀況

單位同前

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
和蘭	六七五、三五八	六二〇、五〇六	五五一、八七〇	五五、七六四	四一〇、〇三〇	
	三七、七六四	三三、九〇二	一九、九〇八	一四、二三二	八、三四一	
支那	五六五、一五〇	四一三、一八五	三七、一〇一	一、一四〇	一、一四〇	
	四三、七八八	二三、四九一	三、九四四	一、一四〇	一、一四〇	
獨逸	一一八、三四二	一二一、三二三	一五九、〇二四	一五、〇九一	一、一四〇	
	二四、五〇二	一六、六九九	一二、四八六	一、一四〇	一、一四〇	
丁抹	六三、一三六	七一、七三三	一四五、一六〇	一、一四〇	一、一四〇	
	一三、一三五	九、八二〇	七、四五八	一、一四〇	一、一四〇	
伊太利	二一、七八〇	二九、六六〇	七一、三六五	一、一四〇	一、一四〇	
	九、〇三三	五、五四一	七、四〇二	一、一四〇	一、一四〇	
白耳義	二六、四四二	四六、五五五	五九、二一一	一、一四〇	一、一四〇	
	五、四八〇	五、八一六	五、一四七	一、一四〇	一、一四〇	
埃及	六四、八一九	一八、三七二	九三、五七二	一、一四〇	一、一四〇	
	四、一六二	三、二八二	六、二三七	一、一四〇	一、一四〇	
彼南	一一三、五八九	一〇八、五四七	九一、三四三	一、一四〇	一、一四〇	
	一六、九六五	一〇、一四一	五、二五五	一、一四〇	一、一四〇	
計（其他共）	九、九七八、八七七	八、〇九七、八七三	八、四九四、三一五	九、〇〇三、七八一	九、三七五、五〇一	
	一、一五七、二一七	七四七、一六一	四六七、八九二	四八、四八三	四五〇、七七五	

備考　政府輸出を含む。金銀及郵便小包旅客具を不含。

右輸出に於ける主要國の%を見るに左の如し。

數量	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
和蘭	五・九	六・七	六・〇	六・一	六・二	六・〇
新嘉坡	二七・七	二五・四	二一・五	二〇・九	二三・〇	二二・二
米國	三・二	四・七	四・九	五・二	三・九	四・七
英國	三・七	五・七	八・二	四・七	五・八	五・七

金

	歐羅巴洲	亞米利加洲	亞細亞洲	濠洲	阿弗利加洲	計(其他共)逸及品質	埃及佛領爾薩	英領印度本國	英領米新和蘭	英領佛蘭西	埃及佛領爾薩	計(其他共)逸及西
一、												
一九三〇年	一、五四七、九四三、〇五三、五三八	一、一六六、〇六〇、一九八、〇四五	一、三五七、一九〇、一六二、一三二	一、四五九、〇二二、九一四	一、一八九、〇二一、五一〇	一、三五一、〇二一、七二六	一、一八九、〇二一、九一四	一、四五九、〇二二、五一〇	一、一六六、〇六〇、一九八	一、三五七、一九〇、一六二	一、四五九、〇二二、五一〇	一、三五一、〇二一、七二六
二、												
一九三一年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一
三、												
一九三二年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一
四、												
一九三三年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一
一九三四年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一
一九三五年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一

三、仕向地方別輸出概況

單位千磅

	歐羅巴洲	亞米利加洲	亞細亞洲	濠洲	阿弗利加洲	計(其他共)逸及品質	埃及佛領爾薩	英領印度本國	英領米新和蘭	英領佛蘭西	埃及佛領爾薩	計(其他共)逸及西
一、												
一九三〇年	一、五四七、八六一、九七八	一、一六六、〇六〇、一九八、〇四五	一、三五七、一九〇、一六二、一三二	一、四五九、〇二二、四一〇	一、一八九、〇二一、五一〇	一、三五一、〇二一、七二六	一、一八九、〇二一、九一四	一、四五九、〇二二、五一〇	一、一六六、〇六〇、一九八	一、三五七、一九〇、一六二	一、四五九、〇二二、五一〇	一、三五一、〇二一、七二六
二、												
一九三一年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一
三、												
一九三二年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一
四、												
一九三三年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一
一九三四年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一
一九三五年	二、〇四七、八六一、九七八	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、四九九、〇二一、四一〇	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇四七、八六一、九七八	二、一四七、七〇三、〇二一	二、〇三七、一八九、七一三	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一	二、一四七、七〇三、〇二一

四、國別品種別輸出統計表

金額

	歐羅巴洲	亞米利加洲	亞細亞洲	濠洲	阿弗利加洲
一九三〇年	一、三三一、八	一、一三一、四二一、一	七〇、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三一年	一、三六〇	一、一三一、四二一、一	六三、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三二年	一、三三九、九	一、一三一、四二一、一	五四、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三三年	一、三三九、一	一、一三一、四二一、一	五三、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三四年	一、三四一、一	一、一三一、四二一、一	五二、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三五年	一、八三、三	一、一三一、四二一、一	五三、一二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一

右表の%を見るに

	歐羅巴洲	亞米利加洲	亞細亞洲	濠洲	阿弗利加洲
一九三〇年	一、八三、三	一、一三一、四二一、一	七〇、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三一年	一、八九、九	一、一三一、四二一、一	六三、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三二年	二、〇三、三	一、一三一、四二一、一	五四、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三三年	二、〇三、二	一、一三一、四二一、一	五三、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三四年	二、〇四、一	一、一三一、四二一、一	五二、〇二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一
一九三五年	一、八三、三	一、一三一、四二一、一	五三、一二一、五	一、四九、九	一、一三一、四二一、一

備考 政府輸出を含む。金銀、旅客貨、郵便小包を含まず。

一九三四年に於ける品種別輸出統計表を掲ぐるに第三表の如し。（單位千盾）

備考　本表には金銀、旅客具、郵便小包を含まず。

五、主要物産輸出統計表

玆に、蘭領印度主要物産につき、最近五ケ年の仕向地別輸出狀況を表示するに第四表の如し。（單位ネット噸）

備考　＊印は風袋込みとす。

六、港別輸出統計

輸出狀況を主要港について見るに、次の如くバタビヤを首位としスラバヤ之に次ぐ。（單位千盾）

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
スラバヤ	一〇〇、六九八 （二八・七）	七三、二七二 （二九・一）	五〇、六九六 （二六・四）	四五、六九六 （二三・九）	三九、六五四 （二一・三）
バタビヤ	一〇三、〇一八 （二九・四）	五九、三八四 （二三・六）	五五、九三八 （二九・二）	七五、四九九 （三九・五）	七八、三九一 （四二・一）
スマラン	五八、〇三五 （一六・六）	四六、八五二 （一八・六）	三一、〇七六 （一六・二）	二五、二〇三 （一三・二）	二八、四三一 （一五・三）
チエリボン	七、四〇三 （二・一）	七、四三七 （三・〇）	六、七五三 （三・五）	五、三五四 （二・八）	六、三〇三 （三・四）
テガル	九、二五六 （二・六）	五、三五二 （二・一）	五、六五二 （二・九）	三、六三三 （一・九）	三、三一一 （一・八）
プロボリンゴ	一六、七五八 （四・八）	一四、六四四 （五・八）	一〇、三六三 （五・四）	六、九一三 （三・六）	六、八三三 （三・七）